

活動年鑑 14

2018.5- 2019.4

青年技術士交流委員会

活動年鑑 14-2018.5 - 2019.4

目 次

- ・ 青年委員会 2018 年度活動報告
- ・ 広報 G 活動報告
- ・ 例会 G 活動報告
- ・ 国際 G 活動報告

[例会活動報告書]

- ・ 2018/5 英語企画「Your English can improve more and more by speaking up !」
- ・ 2018/6 拡大委員会、懇親会、テクノツーリズム：「千葉県立現代産業科学館」
- ・ 2018/7 Dreams Project「平成 30 年度 夏休み子供理科教室」
→ 台風接近により 2019 年 3 月に延期
- ・ 2018/8 部門横断企画「インフラガイドツアー」（建設部会、日本大学と合同開催）
- ・ 2018/9 部門横断企画 講演・見学会「防災の日！ 防災を学んで大災害に備えよう！」
- ・ 2018/10 内部向け企画「例会振り返り企画」
「六ヶ所村見学会」（慶応技術士会）
- ・ 2018/11 部門横断企画「ディベートで学ぶ、話し合いの技術」
- ・ 2018/12 部門横断企画「会議のコツ ～働き方改革の決定版～」
「学生と技術士の対話会」（慶応技術士会との共催）
- ・ 2019/1 英語企画「CAFEO 報告、Let's talk in English ! Let's interact !!」
- ・ 2019/2 修習ガイダンス 2019「パネル討論」
- ・ 2019/2 部門横断企画「青年よ大志を抱け！若手技術コンサルタント開拓セミナー」
- ・ 2019/3 部門横断企画「ライフラインから仲間と創る自分のロードマップ（再）」
- ・ 2019/3 Dreams Project「平成 30 年度 春休み子供理科教室」
→ 前年 7 月に中止になったもの
- ・ 2019/4 合格者向け企画「一次・二次試験合格者交流会」

[国際交流活動報告書]

- ・ 2018/5 HKIESC（香港技術士会 学生支部）の来日支援および交流
- ・ 2018/10 タイのエンジニアとの交流
- ・ 2018/11 CAFEO35/YEAFEO24
- ・ 2019/5 INTERNATIONAL YOUNG ENGINEERS EXCHANGE FORUM 2019

[サッカー&テクノ活動報告書]

- ・ 2018/6 統括本部サッカー練習会とテクノツーリズム
- ・ 2018/9 統括本部、北陸本部サッカー交流試合及びテクノツーリズム
- ・ 2018/10 第 14 回 日韓親善サッカー大会（第 48 回 日韓技術士国際会議）
- ・ 2018/12 日韓サッカーお疲れ練習会
- ・ 2019/3 北陸本部サッカー合同練習会

[地域本部活動報告書]

- ・ 統括本部
- ・ 北海道本部
- ・ 東北本部
- ・ 北陸本部
- ・ 中部本部
- ・ 近畿本部
- ・ 中国本部
- ・ 四国本部
- ・ 九州本部

青年技術士交流委員会統括本部 2018 年度活動報告

青年技術士交流委員会 委員長 諸田敦洋

青年技術士交流委員会は、研修委員会の下部組織であり、各部会から推薦された委員・委員補佐により構成されている。また、委員には各地域本部より推薦された地域本部委員も含む。本会運営への青年層の参画及び国内外を問わず技術者間の“交流”を通しての研鑽を実施している。

2018 年度の主な活動を以下に記す。

1. 各種例会の開催

青年技術士交流委員会の例会は、主として、参加者自身がアウトプットすることを通して研鑽できる場、参加者同士が交流できる場を提供しており、グループワークや講演会、テクノツーリズム、スポーツ交流を毎月 1 回以上の頻度で開催した。

2018 年度も昨年度に引き続き、一次・二次試験合格者が 4 月の特別例会まで継続して参加でき、スムーズに入会に至れる動線の強化を築いた。

準備状況、当日の状況といった各活動の内容については青年技術士交流委員会 HP に公開した。

2. 特別例会

2018 年 4 月 14 日に青年技術士交流委員会主催『一次・二次試験合格者交流会（特別例会）』を開催した。

参加者の専門性をアピールできる場として「東京五輪開催に向け技術を活かした課題解決」をテーマに、社会貢献活動に関するグループワーク企画を開催した。

各チームに分かれて行ったグループワークの結果および活動報告は青年技術士交流委員会 HP に公開した。

3. 小学生対象理科教室の開催

2019 年 3 月 23 日に春休みの小学生を対象に「理科教室」を開催した。（当初 2018 年夏に開催予定であったが、台風のため春に延期となった）

「光の不思議 - 顕微鏡をつくろう!」と題し、工作実験を通じて子どもたちに科学の楽しさを伝えることを主目的とした。また、各小学校への広告のビラ配布などを通じ、一般の方々に対し技術士の知名度向上を図った。

理科教室では参加者へ「光の特徴」に関する講義を行い、講義内容を踏まえた工作実験として、ペットボトルを利用した顕微鏡を作ることで理解の定着を図った。

当日の様子は青年技術士交流委員会 HP に公開した。

4. 各地域本部の青年技術士交流委員会との交流

2018年6月9日に各地域本部との交流会議を開催するとともに、2018年11月11日に福島市で開催された技術士全国大会において青年技術士交流委員会による分科会へ参加した。その中で各地域本部の青年技術士交流委員会の活動内容を共有した。

本年度開催される全国大会（徳島）においても、各組織との交流を継続する。

青年層は企業内技術士も多く、出張や異動転勤などに伴う地域間の移動もあることから、各地域本部の青年技術士交流委員会とのネットワークを活かし、青年層技術士のサポートにも努めていく。

5. 国際交流活動

2018年10月17日～10月19日に日本（神戸）で開催された日韓技術士会議のサッカー親善試合の開催支援を行った。本年度、韓国（高陽）で開催される日韓技術士会議のサッカー親善試合について準備を進めている。

2018年11月12日～11月14日にシンガポールで開催されたASEAN 技術者協会連合国際会議『CAFE036 YEAFE025』への参加者派遣の支援を行った。本年度、インドネシアで開催される『CAFE037 YEAFE026』について準備を進めている。

CAFE0・YEAFE0における国際交流を契機に、二国間交流として、5月に香港技術士会の学生支部、10月にタイの技術者、11月にシンガポールの技術者の来日時に企業や大学への見学の企画、アテンドなどを行った。

国際委員会からの依頼を受け、英国機械技術者協会と日本技術士会が2018年12月6日に開催する合同講演会に北陸本部の委員が講演者およびパネリストとして参加した。

上記の他、国際委員会と連携した日豪交流の準備、FEIAP（The Federation of Engineering Institutions of Asia and the Pacific）、WEC2019（World Engineers Convention Australia）への参加準備を進めている。

6. 部会などと連携した例会の開催

2018年8月18日に建設部会と共同企画し、家族と同伴で参加が可能な例会を開催した。

「インフラガイドツアー」と題し、「橋」をテーマに、日本大学理工学部まちづくり工学科の教授をツアーガイドとして迎え、橋や建物などの解説をしていただきながら隅田川周辺を探索した。現地に行って、現物や模型を見ながら解説していただくことで小学生から技術士まで幅広い層が理解できる例会を提供した。

2019年2月16日に「青年よ大志を抱け！若手技術コンサルタント開拓セミナー」と題し、若手独立技術士4名による講演会を開催した。

参加者の年齢を45歳以下に限定し、講師に若手独立技術士となった目的や経緯、実情、今後についてワークショップを含めて講演いただくことで、青年層技術士のキャリアパス形成を図った。

7. 家族参加型例会の開催

2018年9月15日に家族と同伴で参加が可能な例会を開催した。

「防災の日！防災をまなんで大災害に備えよう！」と題し、家族と一緒に参加しやすい『防災』

をテーマに、技術士による防災に関する講義および「横須賀市民防災センター あんしんかん」を見学することで防災意識の維持・向上を図った。

家族参加型とすることで、普段は家族サービスで日本技術会への例会に参加できない層の参加を促すことができた。

8. 研修委員会所轄委員会行事への協力

2019年2月9日開催の「技術士を目指そう、修習ガイダンス2019」～技術士第一次試験合格者・JABEE認定課程修了見込者（修了者を含む）～において、パネル討論会を企画・運営し、受験に向けたモチベーション向上や日本技術士会への入会促進にも繋げる活動の道筋を築いた。

また、昨年度と同様にガイダンス後の合格祝賀会も開催し、参加者間や参加者と我々日本技術士会のメンバーとの交流を促進した。

9. 産学連携の取り組み

2018年10月26日に慶應技術士会が主催する六ヶ所村の原燃PRセンター及び核燃料貯蔵・再処理施設の見学に統括本部・東北本部の青年委員合わせて10名が参加した。

普段、直接関わることはない核燃料サイクルや地層処分の知見を広めるだけでなく、原子力・放射線の分野で活躍するシニア技術者と若手の技術者の交流を深めることができた。

2018年12月8日に慶應義塾大学で対話会（慶應技術士会と連携）を行った。

これにより、学生へ技術者の実情や魅力を伝え、今後の進路検討時の参考情報を提供した。

また、技術士資格および日本技術士会のアピールも行った。

10. 情報配信の取り組み

青年技術士交流委員会活動をより深く身近に理解していただくために、2018年度青年技術士交流委員会活動年鑑を制作した。

また、青年技術士交流委員会のホームページ、Facebookに加え、今年度からTwitterを活用し、活動紹介、主催行事の事前広報及び事後報告を積極的に行った。

上記の活動を企画・実施するため、毎月の運営委員会を青年層の参加しやすい土曜日を中心に開催した。

以上

青年委員会 2019 年度 広報グループ活動報告

広報グループリーダー 横田 敬久

1. 目的

青年技術士交流委員会(以降、委員会)の広報円滑化、およびメンバー間の情報共有を主目的として、ウェブを主軸に据えた活動を実施した。

2. 今期の活動と成果

1) 日本技術士会の同報メール、ホームページ、および月刊技術士誌への CPD 行事予定の情報発信

日本技術士会の広報媒体である同報メール、ホームページ(engineer.or.jp)、月刊技術士誌を使用し、例会開催情報等を発信した(行事内容の詳細は例会グループ報告参照)。日本技術士会リソースによる包括的な事前周知、およびウェブの行事参加申込機能の活用により、参加者管理業務の効率化を引き続き進めた。

2) 委員会内部用途の、情報共有設備の維持および改善

昨年に引き続きファイル共有システム ownCloud、メーリングリストシステム Mailman・イベント申し込み者への通知システム RainLoop、ホームページ・ブログシステム WordPress(レンタルサーバー上に構築)を維持・活用し、委員会内部の円滑な情報共有を促進している。本年度からの変更点か以下である。

- ・サーバーのディスクサイズを圧迫しがちなイベントの写真管理をファイル共有システム ownCloud から Google フォトへの移動と管理を行う方針にした。

3) 委員会外部に向けた、広報活動への取り組み

昨年度に引き続き、イベント参加希望者および潜在候補者に対して「漏れなく、かつ親しみやすく分かりやすい」情報提供を目指し、各種改善を行えるように環境を整えている。本年度の改善については、以下の通りである：

- ・青年委員の Twitter アカウントを新たに作成し、新たな広報の告知方法として追加した。

3. サイトの統計情報の分析

1) Wordpress の統計情報

Wordpress によるアクセスの統計情報を分析した。アクセス数は順調に増えている知名度向上につながっていると言える。

■ アクセス数

アクセス数が 2000 を超える月が発生するようになってきている。

ビュー数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2017 年	977	1,303	1,973	1,974	1,093	1,248	1,198	872	699	742	885	985	13,949
2018 年	1,208	1,016	3,039	2,250	1,470	1,440	1,236	1,247	1,039	984	1,271	1,990	8,592
2019 年	1,550	1,271	1,604	1,499	—	—	—	—	—	—	—	—	

■ リファラの情報（全期間）

昨年同様に検索エンジンや Facebook からの移動が多いが、新たに新設した Twitter アカウントにより Twitter のランキングが上がっているので一定の効果があったと思われる。

移動元のページ	移動数
検索エンジン	9,558
日本技術士会	3,732
Facebook	2,984
blog.goo.ne.jp(旧ブログ?)	459
アンドロイドアプリ	409
DOCOMO 検索エンジン	73
Twitter	70
seigikon.jp(近畿青年技術士懇談会)	70
pejp.webspace.ne.jp	47
ipej-chugoku.jp/seinen/(青年委員会 中国本部)	41
ja-jp.facebook.com(他の青年ページ・個人ページ?)	38
mail.google.com	34
AU 検索エンジン	27
以下(社内ネット・Web メール等)	25

■ ビュー数（全期間）

昨年とほぼ同様の傾向だがトップページにはタイムラインで新しい記事表示されるのでビュー数が多くなり、次いで、委員名簿や活動報告などのページが意外と多い。国際活動関係・英語イベントや理科教室のページの人気が高く他のウェブサイトがらの遷移されたものが継続的に増加していると思われる。一方、新しい記事の個別ビューは伸び悩んでいる。

ページ名	ビュー数
ホームページ / アーカイブ	42,197
委員名簿	2,489
About Us	1,248
活動報告	1,145
活動概要	619
国際交流活動	568
技術士とは	430
FAQ	386
3 月イベント 未来の自分を考える&架空のアイデアコンテスト	271
【御礼】第 43 回技術士全国大会（横浜）青年の集い	257
【御礼】5 月イベント-課題解決手法の体系とその応用:クロス SWOT 分析を用いた技術者としてのキャリア戦略作成演習-	254
【御礼】6月イベント:Can't stop talking! How to keep an English conversation flowing 及び青年委員会国際グループ活動報告	240
12/11 学生向け小イベント「技術者と話せるカフェ」のお知らせ	191
【3 月イベント 準備状況】一次試験合格者向けイベントのお知らせ	172
〔技術士会青年委員会12月イベントのご案内〕	157
【対象:小学生】7/30(土)技術士による夏休み理科教室・工作実験	148

2) Google Analytics の分析

昨年について Google Analytics による分析を実施した。
機能が若干異なってしまったため、検索キーワード分析は削除した。
国別、デバイス別、性別、年齢別に以下になった。

- ・ 海外からの検索が結びついていないのは英語ページが少ないためと考えられる。
- ・ デバイスは PC とモバイルがほとんどでタブレット利用者はほとんど居ない。
- ・ 年齢はほぼ男女同数だった。
- ・ 年齢は若手から青年層がほとんどのため、若手・青年の需要は満たしていると考ええる。

■ 国別

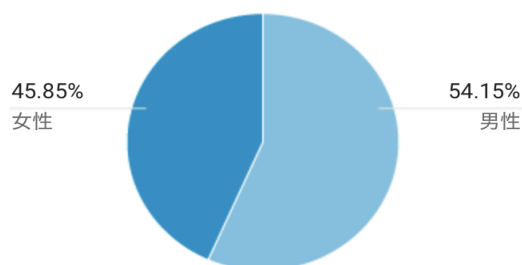
国	ユーザー比率	新規ユーザー
日本	89%	50%
米国	3%	3%
中国	1%	1%
インド	1%	1%

■ デバイス別

デバイス	比率
PC	54.7%
モバイル	43.8%
タブレット	1.5%

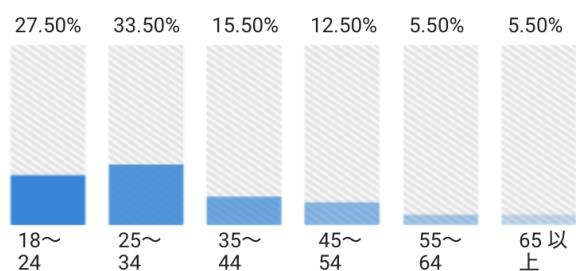
■ 性別

性別 合計セッションの 100%



■ 年齢別

年齢 合計セッションの 100%



3. 今後の活動・展開

既存媒体を活用した広報活動により、着実なベースアップ（知名度向上、新規参加者獲得等）とともに、委員会活動の円滑化に貢献できたと考える。今後は、以下の項目について議論を深め、委員会活動の更なる飛躍に向けたサポートを行う。

- ・ 例会準備の進捗確認に Redmine のチケットシステムによる情報共有を検討する。
- ・ 多言語化ページを充実させ国際的な広報活動の強化を行う。
- ・ 地域本部と広報活動における連携強化を検討する。

以 上

例会グループ活動報告(2018 年 5 月～2019 年 4 月)

例会グループリーダー 赤木 宏匡

1. グループメンバー(敬称略、順不同)

白井、太田、瀧川、道家、中川、諸田、小塚(隆)、臼井、清水、井口、後藤、鈴木、赤木

2. 活動目的

今期は、“例会運営の負荷軽減”を目的として活動した。

また、例会グループの具体的な仕事は、前期と同様に以下の 5 つとした。

- ・ 例会準備が順調に進んでいるかの確認
- ・ 外部アンケートの実施と集計
- ・ 内部アンケートの実施とまとめ
- ・ 前月例会アンケートの振り返り、改善提案、周知、マニュアルへの反映
- ・ 例会担当に ownCloud 整理依頼

3. 活動報告

2018 年度に実施した例会は以下のとおりである。

実施年月	分類	例会
2018 年 5 月	英語	Your English can improve more and more by speaking up!
7 月	Dreams	光のふしぎ -顕微鏡を作ろう- ⇒台風接近により 2019 年 3 月に延期
8 月	部門横断	インフラガイドツアー
8 月	内部	例会決め大会
9 月	部門横断	防災の日！防災を学んで大災害に備えよう！
10 月	内部	例会振り返り
11 月	部門横断	ディベートで学ぶ、話し合いの技術！
12 月	部門横断	会議のコツ ～働き方改革の決定版～
2019 年 1 月	英語	CAFEO 報告、Let's talk in English! Let's interact!!
2 月	修習向け	修習ガイダンス「ポスターセッション」、「パネル討論」、「合格祝賀会」
2 月	部門横断	青年よ大志を抱け！若手技術コンサルタント開拓セミナー
3 月	修習向け	ライフラインから仲間と創る自分のロードマップ(再)
3 月	Dreams	光のふしぎ -顕微鏡を作ろう-
4 月	合格者向け	一次・二次試験合格者交流会

今期はメンバーの入れ替わりのない期であるため、定番企画を充実させつつ、より技術者の基礎知識として必要な事項を充実させるための新たな例会を複数実施した。8 月例会では、家族向けに橋の構造を歩きながら学ぶインフラガイドツアーを中央大学阿部研究室にご協力いただき開催した。9 月例会では、横須賀市民防災センターを見学しながら防災について考える会を開催し、2 カ月連続で家族向け企画とした。12 月例会では会議を円滑に運営するための知識を共有するとともに、それらを応用した会議シミュレ

ーションを実施した。さらに2月は例会決め大会で設定していない例会を有志メンバーで追加実施した。2月は、若くして技術士を取得し独立された方々に講師をお願いし、若手技術者のキャリアを考える場を提供した。45歳以下限定で有料の例会としたが、多くの若手技術者に集まっていた。

定番企画においては、11月にディベート企画を開催し、技術士にとって大切な技術者倫理をテーマとすることで、ディベートを学ぶだけではなく、技術者倫理を考える場とした。1月は英語企画を開催し、ビジネスでは常識となった英語スキルの向上を目指し、文法を気にせず発声することを目的として各種ワークショップを実施した。3月の修習技術者向け企画では、昨年好評であったライフラインという考え方を再度使用し、参加者に過去の棚卸しと今後の人生設計について考えていただける場とした。4月の一次・二次合格者交流会では、寸劇でグループワークの説明を行う等、より参加者に楽しんでいただける環境づくりに努めた。なお、4月例会の主担当者は前期に同例会に参加し、その後青年技術士交流員会のメンバーになった者が担当した。その主担当者が緊張しつつも楽しそうに司会進行をしているのを見た参加者からは委員会への参加を希望する方が多くいた。

また、例会内容を充実させるため、10月の内部企画において、過去に実施した例会を振り返り、今後の例会に反映すべき反省点を抽出するなど、さらに例会を充実させるヒントを委員会内で共有した。併せて例会運用の負荷を軽減するため、例会マニュアルを実運用に合わせて改訂するとともに、2018年7月に実施予定の例会が台風接近で中止となったことを受け、緊急時対応マニュアルを新たに整備した。併せて例会準備シートのテンプレートを作成し、準備における検討漏れを防ぐとともに、準備品質を標準化した。

4. 次年度に向けて

今年度の実績を基に、次年度も参加者に喜んでいただけるとともに青年技術交流委員会メンバーの自己研鑽に資する例会の企画を試みる。そのため、外部アンケート、内部アンケートをまとめるとともに委員会メンバーからの意見を集約しつつ、議論を行う場を例会決め大会で提供することを目指す。

また、例会グループの基本活動である例会のサポートを確実に行うだけでなく、例会実施時にかかるメンバーの負担を軽減することを目指す。毎月実施する例会には多大な負荷がかかるが、定型化できる部分が多くあると考える。例えば、交流会用に毎回調査しなくてよいように会場リスト、ケータリング業者リストを整備することとアンケート集計ツールの開発である。それらを定型化し軽減することで、より重要な例会運営に注力できるような環境づくりを行う予定である。

以上

2018 年度国際グループ活動報告

国際グループリーダー 萩尾 友治

1. グループメンバー

諸田、横田、田角、高橋、白井、鈴木、竹内、田中(仁)、河野、栗野、明山、滝口、小和田、萩尾

2. 活動目的

本グループは下記業務を円滑に進め、参加者相互の親睦を深める活動を行うことを目的とする

- (1) 公益社団法人日本技術士会の企画立案に対する提言及び協力
- (2) 若手技術士の国際感覚の醸成に向けた研鑽事業の企画・実施
- (3) 諸外国の技術者組織間の国際交流の推進
- (4) 技術者向け国際会議への参加
- (5) 公益社団法人日本技術士会の各地域本部のメンバーに対する国際活動機会の提供

3. 活動報告

3-1 日韓技術士国際会議

2018/10/17～19 に神戸市で開催された日韓技術士国際会議に参加。会期中の 17 日(水)に行われた第 14 回日韓親善サッカー大会に選手として参加し、日韓の若手技術者の信頼関係を構築した。また、18 日(木)の第 3 分科会にて「国際活動を通じた若手技術者の育成」と題して発表を行い、韓国の技術者と意見交換を行うことで青年委員会としての国際活動の方向性を策定した。

3-2 CAFE036/YEAFEO25 とタイの技術者の来日支援

2018/11/11～14 にシンガポールで開催された CAFE036/YEAFEO25 に IPEJ-YEC として 25 名で参加。Start-Up Challenge、Country Report、Farewell Dinner 等に参加した。海外の技術者および参加者同士の交流を実施。ASEAN における日本技術士会のプレゼンスを示した。また、CAFE0 参加をきっかけに昨年のホスト国であったタイの技術士会のメンバーの来日支援を、建設部会の協力を得て実施。日本国内での国際活動機会の創出および日本の技術力のアピールが出来た。

3-3 HKIE SC(香港技術士会学生支部)の来日支援および香港技術士会 青年交流国際会議への参加

2018 年 5 月の HKIE SC の来日支援として大学や工場の見学の調整、アテンドを実施。来日支援をきっかけに招待された、2019/4/25～27 開催の HKIE 主催の国際会議に参加。鉄道インフラおよび IPD・CPD に関するプレゼンを実施。各国の現状と問題が把握でき、日本技術士会の今後の方針の参考情報を得ることが出来た。

4. 今後の計画

World Engineers Convention 2019@オーストラリア、日韓技術士国際会議、CAFE037/YEAFEO26 へ青年委員を派遣予定。若年層、地方からの一般参加者を増やすことを目指し、広報活動に工夫を行う。各国とのコミュニケーションを積極的に行い、国際社会での日本技術士会の存在感をアピールする。

以上

例会活動報告書

行事名	5 月例会：CAFE035 公費派遣者の派遣報告 および 英語ワークショップ “Improving English by Speaking Up More ! ”
日時	2018 年 5 月 19 日(土) 13:30-17:45
場所	機械振興会館 6 階 会議室 D-4
講師	Steven Ashton (スティーブン・アシュトン) 氏
担当者： (○:主担当)	○田中委員、田角委員、明山委員補佐
参加者数	参加者： 30名、スタッフ： 16名

1. 背景・目的

本例会は、青年技術士交流委員会の例会の中で人気があり、リピーターの多い、定期開催の英語ワークショップである。今回で開催は 6 回目となる。講師はこれまでも務めていただいた英国人講師 Steven Ashton 氏に依頼した。これまで初級者クラスを対象としたワークショップを行ってきたが、今回は新たな取組みとして、中級者クラス以上を対象に、英語力強化を目的とした Speaking および Listening に焦点を当てたワークショップとした。また、昨年 11 月に青年委員会国際 G より公費派遣者他 13 名により参加した ASEAN 技術者組織会議 (CAFE0) について、公費派遣者 3 名の派遣報告を初めての試みとして全員英語で実施し、若手技術者の国際感覚を醸成すると共に、青年委員会の活動への理解と興味を深め、同活動への参加者を獲得することを目的とした。

2. 例会内容

例会は第一部「青年委員会活動紹介, CAFE0 参加報告および参加者募集」、および第二部「講師による英語ワークショップ」の 2 部構成で実施した。

《第一部：青年委員会活動紹介, CAFE0 参加報告および参加者募集》

2-1. オープニング&開会挨拶 (田中委員、諸田委員長) [13:30-13:35]

田中委員から本イベント参加への御礼述べ、写真撮影可否等の諸注意を説明した。

諸田委員長からは、自身のアメリカ留学の経験を踏まえて「とにかく話す」というメッセージが送られ、会自体のモチベーションが上がった。

2-2. 例会の目的, スケジュール説明 (田中委員) [13:35-13:40]

本例会の企画意図およびスケジュールを説明した。

2-3. 青年委員会の紹介 (田角委員) [13:40-13:45]

青年委員会の概要を説明し、参加者からは「サッカーは日本と韓国のどちらが強いのか」等の多くの質問を受けた。

2-4. 国際グループの紹介 (田中委員) [13:45-13:50]

国際グループの活動目的および実際の活動について実例を挙げて紹介した。参加者からは「CAFE0 ではどのような技術議論が行われているのか」等の質問を受けた。

2-5. CAFE035 参加報告 (萩尾委員、白井委員、明山委員補佐) [13:50-14:20]

昨年タイで行われた CAFE0 について、公費派遣者 3 名による参加報告を行った。今回は、英語ワークショップと同時開催であったため、初めて英語による参加報告に 3 名共チャレンジした。

CAFE0 の概要や、CAFE0 で他国の技術者との会話内容について、実例を挙げて紹介した（詳細は Appendix 参照）。また、CAFE0 に参加することで他国の技術者とのつながりが出来ること等のメリットも説明した。参加者からは他国は日本のどのような文化に興味があるか等の質問を受けた。

2-6. CAFE036 案内 (明山委員補佐)[14:20-14:30]

今年シンガポールで開催される CAFE0 の内容を説明した。今後参加希望のメンバーに向けて、CAFE0 概要、参加費用、日程等の詳細説明した上で、参加希望者を募集した。また、10 数年にわたり CAFE0 に参加している本間氏から、「近年日本からの CAFE0 での技術発表が減り、日本のプレゼンスが低下している、是非技術発表をしてほしい」とのコメントがあった。

休憩時間 [14:30~15:00]

《第二部：講師による英語ワークショップ》

2-7. 講師の紹介 (田中委員) [15:00-15:05]

講師の経歴について紹介した。

2-8. 講師によるワークショップ (Steven 講師) [15:05-17:30]

今回は英語中級者を主対象とし、「Improving English by Speaking Up More!」をテーマとした。

過去回と同様に会場の机を取り払い、全員による握手・挨拶に始まり、常に会場に動きのあるワークショップであった。ペアワークでは、互いにパートナーの秘密を共有したり、絵の描いてあるカードのストーリーを考えて話し合ったりと、盛りだくさんのコンテンツであった。3 組の参加者がカードのストーリー作成のペアワーク内容を全員の前で発表した。終始参加者全員が英語を話し、聞き、非常にアクティブなワークショップであった。

2-9. クロージング (田中委員) [17:30-17:45]

ワークショップの閉会を宣言し、参加者およびワークショップ運営・登壇スタッフで、記念撮影を行った。

その後、参加者にはアンケートの記入を依頼した。

2-10. 交流会 (Steven 講師、青年スタッフ、参加者等) [18:00-20:00]

同会場でケータリングを手配し、交流会を開催した。Steven 講師、参加者 24 名、青年メンバー 11 名、講師の知り合い 3 名の合計 39 名が参加し、交流を深め、盛会となった。

3. 成果と所感

[第一部：青年委員会活動紹介、CAFE0 参加報告および参加者募集]

- ・ 司会～発表までほとんど英語で行った。発表者、聴講者ともに英語学習の意欲喚起を行うことができた。参加者からの質問は日本語、英語の両方で行われ、多くの質問が挙がった。
- ・ 発表内容について、聴講者からは「全資料が欲しい」、「日本語の字幕を付けてほしい」とのコメントがあった。
- ・ CAFE0 に関する説明会では、実際の他国の技術者との会話内容を会話形式で紹介した。実際の CAFE0 での様子や雰囲気伝わり、より理解が深まったものと思われる。CAFE0 に参加したいという聴講者も多かった。聴講者からは「CAFE0 と実業務とのつながりを教えて欲しい」とのコメントがあった。また、10 数年にわたり CAFE0 に参加している本間氏からの現状について、「もう少し詳しく話を聞きたかった」とのコメントがあった。

[第二部：講師による英語ワークショップ]

- ・ 第二部ではSteven 講師によりペアワークやグループワークが行われた。Steven 講師には毎回安定した素晴らしいワークショップを行っていただいております。参加者からのアンケートでは 96%が“満足”と回答している。参加者同士の英語による積極的な会話が行われ、レスポンス力及び持続力向上のトレーニングが実現できた。
- ・ 参加者は終始笑顔で、まさに英語を“楽しむ”ことができた。
- ・ 一部参加者からは「ついていくのが精いっぱいであった」とのコメントがあったものの、「青年スタッフの日本語補助説明を受けて、ワークショップを理解し、楽しめた」とのコメントをいただいた。

[全体を通して]

- ・ 今回は英語力を強化させるという趣旨のもと、委員長の挨拶、国際グループ紹介等、ほぼ英語にて実施した。参加者からの質問・回答については英語・日本語の両方で行うことで、誤解を生まないように努めた。
- ・ 英語ワークショップ後は交流会を開催し、英会話を実践する機会とともに、交流する有益な場を参加者に提供できた。
- ・ 参加者募集は、4 月例会参加者や過去英語例会参加者に優先案内を行った。本例会の参加者 30 名のうち、4 月参加者が 10 名、過去英語例会参加者が 4 名と、青年イベントリピーターが半数を占めた。参加者から「スタッフの皆さんに会いにきた」とのコメントがあった。リピーターの青年イベントへの参加を促すためには、優先案内は非常に有用な手段である。
- ・ 開催前日にリマインドメールを送ることで、当日のキャンセルも少なく、参加者数は目標の 30 名ちょうどであった。参加者からも「前日にメールでお知らせがあったことはよかった」とのコメントがあり、リマインドメールの効果が高いことを再認識した。
- ・ 多くの参加者から「楽しかった」、「来てよかった」、「継続して開催してほしい」というコメントがあった。その一方で、初級レベルの参加者からは「青年スタッフからのフォローはあったものの、英語を完全に理解するのは難しかった」とのコメントがあった。毎年「初級向け」、「中級向け」の計 2 回の英語イベントを開催してほしいとのコメントもあった。

4. 今後の展開

- ・ 青年メンバーが英語で司会や発表をすることは、青年メンバーの自己研鑽、聴講者の英語学習の意欲喚起にもつながると考える。これまでは英語での発表者が半数程度に留まっていたが、今回全員が英語で発表出来たということは新たな成果であり、今後も可能な限り英語での発表を推奨していきたい。ただし、英語レベル初級の聴講者のために日本語字幕の用意や、日本語補助説明をすることも必要である。
- ・ CAFEO 報告については、今後は詳細な CAFEO のバックグラウンド、会議で議論される技術的な内容紹介や、実業務とのつながり等についても説明できればと考える。青年メンバーだけでは分からない情報については、長年 CAFEO に参加している技術士会員から発表いただいても良いかもしれない。
- ・ Steven 講師のワークショップの事前準備については、講師との密なメール連絡や事前打ち合わせが、より良いワークショップ開催に繋がるため、今後も講師との密な連絡や事前打ち合わせを実施したい。リピーターが多い場合は講師がワークショップ内容を変更するため、ワークショップ開催の 1 週間前、前日と、講師に参加人数、リピーター人数を連絡する。
- ・ Steven 講師のワークショップ当日については、英語レベルが初級の参加者のために、今後も青年スタッフが日本語補助を行う。
- ・ 参加者から「英語イベントをもっと頻繁に開催してほしい」、「初級向け、中級向けの計 2 回の英語イベントを開催してほしい」とのコメントもあった。今後は「初級向け」、「中級向け」の計 2 回の英語イベントを開催することも考えてみたい。
- ・ 交流会では日本語のみの会話になってしまうので、英語のゲームをしたり、英語で自己紹介をしてもらう等をしてもらっても良いかもしれない。

- ・ 今後も継続的に Steven 講師との英語ワークショップをしたいと考えている。英国人気質として長いお付き合いを好まれる傾向があり、前青年委員の紹介により安い価格でお引き受け下さっていることと考える。今回のように交流会に講師と縁のある元青年メンバーを誘うことは Steven 講師との親交上必要なことである。
- ・ 動きのある例会なので、次回はもう少し広めの会場にしたい。
- ・ 英語例会に限らず、以下については全例会に該当することである。
 - 参加者へ前日にリマインドメールを送ることはドタキャン対策に有効であるため、今後も行う。その際に例会受付時間と開催時間を明記する。
 - スムーズな例会進行のために、パワーポイント発表等の PC 操作の事前確認を行う。
 - 集合写真撮影時の全員がスムーズに写真におさまるようなレイアウトを検討する。
 - 同例会会場にて青年スタッフが待機するため、スタッフの話し声や出入りに注意する。
 - 空調をはじめ、ゴミの廃棄方法等、機械振興会館ルールを明文化し、青年メンバーで事前に共有する。
 - スムーズな会場の机・椅子のレイアウト変更のために、スクリーン投影等でレイアウトを表示する。
 - 参加者が気持ちよく過ごせるように、懇親会中に青年メンバーで適宜ゴミの片付け等を行う。

5. 実施状況

会場の様子



諸田委員長の挨拶



萩尾委員、白井委員、明山委員補佐による CAFE035 の報告



明山委員補佐による CAFE036 の紹介



Steven 講師によるワークショップ



集合写真



以上



CAFEO35 REPORT

Young Engineers Committee
Institution of Professional Engineer, Japan
(IPEJ-YEC)

IPEJ-YEC

1

Contents

- Overview of CAFE0/YEAFEO
- Purpose of participation
- About CAFE035/YEAFEO24
- About Thailand
- Detailed of CAFE035/YEAFEO24
- Country report
- Impressions of participants

IPEJ-YEC

2

Overview of CAFE0/YEAFEO

- What is CAFE0/YEAFEO?

CAFE0

Conference of ASEAN Federation of Engineering Organizations.

YEAFEO

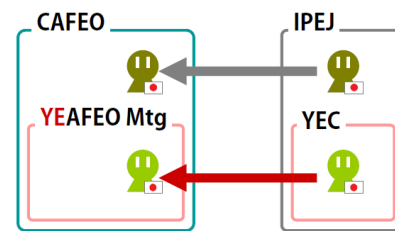
Young Engineers of ASEAN Federation of Engineering Organizations.

IPEJ-YEC

3

Overview of CAFE0/YEAFEO

- What is CAFE0/YEAFEO?



IPEJ-YEC

4

Purpose of participation

- Cultivation of international-minded young engineer
- Networking with engineers in ASEAN countries
- Prompt of bilateral interaction

IPEJ-YEC

5

About CAFE035/YEAFEO24

Meeting : CAFE035 /YEAFEO24

Date : 2017/11/16~18

Place : Queen Sirikit National Convention Center(QSNCC), Bangkok, Thailand

Date	Program
11/16	AM [CAFE0/YEAFEO] Registration
	[CAFE0] Working Group
	[YEAFEO] Technical Visit (G-Tower)
	PM [YEAFEO] MTG
	[CAFE0/YEAFEO] Opening Ceremony
	[CAFE0/YEAFEO] Welcome Dinner
11/17	AM [CAFE0] Country Report
	PM [YEAFEO] Country Report & Exchange of Souvenirs
	[YEAFEO] Networking
11/18	AM [YEAFEO] Outdoor Activities
	PM Free Time
	[CAFE0/YEAFEO] Farewell Dinner

IPEJ-YEC

6

About Thailand

Country name : The Kingdom of Thailand
 Capital city : Bangkok (**Krungthep**)
 กรุงเทพมหานคร อมรรัตนโกสินทร์ มหินทรายุธยา มหาดิลกภพ นพรัตนราชธานี
 บุรیمی อุดมราชโกสินทร์ มหาสถาน อมรพิมาน อวตารสถิตย สักกทิตยัตนุกรมบรรณประสิทธิ์

Land : about 513,120km²
 Climate : air temp 29°C,
 humidity 73%
 (yearly average)



IPEJ-YEC

7

About Thailand



IPEJ-YEC

8

About Thailand

Traffic



Food



IPEJ-YEC

9

Detailed of CAFE035/YEAFE024

Conversation 1



- ▶ With an engineer from Myanmar
- ▶ "Hi! I am from JAPAN."
- ▶ "I went construction site of the second Tomei highway, when I was a university student. It was a JICA program. Thanks to JICA, I learned a lot in JAPAN. Since then, I would like to work for JAPAN some day."
- ▶ "Great! Civil engineer is very cool. Where did you go in JAPAN?"
- ▶ "I went Tokyo and Nagoya. I want to go Kyoto next time."
- ▶ "Please come to JAPAN again! We will welcome you!"

Detailed of CAFE035/YEAFE024

Conversation 2



- ▶ With an engineer from Malaysia
- ▶ "I am a Professional Engineer in Japan (Chemistry), working in a Chemical Lab in Tokyo as a R&D staff. I am in charge of High-end resin materials for semiconductor industry, raw materials of digital devices, and I wrote some patents."
- ▶ "Such work is unusual around me! Cool!"
- ▶ "Last year, I went business trip to China main land. Suzhou, Hefei, (around Shanghai, Southern region) and Shijiazhuang (around Beijing, Northern region). Air pollution was serious in northern China. The weather forecast informed the pollution status every day. I was wearing a mask with vent valve all the time. How about air pollution in Malaysia? I haven't heard of it yet."
- ▶ "Sometimes smog comes from Indonesia. But it's not serious. There is not much industry in Malaysia. I wish the industry in Malaysia developed like China."
- ▶ "I think so too, but air pollution is not good. I got sick after the business trip."

Detailed of CAFE035/YEAFE024

Conversation 3



- ▶ With an engineer from Thailand
- ▶ "I want to go to OONSEN! It's famous Japanese culture. But there is NO-ONSEN in Thailand."
- ▶ "Wow! OONSEN! Of course I like it!"
- ▶ "Everybody naked in KONYOKU. Is it true?"
- ▶ "Everything is not so, but it's true. You'd better not expect it. Most women are over 60's."
- ▶ "I can't believe it. It must be exciting! I'm wondering where I will go."
- ▶ "There are many OONSEN in Japan. Last month I went Yuda OONSEN in Yamaguchi. Not KONYOKU. If you want to go to KONYOKU, I recommend Gunma Pref. There is English Guide for Foreign tourists, so many people coming by couple. Best season is winter. The snowy valley is great. I will send you a link."
- ▶ "Thanks! I can use google translate automatically, so Japanese is OK!"

Country report



IPEJ-YEC

13

Impressions of participants



I could know the culture of the ASEAN countries.

IPEJ-YEC

14

Impressions of participants



I got motivation to study English

IPEJ-YEC

15

Impressions of participants



I've got a friend here.
I keep in touch with the friends on SNS.

IPEJ-YEC

16

Let's interact !



IPEJ-YEC

17

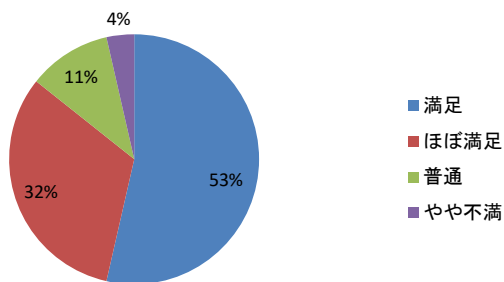
Let's go to CAFE0 36



IPEJ-YEC

18

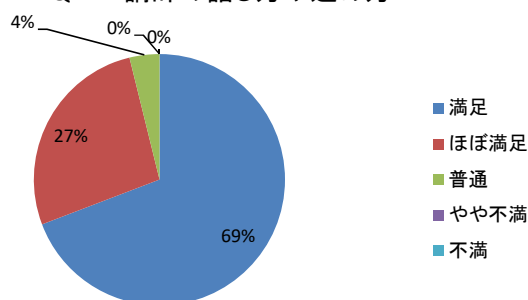
Q1-1 発表者の報告



Q1-2 発表者や国際グループへの要望

- ・ masaruさんの説明より前にCAFEO・YAFEOの趣旨を伝えてほしかった
- ・ プレゼンにユーモアがあった
- ・ スライドと発表者が被る場面があった
- ・ 英語の発表であったことがよかったと思う
- ・ 全資料がほしい。(日本語ver含む)技術力の低下に関する講演は印象深かった。
- ・ CAFEと業務のつながりを教えてほしい
- ・ 日本語の字幕がほしい

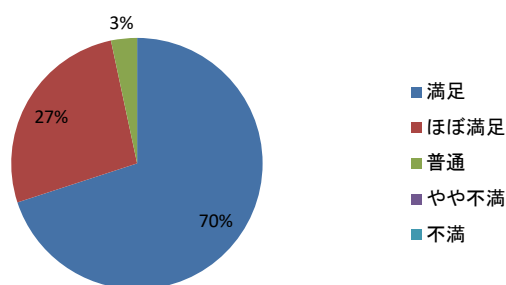
Q2-1 講師の話し方や進め方



Q2-2 講師に伝えたいこと(コメント)

- ・ 楽しい時間をありがとうございました。
- ・ 写真を組み合わせてストーリーを作る課題は想像力の養成につながってよかった。
- ・ 追いつくのが精いっぱいだった
- ・ 楽しい時間でした。アイスブレイクも上手でした。
- ・ 楽しい時間でした。
話し方がよかった

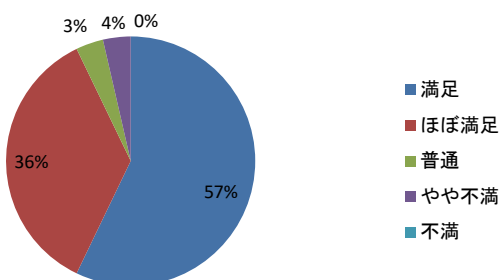
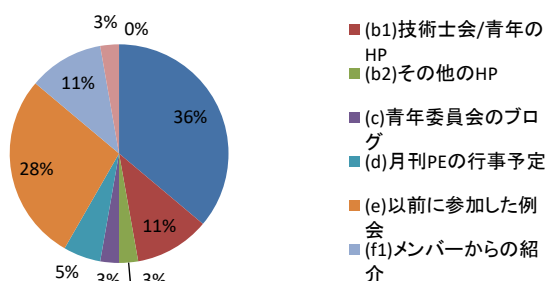
Q3-1 スタッフの対応



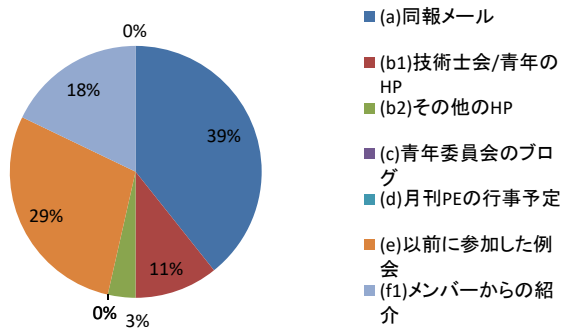
Q3-2 スタッフに伝えたいこと(コメント)

- ・ 良い会を続けてください
- ・ 語学学習の意欲を高めるきっかけになった。
- ・ 追いつくのが精いっぱいだった
- ・ 前日にメールでお知らせがあったことはよかった。
- ・ セッション1の最後に話をされた方の講演を聞きたい。

Q4 全体として

Q5-1 例会をどのように知り、参加したか?
(複数回答)

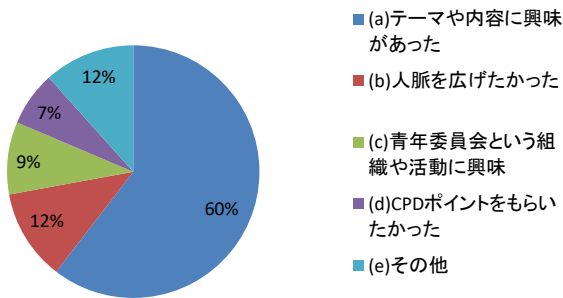
Q5-2 特に参加のきっかけとなったもの



Q5 その他の内容

- ・ 青年委員の声がけ

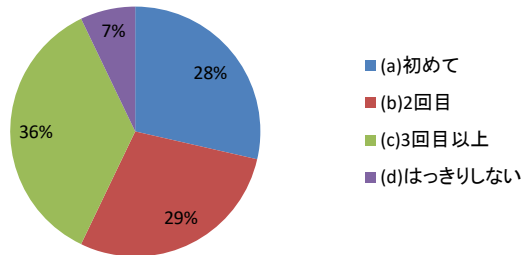
Q6 参加目的



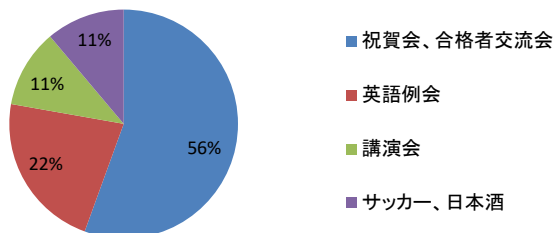
Q6 その他の内容

- ・ 英語力向上
- ・ 英語ボランティアの訓練
- ・ スタッフの皆さんに会いにきた

Q7-1 青年の例会参加回数



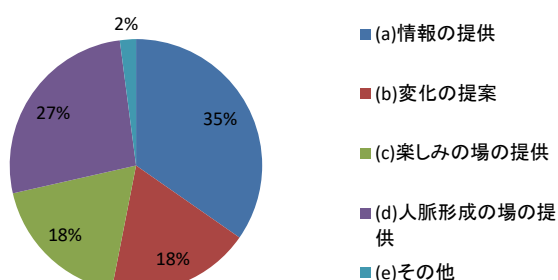
Q7-2 過去に参加した例会で、象深かったテーマ
(2回目以上参加者)



Q7-3 内容以外についての希望

- ・ 期待以上でした。また来たいと思います。
- ・ イベント初参加となります
- ・ 使用した資料のアップロード
- ・ 技術的な講演

Q8-1 今後開催してほしいイベント



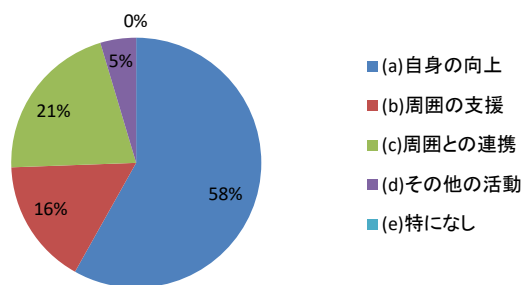
Q8-1 コメント

- (c) ゲーム会(学びと合わせる)
- (c) 懇親会
- (d) 国際交流
- (e) ビジネス、起業
- (e) 語学講座をもっとやってほしい
- (e) 何でもいいので、他業種の人と触れ合う場

Q8-2 内容以外の希望

- ・ できるだけ週末に実施してほしい
- ・ 土曜開催が望ましい

Q9 本業以外の活動について(複数回答)

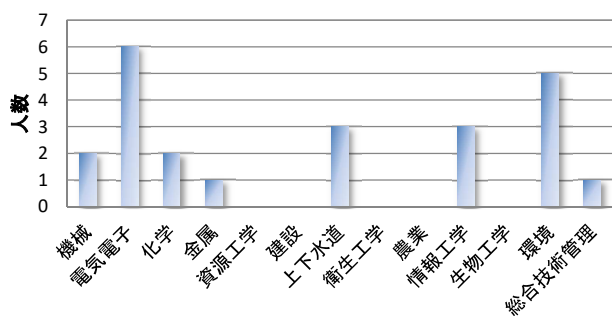


Q9 具体例

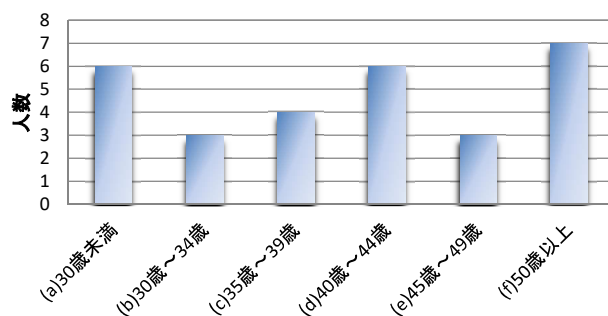
具体例

- | | |
|----------------|--------------|
| (a) 資格取得 | (c) 地域対象ゼミ |
| (a) 部会の例会 | (c) CPD講演会 |
| (a) 英会話教室 | (c) 見学会 |
| (a) 学会発表 | (c) 神奈川支部交流会 |
| (a) APECエンジニア | (d) ラジオ |
| (b) 料理会 理科教室 | (d) 社内技術士会 |
| (b) 簿記勉強会、 | |
| (b) 100年村,地域交流 | |

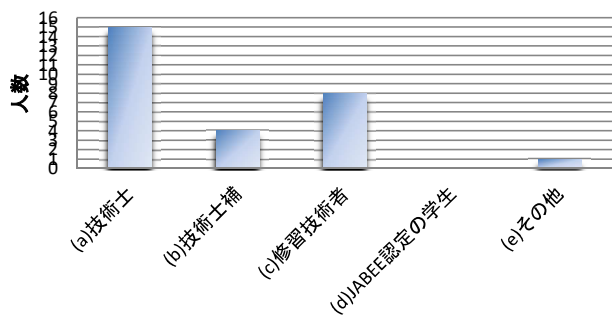
Q10-1 部門



Q10-2 年齢層



Q10-3 会員層



行事名	6 月例会:拡大委員会と懇親会
日時	2017 年 6 月 9 日(土) 拡大委員会 13:30-17:30 大懇親 1 次会 19:00-21:00、懇親 2 次会 21:30-23:00
場所	拡大委員会: 機械振興会館 地下 3 階 研修-1 会議室 大懇親会: 貸切個室×OAKS 御茶ノ水 2 次会:ポータルカフェ アキバ
講師、発表者	拡大委員会 総会:司会 鈴木委員、議長 諸田委員長 地域本部活動報告:仁田委員長、齋藤委員長、小酒委員長、石川委員長、 宮西委員長、三角委員長、池谷委員長、永岩委員長
担当者: (○印:リーダー)	○諸田、白井、横田、萩尾、太田、瀧川、道家、小塚、鈴木
参加者数	拡大委員会:51名、懇親1次会:60名、懇親2次会:38名 ※懇親会にはOB/OG 7名含む

1. 背景・目的

地域本部間の情報共有と交流を目的とし、拡大委員会での地域本部活動報告および懇親会を実施した。

2. 例会内容

2. 1. タイムスケジュール

13:30-14:20 総会

14:30-17:30 地域本部活動報告 & 集客・広報で工夫していること / 写真コンテスト

19:00-21:00 懇親 1 次会 / 名物メンバーコンテスト

21:30-23:00 懇親 2 次会

3. 成果と所感

◆拡大委員会

拡大委員会(総会)は、滞りなく議事に沿って進行した。昨年度の統括本部における活動内容と収支実績、および今年度の活動予定と予算に関して全委員から承認を得た。一部でもう少し詳しく伝えた方がよい項目があったので、次回に反映させる。

◆地域本部活動報告 / 写真コンテスト

統括本部および各地域本部から昨年度の活動報告と、「集客・広報で工夫していること、効果があった方法」を共有した。HP や SNS、ポスター、チラシといった通常の広報は元より、外部メディアや外郭団体との連携など、様々なチャネルを通じて集客・広報を行っていること分かり、今後の委員会活動に役立てられることを期待する。

写真コンテストにおいては、統括本部および各地域本部から例会やイベントで撮影した至高の写真 1 枚をエントリーしてもらい、投票による順位付けを行った。1 枚の写真とはいえ、各本部の雰囲気、カラーが良く伝わり、委員、委員補佐の密な交流に大変役立った。

◆懇親 1 次会

1 次会は翌日のテクノと拡大委員会の場所を踏まえ、秋葉原近辺の会場で実施した。地域本部の方はホテルにチェックインしてから来られるケースが多く、集合時間に間に合わない方がいらっしまった。拡大委員会が終わってから 1 時間では余裕がなかったため、委員会の終了時刻、移動時間、ホテルのチェックインの時間を含めた配慮が足りなかったと反省している。懇親会では交流を活発にするために半立食形式とした。イベントは「各地域本部の名物メンバー対決」を実施した。各地域本部、とても個性的なメンバーを紹介していただき、各地域やメンバーを知るきっかけになったのではないかなと思う。プレゼンは盛り上がったが、人の紹介に順位はつけられないという方針で、じゃんけんで優勝者を決めたのであるが、別の方法を模索するべきであった。料理と飲み物の時間を把握できておらず、参加者の皆様にはご迷惑をかけてしまったことも反省点である。

◆懇親 2 次会

2 次会は、駅から近い場所にしようと 4 月特別例会でも使用した会場を設定した。2 次会にもかかわらず、大勢参加していただいたため、会場を貸切にすることができ、周囲に気を使うことなく交流活動が実施された。

4. 今後の展開

統括本部は来年 6 月で委員が大幅に入れ替わる。そのためにも全国大会や CAFEO/YEAFEO を始めとした各種イベントや例会を通じて各地域本部の委員、委員補佐とのさらなる交流を図り、円滑に代替わりができるよう努める。特に、各種イベントや例会においては、1 期目の委員に積極的に主幹事を担当してもらうなど、前面に出てもらうことを期待する。

5. 実施状況

前述の日程、タイムスケジュールに沿って拡大委員会を実施し、以下の写真のように密度の濃い交流ができた。

1) 拡大委員会



2) 統括本部および地域本部活動報告 / 写真コンテスト



3) 懇親 1 次会



4) 懇親 2 次会



以上

行事名	6 月例会:テクノツーリズムおよび BBQ 懇親会
日時	2018 年 6 月 10 日(日) テクノツーリズム 10:00~12:00 BBQ 懇親会 13:15~15:15
場所	テクノツーリズム:千葉県立現代産業科学館 BBQ 懇親会:両国テラスカフェ
担当者: (○印:リーダー)	諸田、白井、横田、萩尾、太田、道家、小塚、鈴木、○瀧川
参加者数	テクノツーリズム:42名 BBQ懇親会:41名

1. 背景・目的

展示や実験を通じて産業に応用された科学技術を体験的に学ぶこと、共に学ぶことで青年メンバーの交流を深めることを目的に、テクノツーリズムを実施した。

2. 例会内容

2. 1. タイムスケジュール等

◆テクノツーリズム

9:30 JR 本八幡駅集合

9:45-10:00 千葉県立現代産業科学館において集合・点呼

10:00-10:50 千葉県立現代産業科学館解説員付き館内見学(2 班に分かれて見学)

10:50-11:00 「アーク放電実験」見学

11:00-12:00 自由時間

12:00 写真撮影・移動

※参加費:200 円

◆BBQ 懇親会

13:15-13:20 乾杯あいさつ

12:35-14:30 食事&歓談、1 期目メンバー紹介

14:45 飲み物ラストオーダー

15:10 締めめの挨拶、片付け・撤収

15:15 解散

※参加費:4,800 円

3. 成果と所感

◆テクノツーリズム

館内解説員を用意していただくなど、千葉県立産業科学館の全面的なご協力のもと充実した見学会となった。生活に身近な科学に関しての歴史から先端技術に至る一連の展示は、見応え十分であった。特にアーク放電実験の見学は迫力があり、好評であった。

また、事前に配布した中川氏、竹内氏、飯田氏、白井氏による千葉県立産業科学館の展示に絡めた専門性の高いコラムが好評であった。

一方、参加メンバーによるフォローもあり大きく混乱することはなかったが、写真撮影時間等について当日に細かなスケジュール表を渡す等のフォローができていなかったことは反省すべき点である。また、最寄り駅から会場まで距離があったこともあり、キャリーケース等荷物をまとめて預かる等の対策を講じる必要もあった。

◆BBQ 懇親会

生憎の雨天となったが、屋内テラス席は解放感もあり、料理も美味しくよい会場であった。

1 期目メンバーの挨拶も行われ、地域間の交流も盛んであった。

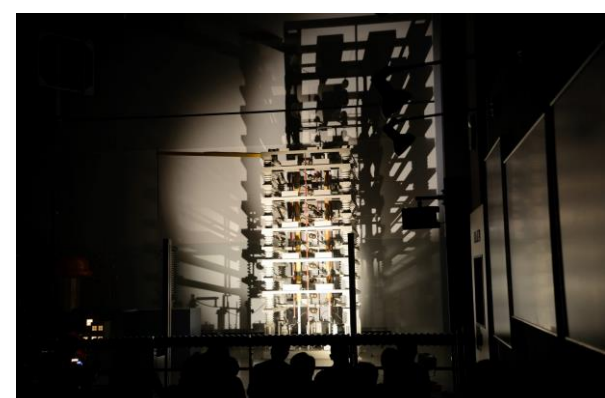
反省点としては、BBQ が早めに終わったこともあり、遠方からの旅疲れやテクノで歩き疲れた地域の方々に椅子を増やしてもらうようお願いすべきであったことが挙げられる。

4. 今後の展開

毎年日曜に開催されることもあり、技術士のイベントとしての内容や交通の便などのニーズに合致したテクノツーリズム会場・BBQ 会場探しは困難である。過去選定の際に候補に挙げた会場の情報や OB のつてなどを整理・一元管理するなどして、スムーズに企画運営するための対応を考えたい。また、これまでの反省を生かして、さらなる充実したテクノツーリズムを目指したい。

5. 実施状況

1) テクノツーリズム



2) BBQ 懇親会



以上

行事名	7 月例会: Dreams Project 平成 30 年度 夏休み子供理科教室 ※台風 12 号による天候不良のため中止
日時	2018 年 7 月 28 日(土) 13:30 - 16:00
場所	滝野川会館(北区) 301+302 集会室
担当者: (○印:リーダー)	○鈴木、下野、山本(恵)、白井、中川、太田、諸田、清水、明山、横畠 (敬称略) オブザーバーとして 6 名参加

1. 背景・目的

- ① 子供達に工作実験を通じて科学の面白さを伝える。
- ② 組織外との交流により、技術士の知名度向上を図る。

を目的とし、小学生を対象にした理科教室を企画したが、台風 12 号の接近により中止とした。
当日までのイベントの準備状況と、今回のような不測の事態において、具体的な対応マニュアルがないため、その対応内容を報告する。

2. 当日までの準備状況

今回の Dreams Project は、化学部会主催の理科教室と同日・同会場で行うことになり、準備作業のうち、広報、受付対応等、効率化が望める作業について、化学部会との共同作業とした。

◇テーマ:「光のふしぎ - 顕微鏡を作ろう」

第 1 部 光の不思議 (講義と実験)

第 2 部 ペットボトルで顕微鏡を作ってみよう (第 1 部をふまえ、顕微鏡を作り観察を行う)

◇最終申し込み状況: 19 名 (小 1: 2 名 / 小 2: 4 名 / 小 3: 8 名 / 小 4: 3 名 / 小 5: 1 名)

◇準備スケジュール(大枠)

項目	日程
会場確保	3/11
テーマ決め	4/30
テーマの試作、検討、検証	5/下旬 ~ 7/21
部材購入 / 実験準備等(当日用)	5/下旬 ~ 7/21
各種資料作成(当日配布用)	7/月上旬 ~ 7/21
各種資料作成(プレゼン用)	7/月上旬 ~ 7/21
レクリエーション保険 ※化学部会担当	7/19
プロモーション(ビラ、ブログ)	6/月上旬 ~ 7/月上旬
受付関係(フォーム、問い合わせ対応等) ※化学部会担当	6/月上旬 ~ 7/下旬
進捗確認(運営委員会報告等)	5/19、6/9、7/21
事後(実施報告、アンケート集計)	8/26

◇最終収支

参加費を小学生 1 人当たり 500 円と設定し、材料費及びレクリエーション保険費に充てる計画であったが、中止となったため、全費目を青年技術士活動支援費から支出することとした。

(単位: 円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
参加費	0	材料費	5,298
※台風 12 号接近のため中止		保険	2,919
		ビラ印刷	3,348
		ビラ送料	2,880
収入計	0	支出計	14,445

3. 当日の対応内容

◇イベント当日は、台風接近のため参加者の安全を優先に中止にした。
その際の対応について報告する。

7/27(金)： 台風接近

参加者へ：次の日の朝 6 時半ごろに実施をどうするか連絡を入れることを通達

スタッフへ：同じく、次の日の朝に連絡を入れることを通達

◇決定の基本方針

・実施するかしないかの決定：当日の気象庁の発表(5時から6時)で決める

特別警報 → 中止

警報 → 中止

注意報 → 諸田委員長と相談の上、決定する

※今回、参加者への連絡は、申し込み窓口をしていただいた佐藤氏(化学部会)に依頼

7/28(土)

・5 時半頃：気象庁から会場のある北区は昼から夜にかけて、雨について警報級(警報に変わる可能性が高い状態)との発表あり。

→ 諸田委員長と相談の上、中止に決定

・6 時から 7 時ごろ：参加者および、スタッフへ中止の連絡

・ブログに中止の追記

なお、午前中は雨、風がまだ弱かったため化学部会主催の理科教室は実施。

4. その他

◇緊急時の具体的なマニュアルがないため、想定していたフローについて

・怪我や事故等が発生した際の対応(迅速に初動対応するため)

深い傷や顔面や東部の切傷等、病院に連れていくべき事故

→ 素人でできる応急止血を施し、すぐ救急車を呼ぶ

・よく職場で「赤チン災害」と言われる軽微な怪我(指先の擦り傷程度)

→ 消毒液、絆創膏、傷テープ、ガーゼなどで対応。ただし、これらの医療用品に含まれる薬剤にアレルギーをもつ子供もいるため、使用は、保護者の方に行ってもらうことを原則とする。スタッフによる使用は禁止。

※Dreams では、中川委員に安全係を担当してもらい、簡単な医療用品を用意してもらった。

・休日対応可能な近所の医療機関の場所、連絡先の把握

・レク保険の使い方の把握(現場写真や診断書が必要かなど)

5. 所感

今回、台風による天候不良のためイベントを中止にした。対象が小学生の子供やご家族ということで安全を第一に優先にした。今回のような不測の事態に備えた具体的なマニュアルがないことに気づいた。また、このような事態が起こる可能性はあるので、いくつかのケースに備えて具体的な方法をまとめておく必要があると考える。

イベント自体は、結果的に残念ながら中止となってしまったが、準備がテーマ決めから少しずつ遅れてしまったことが反省点である。化学部会との共催ということも考えて早めの対応が必要だった。どこかと共催する際には、テーマ認識が一致しないとうまくいかないと感じる。また、分担や責任の所在を明確にし、予算の割り振り等、お互いの共通認識が必要であると感じた。

また、当日の午前中の参加者で、中止となった顕微鏡の方も楽しませてくれた方がいらっしまったので、どこかのタイミングでこのコンテンツを実施してもいいかもしれない。

以上

行事名	8月例会:インフラガイドツアー
日時	2018 年 8 月 18 日(土)
場所	勝どき橋資料館～月島
参加者	諸田、赤木、鈴木、小塚、竹内、山本、白井、瀧川、田角、滝口、後藤、井口、臼井
担当者: (○印:リーダー)	赤木、後藤、井口、道家、○臼井
参加者数	イベント 29名(委員除く) 懇親会 10名(委員除く)

1. 背景・目的

通常の生産現場と異なり特殊な環境でモノづくりを行っている建設現場を見学し、建設業が担う役割を学ぶとともに、使用されている重機や安全管理手法など普段見ることができない仮囲いの中で何が行われているかを学ぶ。また、家族参加型のイベントとすることで、参加者同士の交流を深めるだけでなく、未成年者に技術士の存在を認識してもらう。さらに、建設部会との連携により、各部会とのコラボレーションという新たな例会の可能性を確かめる。

2. 例会内容

当初は工事現場を予定していたが、一般参加者の安全を考慮し、隅田川―月島をめぐる街歩きというテーマで行った。ツアーガイドには日本大学理工学部まちづくり工学科教授の阿部貴弘先生を迎え、橋をテーマに土木施設の歴史や役割などについて解説してもらいながら街歩きを行うという新しい。途中で学生さんによる橋の講義やゲームを行い、子供たちが楽しめるような内容になるよう努めた。なお、8月ということもあり、途中でアイス休憩などを挟んだ。熱中症対策には充分配慮して行った。

2. 1. 受付(13:15～13:30)

主催者側のスタッフには 12 時 45 分に集合してもらい事前に人員配置等の確認を行った。

参加者にはリストバンドを配り、装着してもらうようお願いした。また熱中症対策として塩飴を配った。

2. 2. 挨拶とツアーガイド紹介及び注意事項の伝達(13:30～13:40)

日本大学理工学部まちづくり工学科教授の阿部先生のご紹介と注意事項

2. 3. 出発～勝どき橋～聖路加タワー(13:30～13:40)

勝どき橋の説明後、河川敷を散策。途中聖路加タワーでお手洗い休憩をとった。

2. 4. 聖路加タワー～佃大橋～石川島資料館

聖路加タワーから石川島資料館まで散策。途中、後藤委員による佃大橋の説明を挟む。その後、石川島資料館前の広場にて休憩をとる際、アイスを提供した。

2. 5. 石川島資料館前の広場での阿部先生と学生さんによる講義

佃島での休憩後、中央大橋が見える広場で学生さんと阿部先生による講義。紙芝居とストローを使った講義で子供たちがイメージしやすいよう工夫の凝らされた野外授業を実施。

2. 6. 佃島でのクイズラリー(宝探しゲーム)

佃島にてクイズラリー開始。佃島まちかど資料館前でルール説明を行い、参加者はしおりに記載されているものを探す。青年スタッフにはクイズラリー範囲をパトロールしてもらった。

2. 7. 閉会と記念撮影～懇親会

クイズラリー後、課題をクリアした人には商品としてお菓子を贈呈し、最後は河川敷にて記念撮影を行った。

3. 成果と所感

【企画・準備】

イベントの内容については日大・建設部会側が主体として詰め、事務や安全管理といったサポートを青年スタッフが担当する形となり、全体としては分業化できていた。特に日大側は授業の一環として臨んでおり、学生さんたちも大いに尽力してくれたおかげもあり、充実したイベントとなった。

しかし細かいところでは連携不足があった。日大・建設部会と青年委員とでアウトプットのイメージ(特にイベント内容や準備作業、安全管理)に乖離があり、結果としてしおりの作成等の作業の重複や当日の動きの確認不足等につながってしまったと考えられる。イベントを詰めていく時期(7/4 の合同視察が終わってからの約 1 カ月間)に合同での打合せを行わず、情報交換をあまり行わなかったことが原因であると考えられる。今後共同企画を行う場合、情報交換は密に行う必要がある。

【イベント当日】

＜開催の通達について＞

開催日付近は38℃超を記録する暑い日や台風などが続いていたため、台風時の対応や熱中症対策には十分な準備を行った。特に台風においては7月のDreams担当者(鈴木委員)から、対処方法を引継ぎ、それに倣う形で準備した。熱中症については、「熱中症指数」による判断方法を導入し、開催を前提に注意喚起や休憩の導入によって対処をした。結果的には恵まれた天候(最高気温 29℃)の中行うことができたため特別な対処は不要であったが、外で行うイベントを行う際には予め緊急時の対処方法は十分に確認しておく必要がある。

＜参加者について＞

一般参加者は、名であり、そのうち当日キャンセルは～名であった。当初の予定では20名(家族6組程度)を想定しており、かなり超過していたもののキャンセルがでてしまったため結果としては程よい人数となった。家族対象のイベントは子供の体調が崩れやすいことに鑑み、許容範囲内で多めに募集することがよいと考えられる。

＜イベント全体について＞

イベントは家族主体で練られた内容ではあったが、年齢を問わず楽しめる内容となり、参加者にも十分に満足いただけていた。担当外の青年委員スタッフが参加者に対してアプローチをしてくれたこともあり、散策中に孤立している人はおらず、全体として良い雰囲気のまま終わることが出来た。一方で、通行人や近隣住居への配慮が若干不足していた。今回、街歩きの際は参加者を包囲する形で人員を配置したものの、参加者の行列が乱れてしまい、一般の方の通行を遮ってしまうことがあった。また石川島資料館前の広場にて休憩の際に、人だかりを不審がった付近のマンションの警備員が事情を聴きに来るということもあった。今後野外でイベントを行う際は一般の通行人や近隣住民に配慮する必要がある。また、最後の事務連絡と記念撮影の際に手間取ってしまうことがあったため、こういった細かい部分についても、詰めておく必要があった。

4. 今後の展開

今回の街歩きという新たな形のテクノツアーを完遂したことにより、企画についてのノウハウや参加者の安全管理や緊急事態への対応などの課題など多数の収穫を得た。これらの課題はイベント実施にあたっては重要な項目であるため積極的に取り組みたい。

最も大きな収穫は日本大学の阿部先生や学生さん、建設部会の方とのつながりを持てたことである。阿部先生はこういったツアーは何度も行っているため、引き出しが多く「鉄道など、切り口を変えて実施することも可能」であるとおっしゃっていた。今後も実施したいと考える。

5. イベントの様子

挨拶・講師紹介



ツアー①



ツアー②



ツアー③



後藤委員による説明



アイス休憩



学生さんによる橋の講義①



学生さんによる橋の講義②



佃島でのクイズラリー①



佃島でのクイズラリー②



佃島でのクイズラリー③



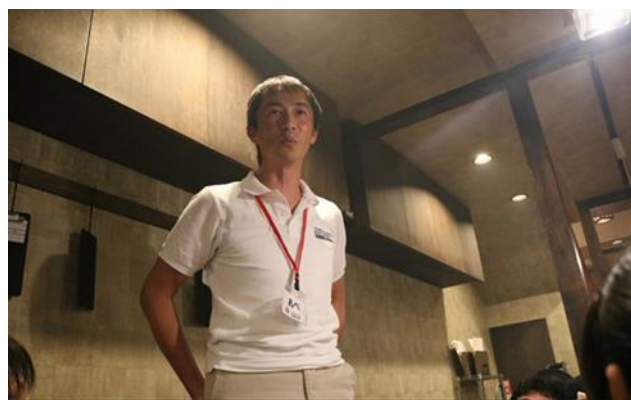
集合写真



懇親会



懇親会

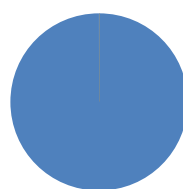


以上

●今回の例会について

Q1-1. 講師の話し方や進め方

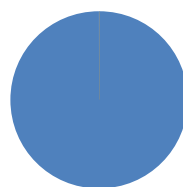
満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	8	100.0
(b) ほぼ満足	0	0.0
(c) 普通	0	0.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	8	100.0



- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q1-2. 講師の用意した資料

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	8	100.0
(b) ほぼ満足	0	0.0
(c) 普通	0	0.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	8	100.0



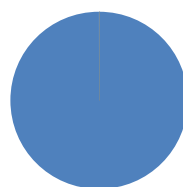
- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q1-3. 講師に伝えたいこと

- ・できれば、今回担当のスタッフと、他の青年委員会の方が見分けられると、疑問に感じた事を個別に質問できたかなと思います。
- ・アイス休憩などを取り入れた 熱中症対策も万全で、素晴らしかったですと思います。
- ・説明の声がもっと通ると良かったです。

Q2-1. スタッフの対応

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	8	100.0
(b) ほぼ満足	0	0.0
(c) 普通	0	0.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	8	100.0



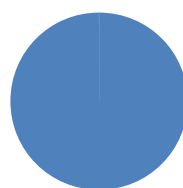
- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q2-2. スタッフに伝えたいこと

- ・参加者の追加などについて、事前にメールにてやりとりさせていただきましたところ、大変丁寧にご対応いただきました。ご多忙中のところ大変ありがとうございました。
- ・アイスが貰えて嬉しかった。お子様限定かと思いきや、大人にもくれるなんて・・・。
- ・非常に興味深い内容でした。できれば、日大の生徒さんが説明して頂いた橋の種類も配布資料に含めておいて頂けると良かったかなと。
- ・ここまでの準備は大変だったと思います。本当にお疲れ様でした。

Q3. 全体として

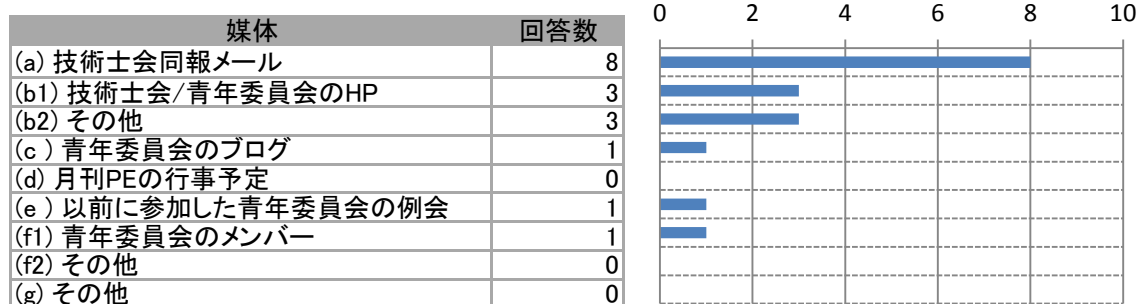
満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	8	100.0
(b) ほぼ満足	0	0.0
(c) 普通	0	0.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	8	100.0



- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

●参加するまで

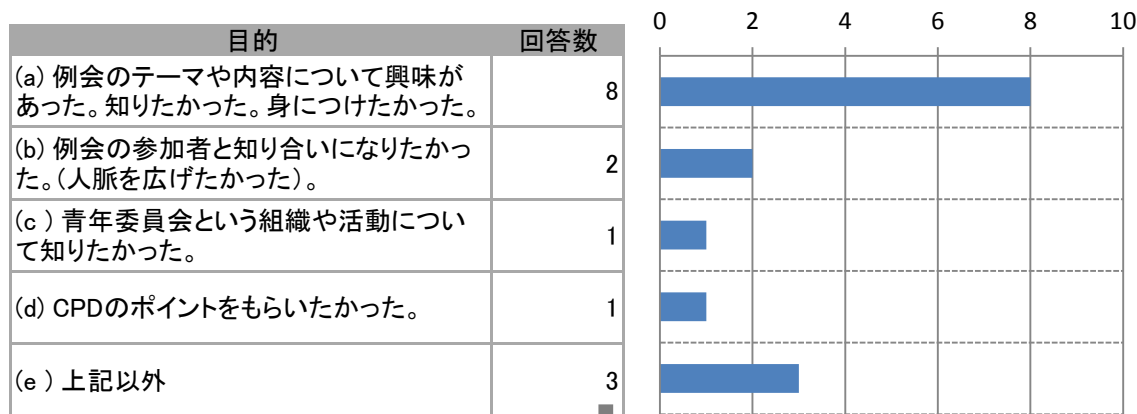
Q4-1. 今回の例会をどのように知りましたか



Q4-2. 参加のきっかけ



Q5. 参加目的



・子供と共に学びたかったから。
・青年委員の皆さんから活力をもらいたかった。

Q6-1. 青年委員会への参加回数



Q6-2. 過去の例会で印象深かった・面白かったテーマ

- ・ライフラインから仲間と創る自分のロードマップ、英語ワークショップ
- ・英語企画、特別例会
- ・毎年夏の理科実験に参加させて頂いておりますが、どれも興味深い内容です。
- ・今までのどのイベントも印象深かったです。

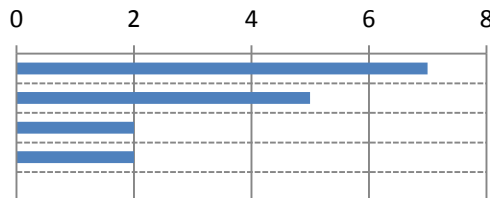
●青年委員会の活動について

Q6-3. その他、ご意見・ご要望等がありましたらお書きください。

- ・いつも楽しい企画をありがとうございます。準備おつかれさまでした。まちづくりを学びながらアイスが出てきたりお菓子の配布があったりとても楽しめました。
- ・アイスや子供たちへの最後の楽しい宝散策やお菓子のお土産も頂き、色々と本当にご配慮頂き、楽しいイベントでした。子どもは日大のお姉さんたちの説明に橋の成り立ちについてよく理解していました。ありがとうございました。
- ・また都合をつけて、参加したいと思います。

Q7-1. 開催してほしいイベント

満足度	回答数
(a) 情報の提供	7
(b) 変化の提案	5
(c) 楽しみの場の提供	2
(d) 人脈形成の場の提供	2
(e) その他	0



具体 ↓

- (a) 今回のような内容、テクノ(工場見学など)、農業・生物分野の見学、他部門の技術情報
- (b) 成功者の体験談、失敗学などの講演会、
- (c) 現場見学会、実習など
- (d) バーベキューなどのレクリエーション
- (e) ワークショップなどの参加型イベント

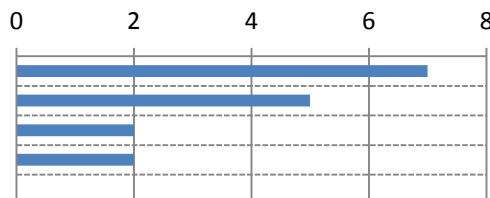
Q7-2. 内容以外についての希望

- ・小学生の子どもが参加できる親子イベントで、夏休み以外では週末に開催されるとまたぜひ参加したいです。
- ・土曜開催が都合をつけやすい。

●技術士または技術者としての活動について

Q8. 技術士または技術者としての本業に加えての活動

満足度	回答数
(a) 自身の向上	5
(b) 周囲の支援	2
(c) 周囲との関係	1
(d) その他の活動	0
(e) 特になし	0



具体 ↓

- (a) 技術士第二次試験の受験。受験対策勉強会の開催、TOEIC、公認会計士資格取得、修習技術者研修会で資質向上に努める、資格取得、講習会参加、他部門資格の取得
- (b) 修習技術者支援、受験者の資格取得支援
- (c) 周囲との連携
- (d)

●参加者基本情報

Q9-1. 技術部門



Q9-2. 年齢層



Q9-3. 会員層



以上

行事名	9 月例会:講演・見学会「防災の日！ 防災をまなんで大災害に備えよう！」
日時	2018 年 9 月 15 日(土) 13:30-16:30
場所	ヴェルクよこすか(横須賀市立勤労福祉会館)、横須賀市民防災センターあんしんかん
講師	下野五月委員、後藤洋之委員、田角由香委員
担当者: (○印:リーダー)	○田角委員、横田委員、清水委員補佐
参加者数	参加者:42名(うち一般参加者19名(子供3名を含む会員家族6名)、青年スタッフ16名、オブザーバー5名、青年スタッフ家族2名(子供2名))

1. 背景・目的

最近、地震、豪雨・豪雪、洪水など日本各地で大きな自然災害が多く発生している。

9 月は防災月間であることから、家族参加型企画として防災をテーマとした例会とし、防災に関する技術や、災害への備えについて学ぶことを目的として実施した。

2. 例会内容

2. 1. 9 月度運営委員会(10:00~12:00):

例会内容ではないが、横須賀で講演・見学会を実施するにあたって、9 月度運営委員会を当日午前中に横須賀市内で実施することとし、昨年 9 月の見学会で利用した、公共施設である「ヴェルクよこすか(横須賀市立勤労福祉会館)」を会場として確保した。「ヴェルクよこすか」は、横須賀市内の会議室では最も安価かつ一般的にもかなり安い値段で借りられる公共施設であり、施設もきれいで設備も充実している。会場の予約にあたっては事前の電話予約と一週間以内の会場窓口での直接会場費の支払いが求められるが、今後も横須賀方面で例会等実施する場合の会場として筆頭候補に挙げられるものである。その他機械振興会館以外で企画を行う場合も、公共施設を積極的に利用されたい。

2. 2. 講演(13:30~14:40):

例会の前半は、午前中の運営委員会に引き続き、ヴェルクよこすかにて防災に関連した講演を 3 題行った。講演者は青年委員の中から、日頃防災に関連した業務を行っている者に依頼した。家族参加型ではあるが、後半に家族も参加できる防災ミュージアム見学を行うことから、講演内容は「一般の大人～専門分野外の技術士」を対象としたレベルで設定した。子供向けには、話の内容が難しいと思われるため、講演の間読んでもらうように防災に関連した内容の絵本、マンガを貸し出したり、お菓子セットを配布するなど配慮を行った。

(1) 委員長挨拶・青年委員会紹介 (8 分): 諸田委員長

冒頭では、諸田委員長より委員長挨拶と、青年委員会の活動紹介を行った。青年委員会紹介では、技術士会における青年委員会の位置付け、活動紹介、今後の予定等を説明し、会員向けには青年委員会活動への参加の呼びかけ、会員家族にも青年委員会の概要がわかるような話とした。

(2) 講演①「地震の概要と鉄道の地震対策—地震防災システムについて」(20 分)

: 下野委員(応用理学部門)

講演は、まず応用理学部門の下野委員より行った。下野委員は業務で鉄道防災システムの開発に携わっており、これまでも応用理学部会等で鉄道防災システムに関する講演を行っている。今回は、専門分野以外の方にもわかりやすいよう、地震発生仕組み、鉄道防災の歴史としくみなどの一般的な話も大幅に取り入れ、さらに鉄道防災システムのしくみについて詳しくご説明いただいた。

(3) 講演②「津波に関する話題(東日本大震災を踏まえた最近の取組み等)」(20 分)

: 後藤委員(水産・建設部門)

2 番目に、水産部門・建設部門の後藤委員より講演を行った。後藤委員は業務で震災後の三陸地域における防潮堤の設計や津波シミュレーション等に携わっている。こちらも、一般向けにわかりやすいよう、津波発生仕組みなどの一般的な説明を前段においた説明の他、実際の東日本大震災の津波の動画などを取り入れ、津波の恐ろしさについて聴講者に伝えた。さらに震災後の耐津波対策として粘り強い防潮堤について説明し、津波から命を守るための方法から、災害の教訓を後世に伝えるよう訴えた。

(4) 講演③「事業継続計画(BCP)について」(10分)： 田角委員(水産部門)

最後に、水産部門の田角委員より講演を行った。自身の専門ではないが、勤務先で取り扱っている事業継続計画(BCP)について、全般的な説明を行った。

2. 3. 横須賀市民防災センターあんしんかん見学(15:00～16:30)：

講演終了後後半では、横須賀市民防災センターあんしんかんを見学した。

あんしんかんは、横須賀市消防局の1F 部分に設けられた防災教育施設である。前半の講演会場ヴェルクよこすかからは徒歩3分程度とアクセスは非常によかった。

あんしんかんでは説明や誘導は職員の人にお任せして主に2班に分かれて見学を行った。あんしんかん内には、震度6弱程度を体験できる家のセットのような起震装置、実際の消火器と同じ取扱い方で扱え、ゲーム感覚で消火体験のできるレプリカ消火器、人工発煙装置の設置された通路や映像ブースなどの設備があり、初めに映像ホールで災害に関する映像を全員で視聴したのち、地震体験、消火体験、煙体験、119番通報体験を行ったり、横須賀市との海外姉妹都市の消防服の展示をみたり、音響と映像で実際の災害の様子を体感できる映像ブースを視聴した。さらに団体予約特別見学コースとして、横須賀市消防局の救急指令室や、地下の免震装置(3種類)の見学と説明を受けた。

あんしんかんは職員の方が団体対応に非常に手慣れており、小さい子供への配慮も行き届いていた。残念ながらあんしんかんは来年3月末で閉館されるとのことで、小さいながらも充実した設備とサービスが素晴らしく、閉館が惜しまれる限りである。

2. 4. 懇親会(17:00～19:00)：

懇親会は、見学会の会場から比較的近い、「Beer & BBQ Kimuraya」で行った。港町横須賀にちなみ、アメリカン BBQ 食べ放題&飲み放題としたが、会場が横須賀市で遠い、参加者に年配の方が多いなどの理由からか、一般参加者の出席が非常に少なかった。

店は各テーブルに焼き肉用の鉄板が2台ずつ配置され、肉は無くなったら追加注文できるというもので、ビールもビールサーバーから直接注ぐことができ、種類も豊富であった点で好評ではあったが、委員内でほぼ全員が当日の昼食に横須賀ネイビーバーガーを購入し、昼食でも肉でお腹一杯になってしまった人が多く、食は進まなかった模様である。しかし、各テーブルを適宜席交代するなどして交流がはかられた。

ただし店側からクレームはなかったものの、準備期間が短いことから急きょ店を予約した際、人数をかなり多く予約してしまい、1週間後に半分以下まで減らすことになりご迷惑をおかけした。今後はよく想定参加人数を検討後、予約を入れることとしたい。

定員の関係で今回採用しなかったが、昨年の見学会時に利用したどぶ板通りの「どぶ板食堂 Perry」も店長が好意的でサービスが充実しており、今後横須賀地区での懇親会候補としたい。

3. 成果と所感

第一の成果としては、今回も前月に引き続き、再び家族参加型イベントとして見学会を行った点である。ただし前月では子供連れを主な対象とし、子供向けにもわかりやすい説明をする設定としていたこともあり、今回では前半の講演を「一般の大人～専門分野外の技術士」を対象としたレベル設定とした。家族参加型イベントは統括本部ではまだ数回しか実施しておらず、レベル設定は検討課題である。毎回家族向けにレベルを落とすと、本来の委員会活動対象である技術士向けの内容としては技術レベルが物足りなくなってしまうという課題がある。今回は後半の見学先はファミリー向けの施設であることから、講演の内容は大人向けとしたが、アンケートで1件のみ「技術の話は子供向けには難しい」という意見もあった。これに対して、参加する子供の年齢は事前に予測がつかず、子供と言っても年齢がばらつくと全員が話を完全に理解することは難しい。そのため子供は体験させることが重要として子供向けには体験型の内容を盛りこむことに力点を置くことが有効であると思われる。

家族参加型イベントを行う意義として、青年委員会が活動対象とする20～40代の若手技術士層では小さい子供のいる家庭もあることを想定し、若手技術士が家族サービスもしつつ自己研鑽もできるということが挙げられる。その点では「会員の継続研鑽に役立てる」例会内容と家族参加型の設定をどのように両立するか、他地域本部の事例なども参考としながら、今後もよりよい家族参加型例会を継続していきたい。

第二の成果としては、青年委員内から講演会講師を依頼し、講演を行った点である。青年委員会は他の委員会と同様、日本技術士会全技術部門から委員を募って構成されている。そのため、技術分野も多岐にわたり、働き盛りとして科学技術に携わる中心である若い年代である。青年委員・委員補佐には各自専門技術分野も違い、多様な業務に携わるメンバーがおり、このような若手技術者の集

まりとして青年委員会のある意義は大きく、青年委員会の内部リソースは大いに活用されるべきである。青年委員により講演を行うメリットとしては、若手技術者の視点から、詳しい最新の技術の話を直接聞くことができる点であり、講演者側にも外部向けの発表機会となることや、発表を行うことが自身の経験につながるという点がある。青年委員会のメンバーの誰がどのような技術や業務に関わっているかについては、自己紹介企画のような内部イベントや、日頃の懇親会を通じた交流を通じておのずと共有されるものであり、日常的な委員同士の交流の蓄積は青年委員会内部リソースを活用するための重要なファクターであり、今後も委員内・委員外それぞれ交流を促進していきたい。

4. 今後の展開

上項でも記載した通り、今後も青年技術士を対象とした家族参加型例会を継続していきたい。中部本部では各ワーキンググループの見学会は基本的に家族参加型として実施し、長年の実績があり、他の地域本部でも家族参加型で企画を行っている。今後他地域本部での家族参加型の取り組みをヒアリングして参考としたり、統括本部でも様々な形態やレベル設定で家族参加型例会を実施し、よりよい「家族参加型」を突き詰めていくのがよいだろう。

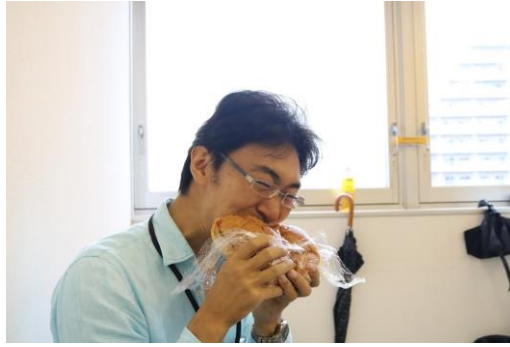
また、青年での企画のあり方として、従来から「〇〇の専門家」を招待して集客するという方法があるが、一方、今回のように青年メンバーの内部人材を起用した場合、どの程度「外部専門家」に集客面で太刀打ちできるかという課題もある。適切なテーマ設定により外部専門家より青年内部人材の方がより実地に即した話ができるという方向性もあり、そのためには前述の通り青年委員会内部の子移流を深め、よりよく他を知ること重要である。さらに、青年委員として各地域本部の委員長も名を連ねているが、他地域本部ともより交流を深め、他地域本部の委員長や委員を講師として招待したり、近隣の地域本部と合同企画を行うなど他地域本部との交流促進や人材活用にも今後期待したい。

(文責: 田角)

5. 実施状況



集合写真



横須賀ネイビーバーガー(昼食)



下野委員講演



後藤委員講演



地震体験(あんしんかん)



煙体験(あんしんかん)



横須賀市消防局救急指令室見学



消防局地下免震装置見学



消防服着用体験



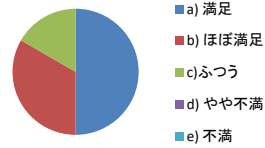
懇親会(Beer & BBQ Kimuraya)

●平成30年9月度 ～防災の日! 防災をまなんで大災害に備えよう～ (表面)

●今回の例会について

Q1-1. スタッフの対応はいかがでしたか。

満足度	人数	割合 (%)
a) 満足	6	50.0
b) ほぼ満足	4	33.3
c) ふつう	2	16.7
d) やや不満	0	0.0
e) 不満	0	0.0
合計	12	100.0

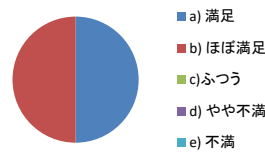


Q1-2. スタッフに伝えたいこと(コメントなど)ありましたら、お書きください。

- ・お疲れ様でした。楽しかったです。
- ・上着はできるだけ色を揃えるとstaffと分かりやすくなる。例えば、白い上着にして部門ごとに色のリボンを付けてはどうか
- ・前日のリマインドメールはありがたい
- ・飛び入り参加に柔軟に対応いただき、ありがとうございました
- ・技術の話は子供には向かない

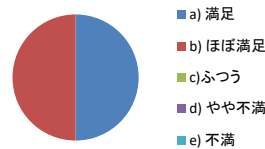
Q2-1. 今回のイベントについて、前半の講演はいかがでしたか

満足度	人数	割合 (%)
a) 満足	6	50.0
b) ほぼ満足	6	50.0
c) ふつう	0	0.0
d) やや不満	0	0.0
e) 不満	0	0.0
合計	12	100.0



Q2-2. 今回のイベントについて、後半の施設見学はいかがでしたか

満足度	人数	割合 (%)
a) 満足	6	50.0
b) ほぼ満足	3	25.0
c) ふつう	0	0.0
d) やや不満	0	0.0
e) 不満	0	0.0
合計	9	75.0



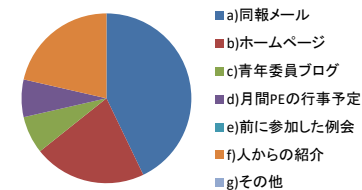
Q2-3. 今回のイベントへのご感想がありましたら、お書きください。

- ・全体として好企画
- ・タイムリーなテーマ
- ・生々しい映像に改めて驚きました
- ・勉強になった

●今回のイベントに参加するまでの経緯について

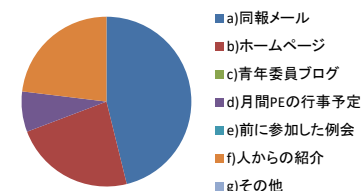
Q3-1. 今回のイベントをどのように知りましたか。(複数回答あり)

きっかけ	人数	割合 (%)
a) 同報メール	6	42.9
b) ホームページ	3	21.4
c) 青年委員ブログ	1	7.1
d) 月間PEの行事予定	1	7.1
e) 前に参加した例会	0	0.0
f) 人からの紹介	3	21.4
g) その他	0	0.0
合計	14	100.0



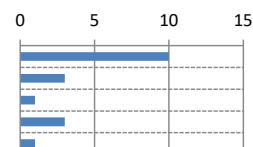
Q3-2. Q3-1の中で特に参加のきっかけとなったものはどれですか。(複数回答あり)

きっかけ	人数	割合 (%)
a) 同報メール	6	42.9
b) ホームページ	3	21.4
c) 青年委員ブログ	0	0.0
d) 月間PEの行事予定	1	7.1
e) 前に参加した例会	0	0.0
f) 人からの紹介	3	21.4
g) その他	0	0.0
合計	13	92.9



Q4. 今回のイベントに参加した目的は何ですか。いくつでもお選びください。(複数回答可)

目的	回答数
a) イベントのテーマや内容に興味あり、知りたかった	10
b) イベントの参加者と知り合いになりたかった(人脈形成)	3
c) 青年委員会という組織や活動について知りたかった	1
d) CPDのポイントをもらいたかった	3
e) 上記以外	1

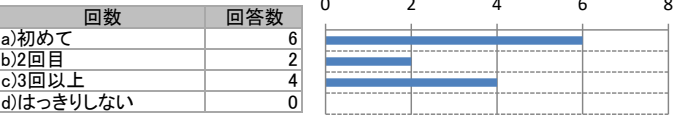


- ・会場が自宅に近い

裏へ

●平成30年9月度 ～防災の日! 防災をまなんで大災害に備えよう～ (表面)

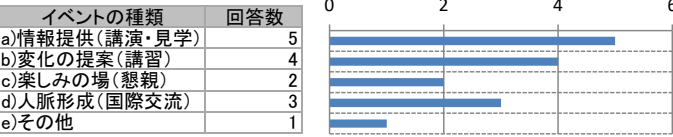
Q6. 青年委員会のイベントに参加するのは、今回で何回目ですか。



Q6-1. 2回目以上の方にお伺いします。過去の例会で印象深かったテーマや面白かったテーマ

・テクノツーリズム

Q7-1. 青年委員会の活動として開催して欲しいイベントについて、ご希望の内容(複数回答可)

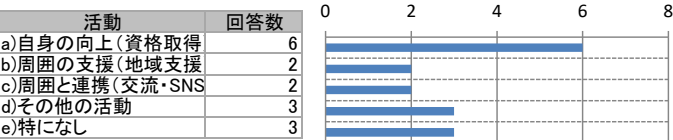


・料理会
・減災
・45歳の技術者の考えていることの見える化
・発表資料を技術士会のHPで閲覧できる様にして欲しい
・仕事をしているので、土日開催がよい

Q7-2. また、内容以外でご希望ございましたらお書きください。

●技術士または技術者としての活動について

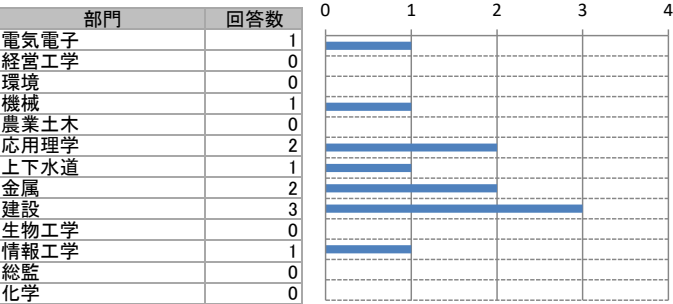
Q8. あなたご自身は技術士または技術者としての本業に加えてどのような活動をなさっています



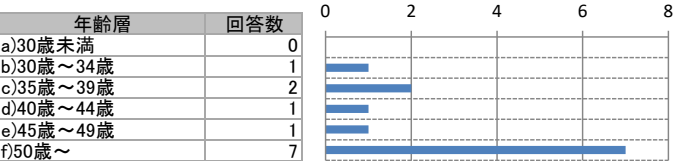
・災害派 ・国際交流会
・学協会誌の購読や講習会への参加 ・神奈川県支部理科支援委員
・技術士2次受験者のサポート ・学会活動
・減災について情報収集及び発信を考えている ・企業勤務での仕事

●あなたご自身について

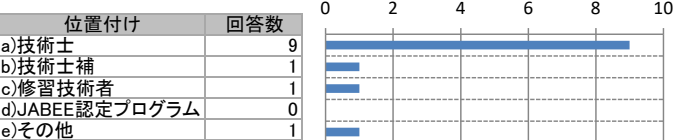
Q9-1. 技術部門。(複数回答可)



Q9-2. 年齢層をお選び下さい。



Q9-3. 会員層(技術士制度での位置付け)について、該当する項目をお選び下さい。



以上

行事名	10月例会:振り返り企画
日時	2018/10/13
場所	機械振興会館 211 室
講師、発表者	発表者:竹内委員、赤木委員
担当者: (○印:リーダー)	赤木委員、竹内委員、守田委員、中川委員、臼井委員、田角委員、○滝口委員補佐(記)
参加者数	22名

1. 背景・目的

これまで、例会実施後に担当者が報告書の作成をし、外部及び内部の事後アンケートのまとめをして、例会の反省をしていた。青年委員全体での、マーケティング分析を用いた企画の分析や、振り返りの手法を用いた振り返りまではしておらず、アンケート結果を活かしきれていない部分もあった。そこで今後の例会を充実させるため、マーケティング分析(3C 分析)と、振り返り手法(KPT)を学び、これまでの活動について、3C 分析及び KPT による振り返りを実施した。

2. 例会内容

2-1. 講義1 《マーケティング分析》 竹内委員

3C 分析の考え方や方法について、事例を交えた具体的な説明があり、普段マーケティング分析を担当していない人にも分かり易い内容で、非常に好評であった。またグループワーク(GW)での実践方法の説明もあり、これまでの例会の競合、対象(お客様)、青年委員会(自社)の関係から、例会の立ち位置が分析でき、次の例会のターゲットの設定に繋がられるよう、構成されていた。

2-2. 講義2 《振り返り手法》 赤木委員

振り返りを何故するのか、デービット・ゴルゴの体験学習モデル(振り返りをすることで概念化・持論化される)の説明を交えた赤木委員の講義から、委員全体が振り返りの意義・重要性について理解した様子が伺えた。その上で、振り返り手法の種類、今回用いる KPT(Keep:継続する点, Problem:改善する点, Try:試行する点)についてフレームワークの説明があり、振り返りへの意欲が湧く構成となっていた。

2-3. GW 例会振り返り・発表・年間/計画中の例会の目標設定

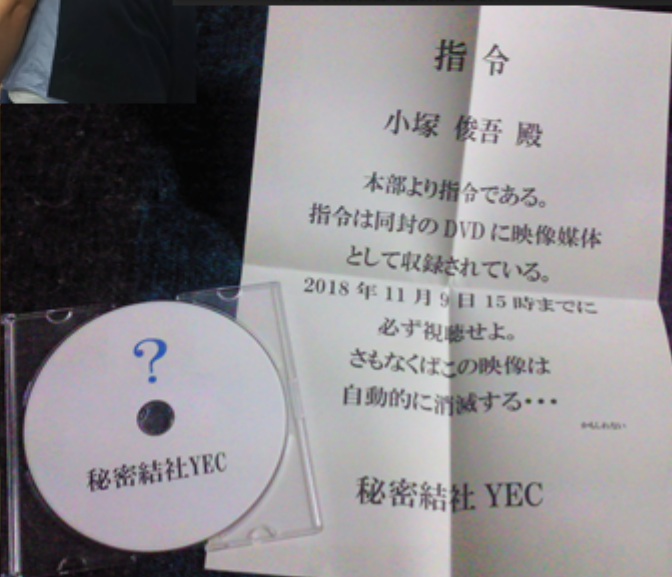
振り返りは 10 回の例会を 5 グループで各2件ずつ担当して実施した。各グループの構成は、極力過去の例会担当と、次回の例会担当が入る様に分け、重点が引き継がれるよう配慮した。模造紙に KPT の枠を作り、付箋で K 及び P の項目に合わせた感想や意見を貼り、それを JK 法でまとめ、K からの T、P からの T、新たな T について書き出して、発表と意見交換をした。例会内の時間では時間不足と感じる程、各グループでの意見出しや、発表後の意見交換が盛り上がり、各自の例会に対する熱意を感じた。

2-4. 懇親会 ビデオレター作成 カラオケ

統括本部の小塚元委員補佐への結婚祝いビデオレターの作成を兼ねて、カラオケでの懇親会を実施した。ビデオレターの作成では、『愛は勝つ』を全員で歌った動画と、メッセージをスケッチブックに書いて個々に写真を撮ったものとを、田角委員が編集し、1つの動画として作成下さった。委員会内の一体感が動画になり、委員会としても良い記念になった。カラオケでは、ゲームを使って歌う順番を決め、カラオケを楽しんだ。個性に富んだパフォーマンスと技能の高さがカラオケでも発揮され、想定以上の盛り上がりであった。全体を通して委員会内の結束が高まる懇親会であったと感じた。

3. 成果と所感・今後の展開

- ・振り返りの意味・意義を理解した上で、委員全体で振り返りの活動ができ、次回への目標を得た。
- ・3C 分析や振り返りの手法について学べた。今後外部向けコンテンツとしての可能性も感じた。
- ・今後も企画段階の3C 分析、企画後の振り返りは実施できるような仕組みができると良いと感じた。
- ・課題解決が得意で、意見を尊重し合う関係がある青年委員会内での振り返りは、楽しくできる上に、次の例会に向けた前向きな検討がされるため、当初想定していた以上に有意義な例会になったと感じた。今回の振り返りで出た意見を活かし、今後の例会をより充実したものにしていきたい。



グループ名 A

年間目標

- ・新規参加 50名
- 例会ごとの目標
- ・コンテストに出場
- ・ディベート企画の定番化

3C分析 『ディベート』

《対象》

- 若手技師
- 技術工/技術工務
- 全社で議論できる
- 経営者

《ニーズ》

- 議論・表現 ○話し方・聴き方
- 自己肯定感の向上
- 仲間との関係づくり
- 自己の強みを活かす
- 自己の強みを活かす
- 自己の強みを活かす

Customer
【顧客】

《対象》

- ディベート部
- ディベート部

《特徴》

- ディベート部は上級生向け

Competitor
【競合】

《特徴》

- ディベート部は上級生向け
- ディベート部は上級生向け
- ディベート部は上級生向け
- ディベート部は上級生向け
- ディベート部は上級生向け
- ディベート部は上級生向け

Company
【自社】

グループ名 B

年間目標

- ・効率化と品質向上と
- 新規開拓と

例会ごとの目標

2月例会

- ・「来てよかった！」を
集める。

3月例会

- ・満足向上と不満低減

3C分析 『12月 和食 12月』

《対象》

- 技術工とその家族
- 技術工とその家族

《ニーズ》

- 料理と食生活
- 料理と食生活

Customer
【顧客】

《対象》

- 料理教室

《特徴》

- 料理教室は上級生向け
- 料理教室は上級生向け

Competitor
【競合】

《特徴》

- 料理と食生活
- 料理と食生活
- 料理と食生活
- 料理と食生活
- 料理と食生活
- 料理と食生活

Company
【自社】

グループ名 C型

年間目標

- ・各イベントの企画方法の標準化

例会ごとの目標

4月例会

- ・集客アップして、青年にもSSJ!

8月例会(家族対象)

- ・外部とのつながりを継続していく

グループ名 E

年間目標

- ・参加者 110-9
- 20.1 増 (青年は継続)

例会ごとの目標 (青年)

- ・経験者を活用した、より
魅力的な例会づくり
- ・(青年) 青年会員UPに
取り組む(ヤセ)
- ・(青年) 青年会員UPに
取り組む(ヤセ)
- ・(青年) 青年会員UPに
取り組む(ヤセ)
- ・(青年) 青年会員UPに
取り組む(ヤセ)
- ・(青年) 青年会員UPに
取り組む(ヤセ)

グループ名 D

年間目標

- ・地域本部と共同で
イベント開催する。

例会ごとの目標

(12月)

- ・次に訪ねるようなノウハウ
を蓄積する。(1期目、2期目への
メンバー育成と)
- ・お悩み相談グループを
開催する(テノヤを使う等)

行事名	慶應技術士会：六ヶ所村見学会
日時	2018年10月26日(金)
場所	日本原燃(青森県六ヶ所村)
講師、発表者	講師：慶應技術士会 石井正則会長
参加者：	○白井一光、○横田敬久(記)、伊藤友加里(元青年委員)、前田秀一(元青年委員)、山本恵一、滝口禎美、河野恭彦、飯田雅弘(オブ)、斎藤大介(東北本部)、鈴木雅弘(東北本部)、
担当者： (○印：リーダー)	○白井一光、○横田敬久(記)
参加者数	青年委員会関係10名 他3名(慶應技術士会：石井正則会長、田村聖和、丸下元治 (敬称省略))

1. 背景・目的

慶應技術士会石井会長のご紹介を受けて、毎年慶應技術士会で実施している原子力関連設備の見学会に青年委員会では有志を募って参加した。

見学場所が青森県六ヶ所村、日本原燃の核燃料再処理施設であったことから、東北本部の青年委員会にも参加を呼びかけて地域間交流を兼ねることとなった。

原子力放射線分野の中核施設の1つである核燃料再処理施設の現場見学ということで、他の技術分野の参加者にとっても興味深い現場見学内容であることから、原子力への理解を深める場として参加した。

2. 例会内容

2. 1. 六ヶ所原燃 PR センターを見学

講義形式で勉強

- ・ 六ヶ所村の地域の紹介、核燃料再処理施設の受け入れ経緯、再処理技術の概要など

原燃 PR センター内の模擬プラントにより核燃料マテリアル、核燃料再処理プロセス、中間貯蔵プロセス、放射線を可視化する霧箱などの見学・解説をいただいた。

2. 2. 日本原燃の低レベル放射性廃棄物の中間貯蔵施設および核燃料再処理施設を見学

- ・ 低レベル放射性廃棄物の中間貯蔵施設

バスで移動して中間貯蔵施設および計画地域の現場見学、環境モニタリング方法などの解説をいただいた。

- ・ 日本原燃の核燃料再処理施設

以下の場所について見学・解説をいただいた。

- 高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵施設
- 核燃料冷却プール
- 中央制御室の勤務の様子

2. 3. 日本のエネルギー政策の現状と展望について(講師：慶應技術士会 石井正則会長)

場所：三沢シティホテル

ホテルの会議室を借用して表題に関する講義を聴講

- ・ 日本のエネルギー政策
- ・ 原子力利用、核燃料再処理技術の重要性など

講義後にフリーディスカッションをおこなった。

大手機電メーカーが施設内に数百人規模の拠点を設けて運営支援をしており、原子力規制庁やIAEA 国際原子力機関の専門家による24時間365日すべての現場を複数名の体制で監視されながら運営を行っている現実を目の当たりにして、機会を見て多くの方に見学機会を提供したいとの意見があった。

技術分野としては原子力に限らず、機械、電気電子、化学、情報工学、経営工学などプラント運営に関連する分野の技術士にとっても見学が貴重な機会になるとの意見があった。

3. 成果と所感

- ・ 東北本部の齋藤委員に声かけの協力をいただくことによって、東北本部からの参加を得ることができ、郡山での全国大会の直前という忙しい時期にもかかわらず、東北本部一統括本部の地域間交流を実現することができた。
- ・ 学生交流イベントとは別の形で、慶應技術士会と青年委員会の連携イベントを実績化できた。
- ・ 原子力関連施設という貴重な見学場所にアクセスする機会を得ることで、他の技術分野の参加者も原子力技術への理解を幅広く得ることができた。
- ・ シニアの放射線原子力の技術者と若手の放射線・原子力の技術者の交流の場になった。

4. 今後の展開

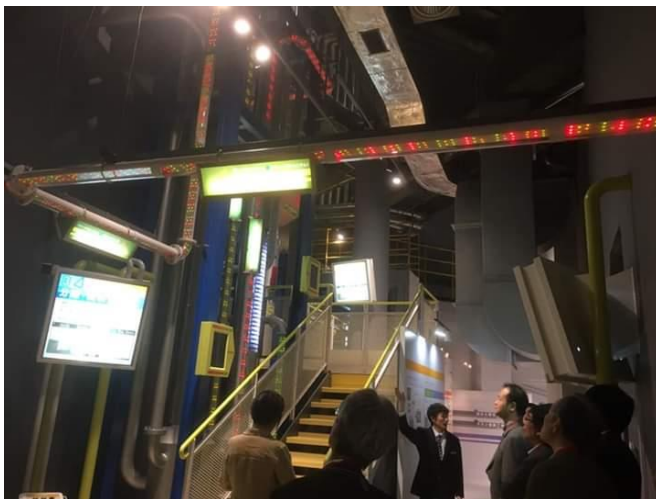
今後も引き続き、慶應技術士会が毎年実施する原子力関連施設見学会に対して、青年委員会に継続的に参加を呼び掛けることによって原子力分野の技術に対する理解を深める活動を提供する場を提供していきたい。これに伴って見学地域の地域本部との交流につなげることで、青年委員会の地域間交流促進に役立てたい。

【添付資料:六ヶ所村原燃 PR センター見学写真】

(六ヶ所村 PR センターの入口)



(PR センターの模擬プラントの見学)



(PR センター内部での勉強会)



(高レベル放射性・低レベル放射性物容器)



以上

行事名	11月例会:ディベート企画「ディベートを通じて技術者倫理について考えよう」
日時	(例会)2017年11月17日(土)13:30-17:30 (意見交換会)2017年11月17日(土)17:45~19:30
場所	機械振興会館6階 6D-2会議室
講師	-
担当者: (○印:リーダー)	下野委員、高橋委員補佐、後藤委員、瀧川委員、○臼井委員
参加者数	例会:8名、意見交換会:6名

1. 背景・目的

論理的思考力、表現力は苦手という人が多いなか、職種問わずその重要性は高まりつつある。ディベートは単なる討論ではなく「論理的に思考し、表現する技術」をみがくものであり、技術者としてもぜひとも備えておきたい技術の一つである。本イベントは参加者だけでなく、主催者も共にディベートに携わることで、問題の分析力や解決能力向上を図り、ディベートの技術を体得する。また、より建設的な議論ができる技術者への道へ踏み出す機会とするためのものである。

2. 例会内容

2.1. 事前の準備

事前の準備については、下記のような役割分担で行った。特に今回はディベートを主体としていたこともあり、ディベート自体をどのような形式にするかを担当者間で議論した。それに伴い、立論シートの改訂の他、ルールブックを新しく作成した。

また担当者と青年委員の有志によりディベート全国大会(日本ディベート協会主催)の見学を行い、ルールブックの作成やディベート形式の検討に資した。

No	作業内容	担当者	対応時期
1	イベント概略の決定	担当者	9月中
2	ディベートテーマの決定	担当者	9月中
3	当日スケジュール作成	担当者	テーマ決定後
4	月刊PEへの掲載	高橋	10月上旬
5	CPD行事HPへの掲載	高橋	10月上旬
6	同報ML	高橋	11月
7	青年ブログの更新	臼井、高橋	10月下旬~11月
8	リピータへの案内	高橋	11月
9	名簿作成	高橋	前日まで
10	名札作成	高橋	当日
11	運営委員会資料	臼井	適宜
12	ディベート説明資料	臼井	9月中旬~11月
13	立論作成シート	下野	9月中旬~11月
14	議論整理シート	下野	9月中旬~11月
15	ディベート評価シート作成	下野	9月中旬~11月
16	ルールブックの作成	下野	9月中旬~11月
17	御礼メール	高橋	例会後
18	CPD用紙	後藤	前日まで
19	アンケート	後藤	前日まで
20	懇親会の準備	後藤	前日まで

2.2 ディベートのテーマについて

「日本は高度プロフェッショナル制度を導入すべき」

今回の例会ではディベートを主題としていたため、技術士に関する話題ではなく、一般的なテーマから選定した。上記のテーマは参加者にとっても無視できないテーマであると思われることから選定した。

2.3. 当日の準備(12:30 ～13:30)

①準備までの進行

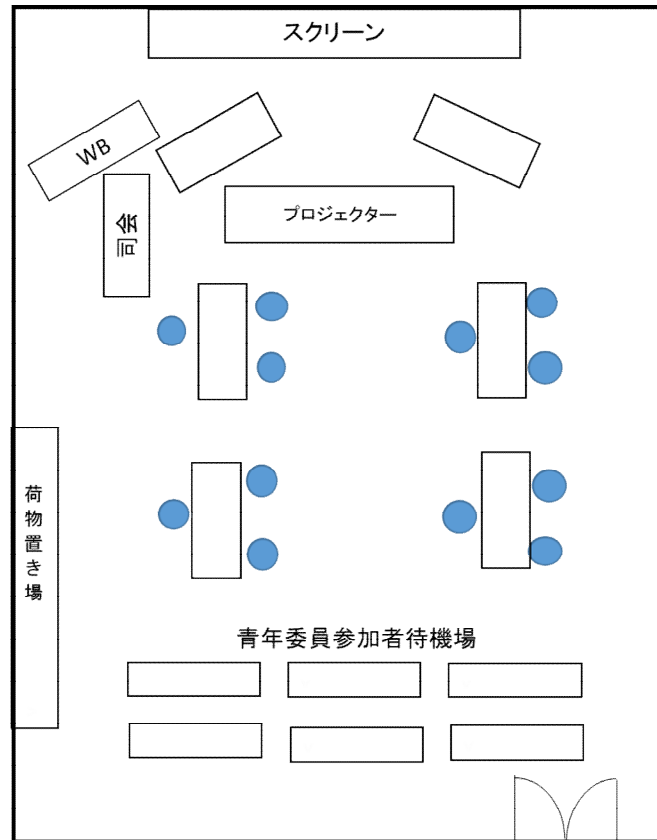
12:30 机の配置開始

13:00 受付開始

13:30 例会イベント開始

②会議室のレイアウト

机及び椅子は下記のように配置し、グループワーク後から机を移動させなくてもよい形とした。



2.4. ディベートの概要説明 (13:30 ～14:05)

今回はパワーポイントによるスライドを使用した説明の他、youtube 上にアップされている実例動画「ディベート入門 実践編(政経マネジメント塾)」を上映し、参加者ディベートのイメージを醸成してもらった。動画は全体で1時間程度あるものであったため、適宜飛ばして上映した。

なお、動画の発信元である政経マネジメント塾には事前に問い合わせたところ、使用に問題はないという言質を得た。

2.5. グループワーク「立論シートの作成」(13:30～15:00)

＜ディベート GW 立論の作成＞

- ①シートの説明 10分
- ②肯定側立論シートの作成 10分⇒15分
- ③否定側立論シート作成 10分⇒15分
- ④グループ内討論 15分

ワーキンググループではディベートのチームとなる4チーム(3名×4チーム)に分かれて作業を行う形式である。具体的には青年委員会で作成した立論シートを肯定側、否定側の双方の立場で作成し、グループ内で討論を行った。肯定側、否定側の双方からテーマについて掘り下げて考えることでディベートの準備を行った。

2.6. ディベート本会 (15:00～17:45)

最初に分けた4チーム作成し、ディベートは各チームが1回ずつ参加できるように2試合実施した。実施内容は以下の通りとした。

- ①肯定側・否定側 作戦会議 8分
- ②肯定側 立論 4分
- ③否定側 質疑 3分
- ④否定側 立論 4分
- ⑤肯定側 質疑 3分
- ⑥否定側 反論 3分
- ⑦肯定側 反論 3分
- ⑧否定側 反駁 3分
- ⑨肯定側 反駁 3分
- ⑩ジャッジ・講評 15分(まとめ時間6分 講評3人×3分)
- ・・・その後記念撮影

<各パート内容>

各パートでは下記のように実際に行うことを定めた。

「立論」4分：双方の立場、理念を明言し、自分の議論を立証する

「質疑」3分：相手の議論に対して議論の確認、証拠の検証。相手の認識の確認

「反論」3分：相手の論点を攻撃する。

「反駁」3分：相手から攻撃された自分の論点を守り、立て直す。

(ここでは相手への反論は×)

今回は各パートでやるべきことを限定、明確化した。なお、作戦タイムに使われる時間については時間7分とし、将棋や囲碁のような形式で減っていくものとする。基本的に各パートの前で取れるものとする。

2.7. 意見交換会 (18:00～19:45)

今回もディベートを行った会議室でそのまま意見交換会を実施した。様々な議論が立食ということもあり多くの方々と交流を持つことができた。途中、青年イベントに初参加の方から挨拶をもらった。

3. 成果と所感

<イベント>

今回のイベントでは昨年と同様の流れとしつつ、ディベートに焦点を当てた企画とした。実際の結果として、参加者からは再戦を希望する声が聞けたため、参加者にディベートを楽しんでもらえたと考える。

昨年度から改変したことはディベートの各パート(立論～反駁)においてやるべきことを限定、明確化したこと、またそれに合わせて昨年度使用した立論作成シート、議論整理シート、評価シートの改訂を行ったことである。この改訂によって各パートにおいてやる事が明確になり、取り組みやすくなったと思われる。

しかし一方で、細かな点では改善すべき点がある。特にディベートの概略説明では動画による解説を導入したものの、実際の第1試合ではルールや流れを理解が不十分であり、参加者には戸惑いが見て取れた。また、一般的なディベートでは事前のリサーチが不可欠であるが、参加者の都合等もあり、不十分なまま試合に臨まれている方もいた。参加者で差がつかないよう証拠資料や参考資料を事前に配布していたものの、読んでいた人はあまり多くなかったと思われる。

今後は「概略説明の方法」「リサーチの負担軽減策」について検討することが必要であると考えている。

＜意見交換会＞

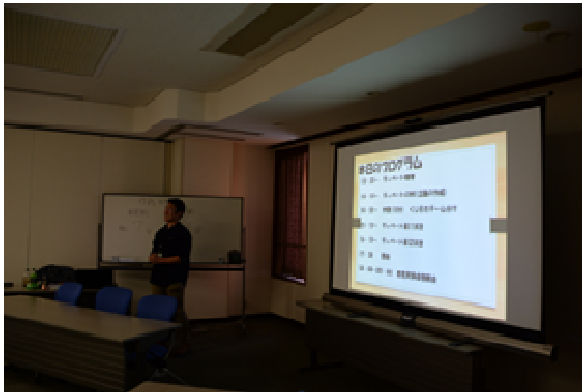
参加者が少なかったものの、ディベートの反省や、意見の交換が活発になされ、非常ににぎやかな会となった。特に今回、青年イベント初参加の方から一言挨拶をもらった。これは非常に好評で、更なる交流の促進となったと思われる。

また今回、食事は機械振興会館の中の食事処「うすい」を活用した。物品運搬等の手間がなく非常に便利であるため今後も活用したいと考える。

4. 今後の展開

- ・今回のイベントを通じて、ディベートの形式や立論シート等、ディベートの企画におけるノウハウを蓄積することが出来たので、今後もこれを大いに活用していきたい
- ・ディベートの概略説明では動画を使用したが高回は許可を無事に得られた。今後同様なケースでは、下記の2つ選択をとることが適切と考えられた。
 - (1)著作権法の例外規定を適用する（営利を目的としない上演等(著作権法 38 条))
⇒非営利目的であること（参加者から参加費をもらわない（懇親会費除く）, DL しないで上映することが条件。
 - (2)著作権者に許可をとる。
- ・ディベートの概略説明は改善の余地が大いにあるため、青年委員の実演等を検討したい。
- ・今回は行えなかったが、ディベートのリハーサルは行って、ルール、テーマの精査を行った方がよいと思われる。
- ・参加者からは再戦希望が出ていたため、ディベートWGの立ち上げ等を検討してみるのもよいと思われる。
- ・ディベート企画は人が集まりにくいものであるが、リピーターや過年度参加者、青年委員とつながりのある方など身近なところから少しずつ増やしていくようにしたい。

5. 実施状況





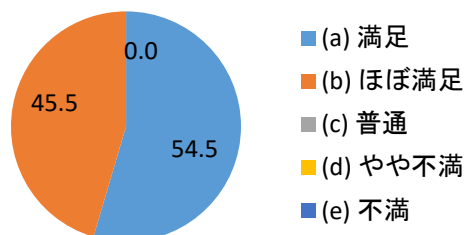
以上

●平成30年度 11月「ディベートで学ぶ、話し合いの技術！」 外部アンケート結果

●今回のイベントについて

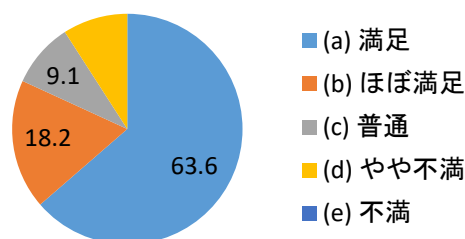
Q1. 今回のイベントは、全体としていかがでしたか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	6	54.5
(b) ほぼ満足	5	45.5
(c) 普通	0	0.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	11	100.0



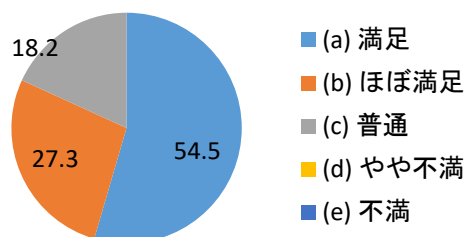
Q2. 青年委員会の用意した資料の内容はいかがでしたか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	7	63.6
(b) ほぼ満足	2	18.2
(c) 普通	1	9.1
(d) やや不満	1	9.1
(e) 不満	0	0.0
合計	11	100.0



Q3. スタッフの対応はいかがでしたか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	6	54.5
(b) ほぼ満足	3	27.3
(c) 普通	2	18.2
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	11	100.0



Q4. スタッフに伝えたいことがありましたら、お書きください。

【ご要望】

- ・メインとなる議題に対してのプレゼンが欲しい。
- ・ジャッジマンの結果シートのコピーが欲しい。

【その他】

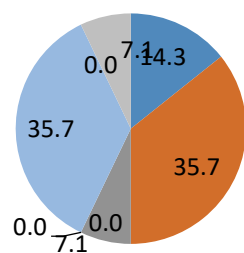
- ・ディベートの説明が分かり易く、ディベートがどのようなものかが体験でき、大変有意義なイベントでした。
- ・充実した時間を過ごすことができました。
- ・前回に比べてジャッジマンの講評が分かり易かった。

●今回のイベントに参加するまでの経緯について

Q5. 今回のイベントをどのように知り、何で参加を決めましたか(複数回答あり)?

【認知】

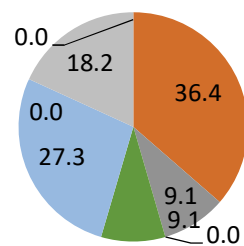
回答	回答数	割合(%)
(a) 日本技術士会の同報メール	2	14.3
(b1) 技術士会/青年委員会のHP	5	35.7
(b2) その他のHP	1	7.1
(c) 青年委員会のブログ	0	0.0
(d) 月刊PEの行事予定	0	0.0
(e) 以前に参加した青年委員会のイベント	0	0.0
(f1) 青年委員会のメンバーからの紹介	5	35.7
(f2) その他の人からの紹介	0	0.0
(g)その他	1	7.1
合計	14	100.0



- (a) 日本技術士会の同報メール
- (b1) 技術士会/青年委員会のHP
- (b2) その他のHP
- (c) 青年委員会のブログ
- (d) 月刊PEの行事予定
- (e) 以前に参加した青年委員会のイベント
- (f1) 青年委員会のメンバーからの紹介
- (f2) その他の人からの紹介

【判断】

回答	回答数	割合(%)
(a) 日本技術士会の同報メール	0	0.0
(b1) 技術士会/青年委員会のHP	4	36.4
(b2) その他のHP	1	9.1
(c) 青年委員会のブログ	0	0.0
(d) 月刊PEの行事予定	0	0.0
(e) 以前に参加した青年委員会のイベント	1	9.1
(f1) 青年委員会のメンバーからの紹介	3	27.3
(f2) その他の人からの紹介	0	0.0
(g)その他	2	18.2
合計	11	100.0

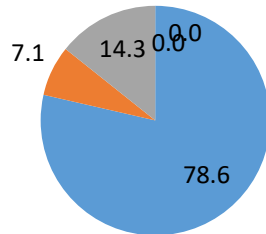


- (a) 日本技術士会の同報メール
- (b1) 技術士会/青年委員会のHP
- (b2) その他のHP
- (c) 青年委員会のブログ
- (d) 月刊PEの行事予定
- (e) 以前に参加した青年委員会のイベント
- (f1) 青年委員会のメンバーからの紹介
- (f2) その他の人からの紹介

- ・ 委員長の勧め
- ・ 先輩からの勧め
- ・ 何となく参加してみようと思った

Q6. 今回のイベントに参加した目的は何ですか（複数回答あり）？

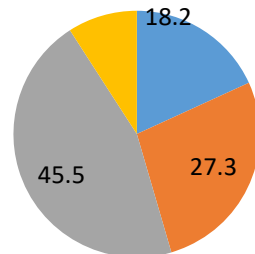
回答	回答数	割合（％）
(a) テーマや内容に興味等	11	78.6
(b) 参加者への興味（人脈の拡大）	1	7.1
(c) 青年委員会への興味	2	14.3
(d) CPDのポイント取得	0	0.0
(e) 上記以外	0	0.0
合計	14	100.0



- (a) テーマや内容に興味等
- (b) 参加者への興味（人脈の拡大）
- (c) 青年委員会への興味
- (d) CPDのポイント取得
- (e) 上記以外

Q7. 青年委員会のイベントに参加するのは今回で何回目ですか？

回答	回答数	割合（％）
(a) 初めて	2	18.2
(b) 2回目	3	27.3
(c) 3回目以上	5	45.5
(d) はっきりしない	1	9.1
合計	11	100.0



- (a) 初めて
- (b) 2回目
- (c) 3回目以上
- (d) はっきりしない

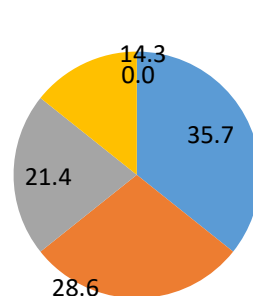
Q8. 過去に参加したイベントで、印象深かったテーマや面白かったテーマは何ですか？

- ・ 国際交流
- ・ 英語イベント
- ・ 防災施設見学
- ・ 8月イベント
- ・ 合格者祝賀会
- ・ CAFE036
- ・ 近畿中部の合同イベント

●青年委員会の活動について

Q9. 青年委員会の活動として開催してほしいイベントは何ですか（複数回答あり）？

回答	回答数	割合（％）
(a) 情報の提供	5	35.7
(b) 変化の提案	4	28.6
(c) 楽しみの場の提供	3	21.4
(d) 人脈形成の場の提供	2	14.3
(e) 上記以外	0	0.0
合計	14	100.0



- (a) 情報の提供
- (b) 変化の提案
- (c) 楽しみの場の提供
- (d) 人脈形成の場の提供
- (e) 上記以外

- ・ 見学会
- ・ 懇親会
- ・ 国際交流

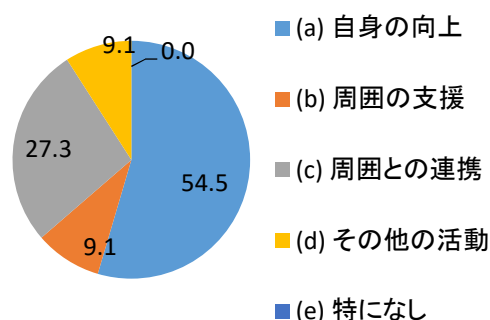
Q10. イベントの内容以外について、ご希望がありましたらお書きください。

- ・ 土曜日開催が良い

●技術士または技術者としての活動について

Q11. 技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか(複数回答あり)?

回答	回答数	割合(%)
(a) 自身の向上	6	54.5
(b) 周囲の支援	1	9.1
(c) 周囲との連携	3	27.3
(d) その他の活動	1	9.1
(e) 特になし	0	0.0
合計	11	100.0

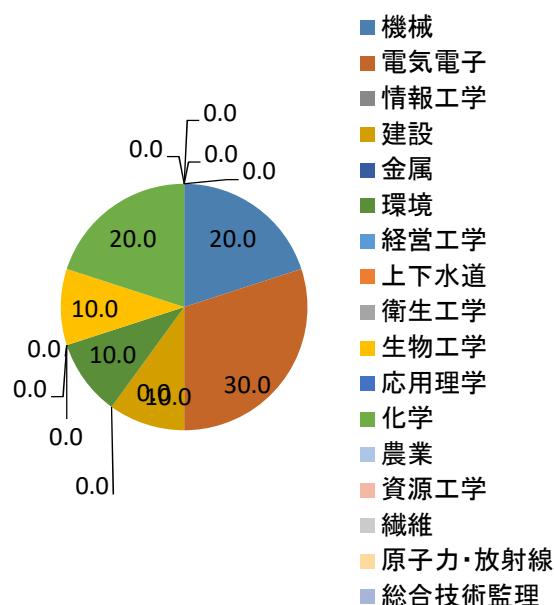


- ・ 資格取得
- ・ 企業内での教育
- ・ 専門学会への参加
- ・ 部会・WGへの参加
- ・ セミナー参加
- ・ 部会・WGへの参加
- ・ 研究会
- ・ CPD取得

●あなたご自身について

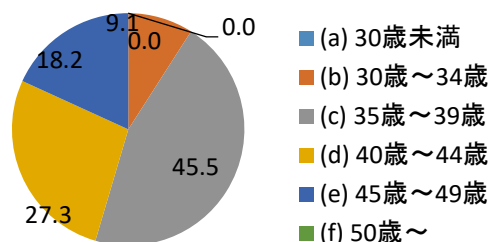
Q12. 技術部門は何ですか?

回答	回答数	割合(%)
機械	2	20.0
電気電子	3	30.0
情報工学	0	0.0
建設	1	10.0
金属	0	0.0
環境	1	10.0
経営工学	0	0.0
上下水道	0	0.0
衛生工学	0	0.0
生物工学	1	10.0
応用理学	0	0.0
化学	2	20.0
農業	0	0.0
資源工学	0	0.0
繊維	0	0.0
原子力・放射線	0	0.0
総合技術監理	0	0.0
合計	10	100.0



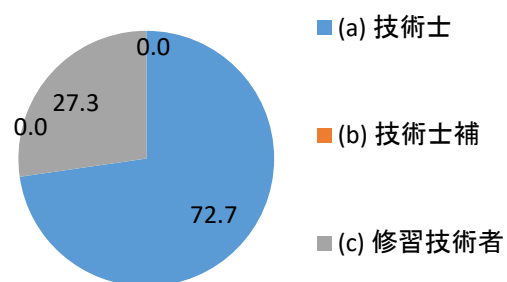
Q13. 年齢層について、該当する項目を選択してください。

回答	回答数	割合(%)
(a) 30歳未満	0	0.0
(b) 30歳～34歳	1	9.1
(c) 35歳～39歳	5	45.5
(d) 40歳～44歳	3	27.3
(e) 45歳～49歳	2	18.2
(f) 50歳～	0	0.0
合計	11	100.0



Q14. 会員層について、該当する項目を選択してください。

回答	回答数	割合 (%)
(a) 技術士	8	72.7
(b) 技術士補	0	0.0
(c) 修習技術者	3	27.3
(d) JABEE認定プログラムの学生	0	0.0
(e) その他	0	0.0
合計	11.0	100.0



行事名	12 月例会:会議のコツ ～働き方改革の決定版～
日時	2018/12/15(土) 13:30～17:30
場所	機械振興会館 6-66 室
講師、発表者	発表者:瀧川委員、山本委員、赤木委員
担当者: (○印:リーダー)	鈴木副委員長、瀧川委員、山本委員、○赤木委員(記)
参加者数	28名

1. 背景・目的

全てのビジネスパーソンが多くの時間を「会議」、「打合せ」に費やしている。これらを効率的に実施することで、ムダな時間を省略し、より付加価値の高い作業に時間を使用できる、働き方改革の決定版ともいえる。そこで、会議のコツを講義で共有し、実践することで会議のあり方を考える。

2. 例会内容

2-1. 青年委員会紹介 臼井委員 (13:35～13:45)

青年委員会の紹介を行った。

2-2. アイスブレイク 鈴木副委員長 (13:45～14:00)

参加者の緊張をほぐし、リラックスしてイベントにのぞんでもらうため、参加者同士がペアになり、お互いの共通点を見つけるアイスブレイクを実施した。

2-3. 講義1 《会議のコツ》 赤木委員 (14:00～14:20)

会議に費やしている時間および会議に対する不満のアンケート結果を紹介し、それらを解消するためのヒントを提案した。また、世代別の会議での役割、目的に合わせた実施時間と場所の設定について紹介した。

2-4. 講義2 《ファシリテーション》 瀧川委員 (14:20～14:40)

会議を効率的に運営するためのファシリテーションについて、説明を実施した。ある会社の会議をモデルとし、会議中に発生する様々な事象に対してどのように対応するべきかを紹介した。

2-5. 講義3 《ホワイトボードの使い方》 山本委員 (14:40～15:00)

会議でよく使用されるホワイトボードについて、有効な使用方法を説明した。会議前、会議中、会議後のフェーズに分けて、何をどのように書くと効果的か紹介した。

2-6. GW 想定会議 (15:10～16:10)

企画者から提示した3つの想定会議案もしくは自由設定による会議案を設定し、会議をしていただいた。各チームでファシリテーターおよび書記を選定し、50分で目的としている事項を決定していただいた。また、講義のポイントを再度紹介し、それらを考慮しながら実施した。

2-7. GW 振り返り (16:10～16:50)

実施した想定会議について、KPT手法で振り返りを実施した。この振り返り結果を主に各チームから実施内容を発表していただいた。

2-8. 交流会 (17:40～19:40)

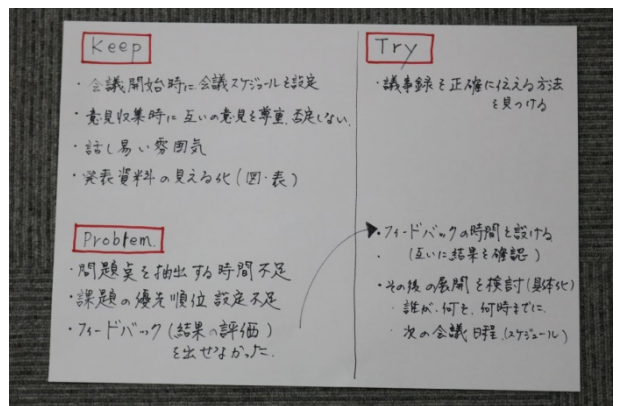
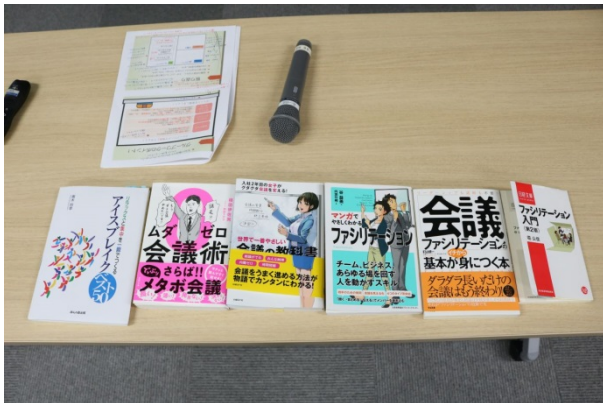
同会場にて交流会を実施し、参加者との交流を実施した。

3. 成果と所感・今後の展開

- ・ 関心の高いテーマであり、青年委員会に初参加の方が17名(参加者の約74%)と多かった。
- ・ 全てを内部リソースで実施した点は評価できるが、前半終了時点で3名が帰られたことから、参加者の期待値が高く、専門家の話を期待していた方もいたようである。
- ・ 開始時は硬い表情の方が多く見られたが、アイスブレイクにより、場を和ませることができた。
- ・ 内部イベントで活用した振り返り手法をグループワーク後に実施することで、グループワークの内容についてより理解を深めていただけたと考える。
- ・ 技術者にとって共通のビジネステーマは期待値が高いため、募集時に内容を十分に伝える必要がある。

以上

活動写真

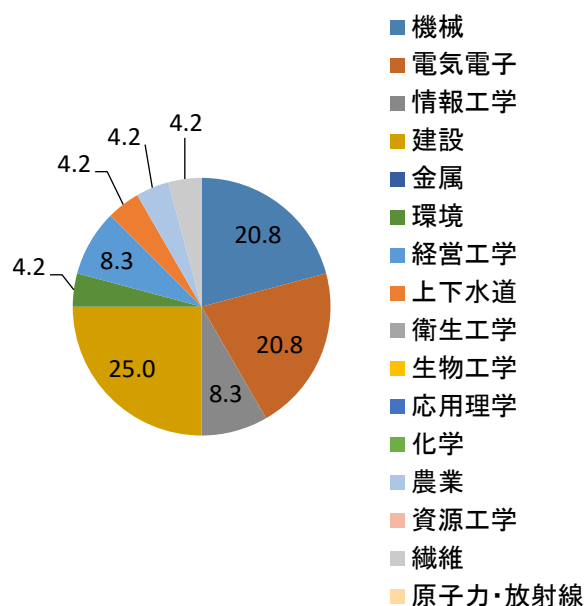


●平成30年度 12月例会「会議のコツ ～働き方改革の決定版～」 外部アンケート結果

Q1. あなたご自身についてご記入ください。

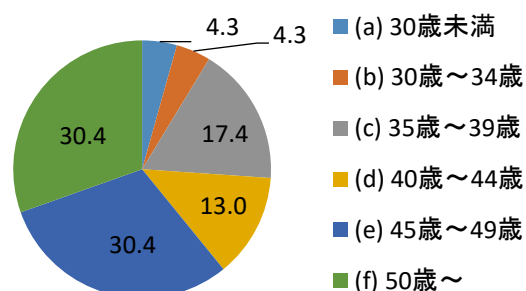
Q1-1. 技術部門

回答	回答数	割合(%)
機械	5	20.8
電気電子	5	20.8
情報工学	2	8.3
建設	6	25.0
金属	0	0.0
環境	1	4.2
経営工学	2	8.3
上下水道	1	4.2
衛生工学	0	0.0
生物工学	0	0.0
応用理学	0	0.0
化学	0	0.0
農業	1	4.2
資源工学	0	0.0
繊維	1	4.2
原子力・放射線	0	0.0
合計	24	100.0



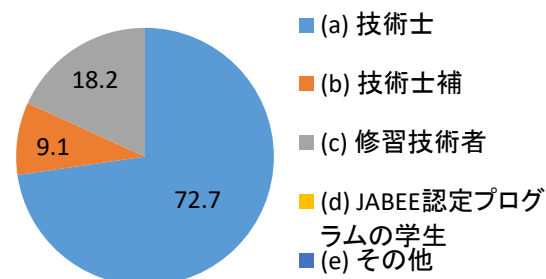
Q1-2. 年齢層

回答	回答数	割合(%)
(a) 30歳未満	1	4.3
(b) 30歳～34歳	1	4.3
(c) 35歳～39歳	4	17.4
(d) 40歳～44歳	3	13.0
(e) 45歳～49歳	7	30.4
(f) 50歳～	7	30.4
合計	23	100.0



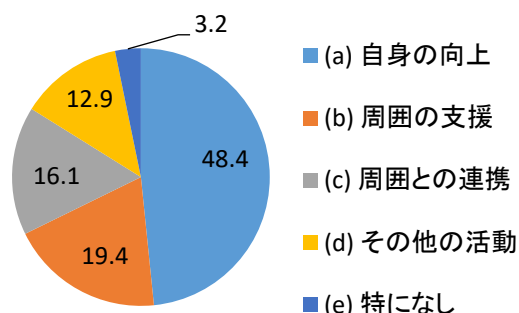
Q1-3. 会員層(技術士資格制度での位置づけ)

回答	回答数	割合(%)
(a) 技術士	16	72.7
(b) 技術士補	2	9.1
(c) 修習技術者	4	18.2
(d) JABEE認定プログラムの学生	0	0.0
(e) その他	0	0.0
合計	22	100.0



Q2. 技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 自身の向上	15	48.4
(b) 周囲の支援	6	19.4
(c) 周囲との連携	5	16.1
(d) その他の活動	4	12.9
(e) 特になし	1	3.2
合計	31	100.0

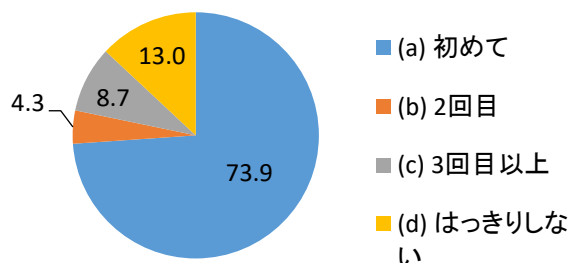


- ・ 資格取得、部会参加
- ・ 講演会後の交流会
- ・ 資格取得など
- ・ 社内外での発表
- ・ 仕事に関する資格
- ・ 国際交流
- ・ CPDプログラム参加/社内での勉強
- ・ 営業
- ・ 資格取得
- ・ 後輩への資料提供(技術士会セミナー)/技術士教育会社へのレポート添削
- ・ 資格取得(電気系、情報系)/受験指導

Q3. 青年委員会の活動について

Q3-1. 青年委員会のイベント参加回数

回答	回答数	割合(%)
(a) 初めて	17	73.9
(b) 2回目	1	4.3
(c) 3回目以上	2	8.7
(d) はっきりしない	3	13.0
合計	23	100.0

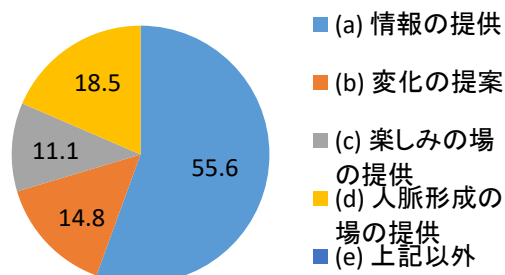


Q3-2. 過去に参加したイベントで、印象深かった・面白かったテーマがございましたら、お書きください。

- ・ 合格者懇親会
- ・ 英語イベント、ディベート体験
- ・ 飲み会

Q3-3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント(複数回答可)、具体例について

回答	回答数	割合(%)
(a) 情報の提供	15	55.6
(b) 変化の提案	4	14.8
(c) 楽しみの場の提供	3	11.1
(d) 人脈形成の場の提供	5	18.5
(e) 上記以外	0	0.0
合計	27	100.0



- ・ 再生エネルギーの見学会/外国人との交流
- ・ 法律、技術規準の最新動向
- ・ 部門間の連携テーマ等

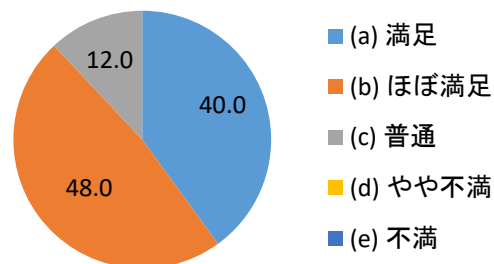
Q3-4. 内容以外について、ご希望などがございましたら、お書きください。

- ・ 土曜日であったので参加できました。土曜であれば参加の幅が広がります。

Q4. 今回のイベントについて

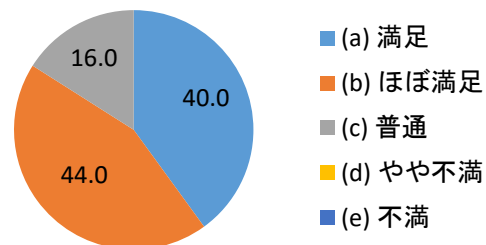
Q4-1. 今回のイベント全体の評価

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	10	40.0
(b) ほぼ満足	12	48.0
(c) 普通	3	12.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0



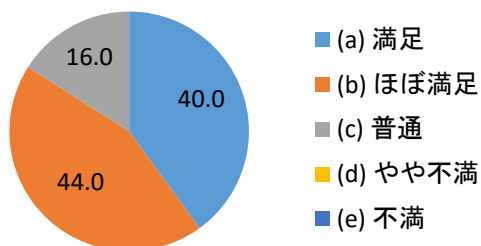
Q4-2. 講師の話し方や進め方の評価

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	10	40.0
(b) ほぼ満足	11	44.0
(c) 普通	4	16.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0



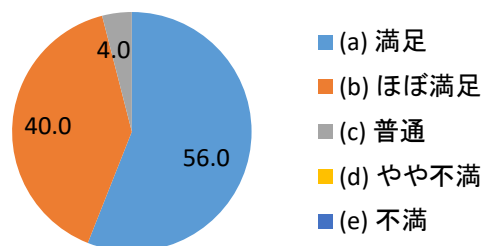
Q4-3. 配布・プレゼン資料の内容の評価

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	10	40.0
(b) ほぼ満足	11	44.0
(c) 普通	4	16.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0



Q4-4. スタッフの対応の評価

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	14	56.0
(b) ほぼ満足	10	40.0
(c) 普通	1	4.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0



Q4-5. 講師に伝えたいこと

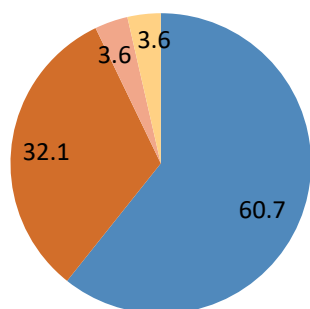
- ・ 質問の時間があればよかった
- ・ 勉強になりました。本の紹介もあり、研鑽したいと思います。
- ・ 分かりやすかったです。

Q4-6. スタッフに伝えたいこと

- ・ 準備お疲れさまでした。
- ・ ご苦労様です。
- ・ 青年委員会の紹介は興味深かった。内容の紹介をもっと多くしても良いのではないのでしょうか。

Q5. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 日本技術士会の同報メール	17	60.7
(b1) 技術士会/青年委員会のHP	9	32.1
(b2) その他のHP	0	0.0
(b3) 青年委員会のTwitter	0	0.0
(b4) 青年委員出演のラジオ	0	0.0
(c) 青年委員会のブログ	0	0.0
(d) 月刊PEの行事予定	0	0.0
(e) 以前に参加した青年委員会のイベント	1	3.6
(f1) 青年委員会のメンバーからの紹介	0	0.0
(f2) その他の人からの紹介	1	3.6
(g)その他	0	0.0
合計	28	100.0

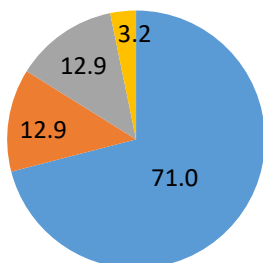


- (a) 日本技術士会の同報メール
- (b1) 技術士会/青年委員会のHP
- (b2) その他のHP
- (b3) 青年委員会のTwitter
- (b4) 青年委員出演のラジオ
- (c) 青年委員会のブログ
- (d) 月刊PEの行事予定
- (e) 以前に参加した青年委員会のイベント
- (f1) 青年委員会のメンバーからの紹介
- (f2) その他の人からの紹介
- (g)その他

Q6. 参加の目的と達成度について

Q6-1. 目的は何ですか(複数回答可)？

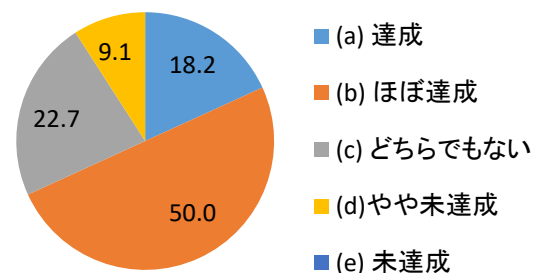
回答	回答数	割合(%)
(a) テーマや内容に興味等	22	71.0
(b) 参加者への興味(人脈の拡大)	4	12.9
(c) 青年委員会への興味	4	12.9
(d) CPDのポイント取得	1	3.2
(e) 上記以外	0	0.0
合計	31	100.0



- (a) テーマや内容に興味等
- (b) 参加者への興味(人脈の拡大)
- (c) 青年委員会への興味
- (d) CPDのポイント取得
- (e) 上記以外

Q6-2. 目的の達成度

回答	回答数	割合(%)
(a) 達成	4	18.2
(b) ほぼ達成	11	50.0
(c) どちらでもない	5	22.7
(d) やや未達成	2	9.1
(e) 未達成	0	0.0
合計	22	100.0



- (a) 達成
- (b) ほぼ達成
- (c) どちらでもない
- (d) やや未達成
- (e) 未達成

行事名	2018 年 12 月:『学生と技術士の対話会』（慶応技術士会との共催）
日時	2018 年 12 月 8 日（土） 13:30～17:00
場所	慶應義塾大学 理工学部（矢上キャンパス） 厚生棟 3 階 中会議室
参加者	横田敬久、清水雄太
担当者： （○印：リーダー）	○横田敬久、白井一光（※）、清水雄太 （※他イベントと重なったため当日不参加）
参加者数	学生5名（慶応技術士会 8名 青年技術士交流委員会 2名）

1 背景・目的

昨年に引き続き大学技術士会と連携として、慶応技術士会の学生との対話会に参加させていただいた。

2 イベント内容

2-1 対話会開催の趣旨説明(13:30～13:35)

慶應義塾大学 理工学部機械工学科 小川邦康 准教授（教育点検改善委員会 委員長）

JABEE の審査員および慶応技術士会との連絡を担当しておられる小川准教授より、今回の学生との対話会の企画について挨拶をいただいた。

2-2 開会の挨拶(13:35～13:40)

慶應技術士会 石井 正則会長（機械・総合技術監理）

慶應技術士会の石井会長より技術士取得により、技術士の資格を取得することに独占業務が得られるわけではないが、一人前の技術者として認められ国際的な仕事をする上で役に立つ資格であるとのお話があった。

2-3 技術士の業務紹介(13:35～14:00)

対話会に参加する技術士の自己紹介・業務紹介をおこなった。参加した技術士・技術士補は以下の通り。

慶應技術士会	石井 正則	（機械・総合技術監理）
	安藤 祐介	（機械部門）
	大森 雄治	（情報工学）
	蔭山 照文	（機械・総合技術監理）
	須田 裕之	（電気電子）
	高木 裕史	（機械部門）
	田中 圭	（海洋・船舶、Chartered Engineer U.K）
	西岡 朝明	（化学部門）

青年委員	横田 敬久	（情報工学・総合技術管理）
	清水 雄太	（化学・修習）

2-4 学生との対話（14:05～17:00）

2つのテーブルにわかれて、1テーブルあたり学生2～3名と技術士5名での対話会をおこなった。

途中に休憩をはさみ、グループを交代した。どのテーブルも青年委員1～2名、慶応技術士会1～2名の構成になるようにした。これにより、学生（20代）、技術士・修習技術者（20代後半～30代・40代・50以上）と1グループで各世代がそろった対話会が実現した。

2-5 閉会の挨拶(17:00～17:30)

慶応技術士会の蔭山様より閉会の挨拶をおこない。本対話会を終了した。

3. 成果と所感

今回の対話会で以下の成果と所感を得た。

- A. 参加人数が前回よりも減少してしまったこともあり、対話の人数のバランスが崩れ技術士側が多めになったため学生と技術士との温度差を感じた。技術士側が前のめりの対話になってしまい、学生側がひいてしまった感じがある。

4. 今後の展開

今後、発展させていただきたい点は、以下の通りである。

- A. 大学技術士会との連携の強化・定期化
昨年に引き続き慶應技術士会の対話会に参加させていただくことにより、イベントの定期化ができたと言える。今後、参加者・主催者側の構成人数も情報として考慮に入れ大学の技術士会とのイベントも協力していきたい。
- B. 他学科へのイベント開催アピールの強化
今回から学生との対話会と名称が変わったが、結果としては機械工学科の学生のみでの参加であった。参加人数は少ないものの4研究室からの参加(去年は2研究室)であったため、昨年より広い範囲からの参加となった、引き続き、他学科へのアピールも慶應技術士会・慶應大学側に呼びかけていきたいと考える。

以上、文責 横田

【添付資料: 慶應技術士会対話会開催状況】

【対話会開催の趣旨説明 小川准教授】

【開会の挨拶 石井会長】



【対話会の様子】



以上

行事名	1 月例会：CAFE036 公費派遣者の派遣報告 および 英語ワークショップ “Let’s talk in English! Let's interact!!”
日時	2019年1月19日(土) 13:30-17:20
場所	機械振興会館 6 階 会議室 D-4
担当者： (○:主担当)	○田中委員、萩尾委員、滝口委員補佐、明山委員補佐
参加者数	参加者：26名、スタッフ：14名

1. 背景・目的

本例会は、青年技術士交流委員会の例会の中で人気があり、リピーターの多い、定期開催の英語ワークショップである。今回で開催は7回目となる。これまで英国人講師 Steven Ashton 氏にワークショップを依頼してきたが、今回は新たな取り組みとして、青年メンバーのみで独自のワークショップを開催した。また、昨年11月に参加した ASEAN 技術者組織会議（CAFE0）について、公費派遣者3名の派遣報告を実施した。英語ワークショップの目的は、Speaking および Listening に焦点を当てたグループワーク・ペアワークを通じた英会話の実践・スキルアップを図ることである。CAFE0 報告の目的は、若手技術者の国際感覚を醸成すると共に、青年委員会の活動への理解と興味を深め、同活動への参加者を獲得することである。

2. 例会内容

例会は第一部「青年委員会活動紹介, CAFE0 参加報告および参加者募集」、および第二部「英語ワークショップ」の2部構成で実施した。

《第一部：青年委員会活動紹介, CAFE036 参加報告および CAFE037 案内》

2-1. オープニング&例会の目的, スケジュール説明&開会挨拶（田中委員、諸田委員長）[13:30-13:35]

田中委員から本イベントにおける写真撮影可否等の諸注意や本例会の企画意図およびスケジュールを説明した。諸田委員長からは、自身のアメリカ留学の経験を踏まえて、「とにかく会話を楽しんで話す」というメッセージが送られ、参加者のモチベーションが上がった。

2-2. 青年委員会の紹介（明山委員補佐）[13:35-13:40]

明山委員補佐から国際 G を中心とした青年委員会の概要を説明した。参加者からは「CAFE0 の中で、どのような国際会議の議題があるか」という質問を受けた。萩尾委員から「教育、出版等があり、その年によって特別なトピックもある」と回答した。

2-3. CAFE036 参加報告 & CAFE037 案内（萩尾委員、竹内委員、明山委員補佐）[13:40-14:00]

昨年シンガポールで行われた CAFE0 について、公費派遣者3名による参加報告を行った。

CAFE0 の概要や、CAFE0 と同時に開催された FEIAP 会議や、スタートアップチャレンジやテクノツアー等の実際の取り組み内容について紹介した（詳細は Appendix 参照）。また、CAFE0 に参加することで、自己研鑽等の良い

刺激を受けたことや、他国の技術者とのつながりが出来たこと等のメリットも説明した。最後に今年インドネシアで開催される CAFE037 の案内を行った。参加者からは FEIAP での取り組み内容や、オーストラリアの技術者の技術レベルはどれくらいか等の質問を受けた。FEIAP については、竹内委員から「若手技術者のスキルアップのための取り組みである」と回答した。オーストラリアの技術者レベルについては、萩尾委員から「オーストラリアは最近 CAFE0 には参加していない。ただ現在オーストラリアとの二国間交流を開始した。交流はまだ開始したばかりなので、技術レベルについてはまだ把握できていない」と回答した。

《第二部：英語ワークショップ》

2-8. 英語ワークショップ（田中委員、萩尾委員、滝口委員補佐、明山委員補佐）[14:00-17:10]

今回は英語初中級者を主対象とし、「Let's talk in English! Let's interact!!」をテーマとした。

今回は 5～6 名ごとのテーブル配置とし、ワークショップの途中で 1 度席替えを行った。人数の不足しているグループには参加者の別グループへの移動や、青年スタッフが一時的にグループに入ることに対応した。

1 分間特性のトピックについて話し続ける 1 on 1 トークや、カードに描いてある絵を当てるゲーム、電話対応グループワーク、寸劇と、盛りだくさんのコンテンツであった。終始参加者全員が英語を話し、聞き、非常にアクティブなワークショップであった。

2-9. クロージング（田中委員、鈴木委員）[17:10-17:20]

ワークショップの閉会を宣言し、鈴木委員から 2 月例会の紹介を行った。参加者のアンケートを記入後、参加者および青年スタッフで、記念撮影を行った。

2-10. 交流会（青年スタッフ、参加者）[17:30-19:30]

同会場でケータリングを手配し、交流会を開催した。参加者 20 名、青年メンバー 13 名の合計 33 名が参加し、交流を深め、盛会となった。

3. 成果と所感

【第一部：青年委員会活動紹介、CAFE0 参加報告および参加者募集】

- ・ CAFE0 に関する説明会では、カントリーレポートやテクノツアーに興味を持った聴講者が多かった。聴講者の中には、次回の CAFE0 参加も検討したいとの声もあった。

【第二部：英語ワークショップ】

（ワークショップ内容）

- ・ 1 on 1 トーク（テーブルの向かいの人とペアになり、与えられたトピックについて 1 分間スピーチを行う）
テーブルによっては 2 人ペアを作れないところがあったが、別グループへ移動することに対応できた。
- ・ 自己紹介（グループ内で 1 人 3min 自己紹介を行う）
自己紹介については事前にワークショップで行うことを参加者に伝えていたため事前に準備してきたのか、全グループ会話が絶えない様子であった。1 人 3min と設定したが、3min ごとに合図しない場合は話が弾んで時間が足りなくなる場面があった。今後は 3min ごとに合図するようにする。
- ・ カード当てゲーム（グループ内で 1 人がカードを選び、選んだカードについてその物自体の名称は言わず、説明だけをして、他メンバーがその物の名称を当てるゲーム）
カードは 20 枚用意したが、5 分間で最高で 6 枚のカードまでしかたどり着けなかった。カード内容をもう少し簡単にするか、もしくは分からない場合はパスしても良いルールを作った方が良い。また、カードゲームのルールを十分理解できていない参加者もあり、説明時に手本を見せればより良い。
- ・ 電話対応（電話対応時の各会話が表に日本語、裏に英訳で記載されたカードを使用。グループ内で 3 人

ペアになり、1 人はカードの日本語面を話し手に見せて会話の補助をする。最後にペアに対して「凄い、面白い」等を簡単な表現で誉める)

青年スタッフで手本を見せた。2 ペアに発表してもらったが、携帯電話を小道具として用いるグループもあり、オリジナリティー溢れる発表であった。カードを使用した後にカードがバラバラになるチームがあった。カードをリングに通しておいた方が良い。

- ・ 寸劇 (いくつか寸劇テーマを用意し、各グループでテーマ選んでもらう。選んだテーマについてグループ内で台本作り、発表する)

青年スタッフで手本を見せた。当初台本作りは 30min を予定していたが、時間が足りないグループがあり、台本作成を 10min 延長した。発表は 5 グループのうち 3 グループがテーマ③ (外国人の友人に日本のどこに行きたいか意見を聞く)、1 グループがテーマ① (パーティでの会話「各国のおススメのお土産」)、1 グループがテーマ①に肉付けした内容であった。どのグループも小道具を用いたり、ジョークを入れたりとオリジナリティーに溢れ、演じる方も聞く方も終始笑顔が絶えない様子であった。

(参加者からの感想)

- ・ 参加者からのアンケートでは 100%が“満足”と回答している (内訳として、回答者 25 名中“満足”が 24 名、“ほぼ満足”が 1 名)。参加者同士の英語による積極的な会話が行われ、レスポンス力及び持続力向上のトレーニングが実現できた。
- ・ 参加者からは「よく工夫されていたと思います。素晴らしい挑戦ありがとうございます」や、「楽しい企画をありがとうございます。」とのコメントをいただいた。

(その他)

- ・ テーブルにお茶菓子を置き、ワークショップ開始前にグループ内で自己紹介を行うように促すことや、コンテンツ終了後に参加者へのインタビューを行うことで他参加者はコメントを発表した参加者と交流が図りやすくなり、参加者同士で打ち解けやすい雰囲気となった。参加者は終始笑顔で、英語を“楽しむ”ことができた。
- ・ 事前に一部ワークショップ内容 (自己紹介や寸劇内容) を参加者に提示しておくことで、参加者の方である程度準備をしておくことができた。
- ・ 休憩時間もグループ内でお菓子を食べながら歓談する光景が見られた、各メンバーの自己紹介後に拍手をしたりと和気あいあいとした雰囲気で参加者間でも十分に交流できたと感じる。

[全体を通して]

- ・ 英語ワークショップ後は交流会を開催し、英会話を実践する機会とともに、交流する有益な場を参加者に提供できた。
- ・ 本例会の参加者 26 名のうち、12 月参加者が 5 名、過去英語例会参加者が 3 名であった。青年イベントリピーターは 12 名を占めた。12 月例会での宣伝は有用な手段であると考え。
- ・ イベントは約 1 か月前に募集人数 30 名に達しており、参加者の英語への強い興味が伺えた。ただし、インフルエンザ感染によるキャンセルが 3 名いたので、今後は時期を考慮して募集締切タイミングを図る必要がある。
- ・ 開催前日にリマインドメールを送ることで、当日のキャンセルは 1 名だけであった。リマインドメールは効果的であると考え、今後もリマインドメールを送ることとしたい。
- ・ 多くの参加者から「とても楽しかった」、「来てよかった」、「素晴らしい企画だった」との多くのコメントがあり、アンケートでは 100%が“満足”と回答している。
- ・ お茶菓子を用意したことや、ワークショップの間に適宜参加者へ感想を聞くことで、よりアットホームな雰囲気になったのではないかと考える。

4. 今後の展開

- CAFEО 報告については、今後は詳細な CAFEО のバックグラウンド、会議で議論される技術的な内容紹介や、実業務とのつながり等についても説明できればと考える。青年メンバーだけでは分からない情報については、長年 CAFEО に参加している技術士会員から発表いただいても良いかもしれない。
- 英語ワークショップについては、事前準備として、ワークショップ開催前に一部コンテンツの事前連絡やリマインドメールを送ることで、より英語学習が効果的になる。また、今回のようなお茶菓子を用意して最初に参加者間で自己紹介をする、参加者にインタビューを行う等を行うことで、参加者同士の交流も活性化される。
- これまで英国人講師 Steven Ashton 氏にワークショップを依頼してきたが、今回は新たな取組みとして、青年メンバーのみで独自のワークショップを開催した。参加者からのアンケート結果のイベント満足度としては、前回(2018 年 5 月)の講師ありの場合は 93%が“満足”と回答した（内訳として、回答者 28 名中“満足”が 16 名、“ほぼ満足”が 10 名、“普通”が 1 名、“やや不満”が 1 名）。一方今回のワークショップでは 100%が“満足”と回答している（内訳として、回答者 25 名中“満足”が 24 名、“ほぼ満足”が 1 名）。このことから、講師なしでも十分に満足度の高いワークショップが提供できると考える。
- 英語ワークショップは青年イベントの中でも人気のイベントであり、参加者からも「英語イベントをもっと頻繁に開催してほしい」とのコメントもあった。今後も継続して英語ワークショップを開催したい。
- 懇親会では料理にあまり手を付けていない参加者がいた。トングがなかったこと、皿やコップが足りなかったこと、どれが自分のコップか分からなくなったことが主な要因だと考えられる。今後は皿・コップは少なくとも人数に対して 3 倍は用意する、コップに名前を書く、ドリンクはドリンクバーのようなドリンク専用の場所に置いておく、食べ物にはトングを用意するか取り分け不要なメニューにする等、気を付ける。
- 懇親会について、今後はより気軽に参加できるよう 1 時間程度で、飲酒なしのお茶会にすることも検討したい。

5. 実施状況

会場の様子



諸田委員長の挨拶



萩尾委員、竹内委員、明山委員補佐による CAFE036 の報告



英語ワークショップ



集合写真



以上

1/18

2019年 1月19日 英語イベント

CAFEO36/YEAFEO25

PARTICIPATION REPORT

青年技術士交流委員会 国際グループ

リーダー：萩尾友治(機械)
サブリーダー：明山公也(機械)
竹内将人(化学)



IPEJ-YEC

2/18

1. CAFEO/YEAFEOとは
2. 参加目的
3. 現地での活動
4. 成果
5. 今後について

IPEJ-YEC

3/18

1. CAFEO/YEAFEOとは

ASEAN加盟国の技術者が集まる国際会議

CAFEO
Conference of **A**SEAN **F**ederation of **E**ngineering **O**rganizations

YEAFEO
Young **E**ngineers of **A**SEAN **F**ederation of **E**ngineering **O**rganizations

<ASEAN加盟国>				
Brunei (PUJA)	Indonesia (PII)	Malaysia (IEM)	Philippines (PTC)	Thailand (EIT)
Cambodia (BEC)	Laos (LUSEA)	Myanmar (MES)	Singapore (IES)	Vietnam (VUSTA)

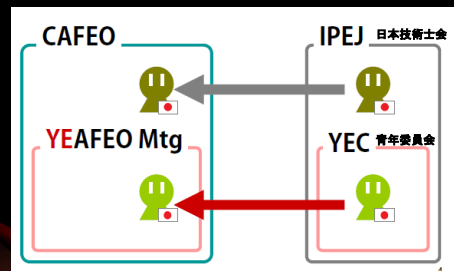
※日本や香港などはオブザーバー国として参加

IPEJ-YEC

4/18

1. CAFEO/YEAFEOとは

青年委員会では主にYEAFEOのプログラムに参加



IPEJ-YEC

5/18

2. 参加目的

- ・若手技術者の国際感覚の育成
- ・ASEAN諸国の技術者との人脈構築
- ・二国間交流の推進
- ・当該会議への継続参加による日本のプレゼンス強化
- ・参加者同士の交流

IPEJ-YEC

6/18

3. 現地での活動

会議名: CAFEO36 /YEAFEO25
日 程: 2018/11/11~14
場 所: Resorts World Sentosa, Convention center, Singapore



シンガポールにて開催



IPEJ-YEC

3. 現地での活動 7/18

※本日は黄字部分を紹介します。

日程		項目	
【1日目】 11/11	PM	YEAFO	サイクリング
【2日目】 11/12	AM	YEAFO	オープニングミーティング
		YEAFO	カントリーレポート
	PM	YEAFO	スタートアップチャレンジ
【3日目】 11/13		CAFO	ウェルカムレセプション
	AM	CAFO	開会式
	PM	YEAFO	YEAFO運営会議 &意見交換・各国のお土産交換 リバーサファリ
【4日目】 11/14		YEAFO	懇親会
	AM	YEAFO	テクニカルツアー
	PM	YEAFO	スタートアップチャレンジ&講演
		CAFO	閉会式

IPEJ-YEC

3. 現地での活動 8/18

アイスブレイク & 自己紹介

【オープニングミーティング】

①異なる国同士メンバーでグループ分け

②グループメンバーによる自己紹介動画の撮影&FBにUP

③動画を見て、面白いと思ったものに「いいね！」する。「いいね！」の数が多いグループが勝ち。

グループメンバーと仲良くなれた！

IPEJ-YEC

3. 現地での活動 9/18

各国活動の情報共有

【カントリーレポート】

各国にて活動内容をプレゼン。
例年通り、日本もプレゼンを実施。

ASEAN諸国の現状が分かる！

IPEJ-YEC

3. 現地での活動 10/18

グループワーク

【スタートアップチャレンジ】(1/2)

各グループで新しい事業テーマを一つ挙げ、実現していくための課題とそれを解決するために必要なプロセスについて、グループワークを実施。

直接、意見交換が可能！

<スタートアップ>
ビジネス上「立ち上げ」や「起業」などを指し、「比較的新しいビジネスで急成長し、市場開拓フェーズにある企業や事業」という意味で使われる。

IPEJ-YEC

3. 現地での活動 11/18

全員で議論

【スタートアップチャレンジ】(2/2)

各グループの事業テーマの中で、一番良いと思うものを各自投票し、上位2グループを選考。全員でどちらが実現しやすいのか議論。

自分の意見を発言できる！

優勝したチームのテーマは、「バナナを育てたあとの木を粉砕してつくられるバナナチップの有効活用」。

IPEJ-YEC

3. 現地での活動 12/18

意見交換 & お土産交換

【YEAFO運営会議&お土産交換】

各国代表者による運営会議、メンバー国同士の意見交換、お土産の交換を実施

今年開催国のチェアマンの配慮で、YEAFOメンバー国ではない日本側の発言機会も得た。

各国との信頼関係がより深くなった成果！

IPEJ-YEC

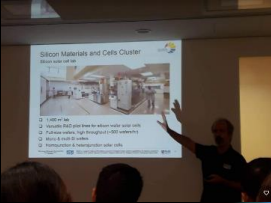
13/18

3. 現地での活動

【テクニカルツアー】

各施設の見学

- メガポートの建設工事現場
- ソーラーの研究開発施設

開催国での現場インフラや施設等を
間近で見ることができた！

IPEJ-YES

14/18

3. 現地での活動

【YAEFEO懇親会】

参加メンバー
全員との交流



各国の若手技術者同士、気軽に
コミュニケーション・交流できたのが
最大の魅力！！




IPEJ-YES

15/18

4. 成果

- ☆ 海外技術者達と**直接、気軽にコミュニケーション**し、交流できる貴重な機会を持つことができた。
- 日本国内では、仕事以外なかなか**機会がない！**
- ☆ 新しい海外技術者の**友達**ができた。帰国後も情報交換。
- 実際に日本技術を学びに来ることもあり継続交流可能！**
- ☆ ASEAN諸国の文化や現状社会の**知見を拡大**できた。
- 海外技術者と実際に話をして社会的視野を広げられる！**
- ☆ 英語を**実践的に**使用することができた。
- 今後の英語勉強のモチベーションアップにつながる！**

IPEJ-YES

16/18

5. 今後について

- ☆ 今後もCAFEO/YAEFEOへ継続参加し、海外技術者達との国際交流を継続していきたい。
- ☆ 来日する海外技術者のサポートをしたり、相手国へ出向くことで、二国間交流を活性化させていきたい。

IPEJ-YES

17/18

5. 今後について

2019年9月11～14日

次の開催地は**インドネシア**のジャカルタ



ASEAN Engineers as The Beacon of Sustainable Development

Connectivity Equitability Prosperity

11 - 14 September 2019 | Jakarta International Expo | Jakarta - Indonesia

2019年4月頃に説明会を開催します！！

IPEJ-YES

18/18

5. 今後について

ご清聴ありがとうございました。



国際交流活動に興味のある方は
ぜひ青年STAFFまで！！

IPEJ-YES

Q1.あなたご自身についてご記入ください。

技術部門

機械	3	船舶海洋航空宇宙	
電気電子	4	化学	1
繊維		金属	
資源工学		建設	6
上下水道	2	衛生工学	
農業		森林	
水産		経営工学	2
情報工学	6	応用理学	1
生物工学		環境	
原子力放射線	2	総監	2

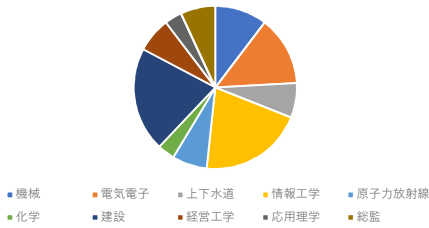
年齢層

a)30歳未満	5
b)30-34歳	2
c)35-39歳	6
d)40-44歳	5
e)45-49歳	1
f)50歳以上	6

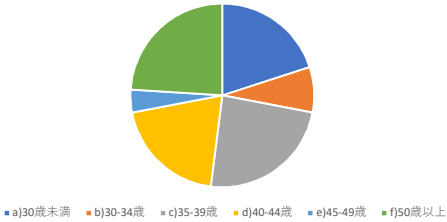
会員層

a)技術士	15
b)技術士補	4
c)修習技術者	5
d)JABEE学生	0
e)その他	1

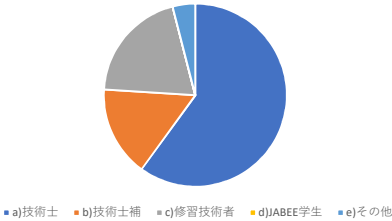
技術部門



年齢層

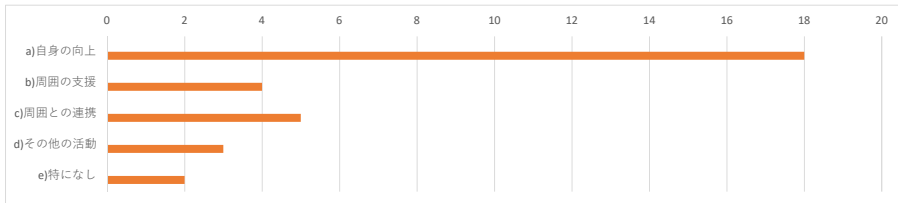


会員層



Q2.技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

a)自身の向上	18	国際委員会、資格取得、セミナー受講、英会話、TOEIC
b)周囲の支援	4	Sukiyaki塾講師、社内講師（英語）
c)周囲との連携	5	PMIにて教育支援、社内技術士会運営、SNS、
d)その他の活動	3	PIIBAにて研究会
e)特になし	2	



Q3.青年委員会の活動について

参加回数	a)初めて	11
	b)2回目	5
	c)3回目以上	7
	d)はっきりしない	

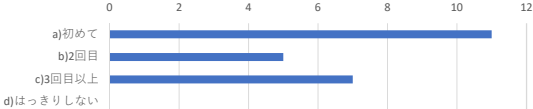
印象深かったテーマ

問題解決ワークショップ、ディベート、街歩き、英語例会

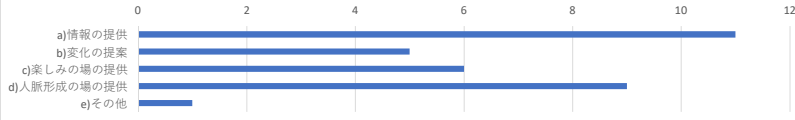
開催してほしいイベント

a)情報の提供	11	見学会、若手エンジニアの今後の進路
b)変化の提案	5	考える上で有益なもの
c)楽しみの場の提供	6	懇親会
d)人脈形成の場の提供	9	国際交流、外国エンジニアとの交流
e)その他	1	

参加回数



開催してほしいイベント



その他のご希望

平日19:00～21:00など

Q4.今回のイベントについて

イベント全体	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	24	1			
スタッフの対応	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	20	4			

スタッフに伝えたいこと

よく工夫されていたと思います。素晴らしい挑戦ありがとうございます
楽しい企画をありがとうございます。

第一部の青年紹介、CAFE036派遣報告について

発表者の報告	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	13	9	3		

興味あるトピック

a)カントリーレポート	11
b)テクノツアー	12
c)フェアウェルパーティー	3
d)その他	

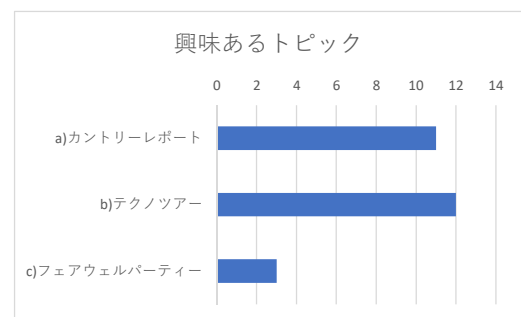
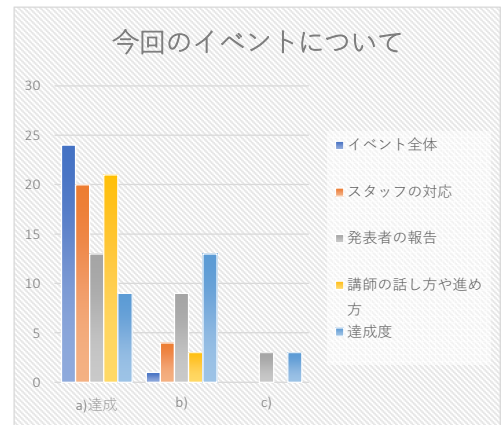
発表者への質問、要望等

第二部の英語ワークショップについて

講師の話し方や進め方	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)	e)不満
	21	3			

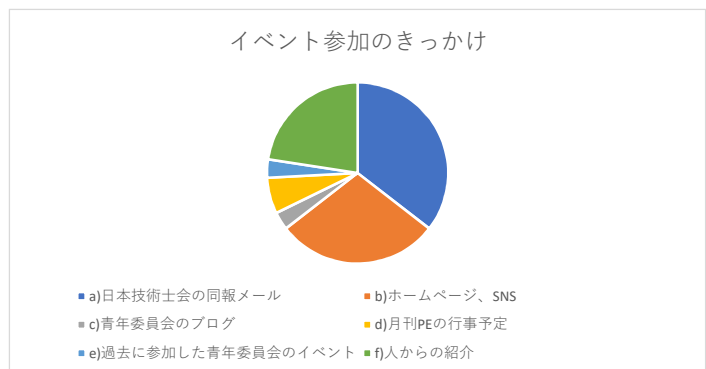
講師にお伝えしたいこと

excellent!
とても楽しかったです。
3分自己紹介のとき3分の目安があると良かったです。
とても楽しかったです。楽しく学べました。社内企画の参考になりました
すばらしい企画で充実した時間を過ごせました！



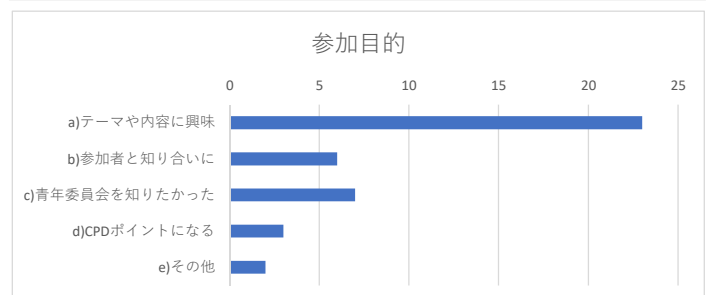
Q5.今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか

a)日本技術士会の同報メール	11
b)ホームページ、SNS	9
c)青年委員会のブログ	1
d)月刊PEの行事予定	2
e)過去に参加した青年委員会のイベント	1
f)人からの紹介	7
g)その他	



Q6.参加の目的と達成度について

目的	a)テーマや内容に興味	23
	b)参加者と知り合いに	6
	c)青年委員会を知りたかった	7
	d)CPDポイントになる	3
	e)その他	2



達成度	a)達成	b)	c)	d)	e)未達成
	9	13	3		

※達成度は、本ページ一番上のグラフに統合

欄外コメント

シンガポール技術者協会との交流を発展して
青年委員会の皆様の飛躍の場として育成したいと思います。
定期的に情報提供させていただきます。(都築様より)

行事名	技術士を目指そう、修習ガイダンス 2019 パネル討論
日時	平成 30 年 2 月 9 日 (土) 14:15~15:55
場所	日本教育会館 3階ホール (九段下、神保町、竹橋)
講師、発表者	コーディネーター:小塚 隆*(金属) 修習技術者パネリスト:清水 雄太*(化学)、角田 宗幸(電気電子) 技術士パネリスト:井口 慧士*(生物工学)、臼井 朗*(経営工学)、 西山 芳文(建設)、中田 よしみ(原子力・放射線) PC 操作担当:吉浦 勝一郎*(機械) *は、青年委員/補佐
担当者: (○印:リーダー)	○小塚、井口、臼井、清水、山本(アドバイザー)
参加者数	約180名(参加申込者数)

1. 背景・目的

修習技術者支援実行委員会(修習委員会)が主催する第一次試験合格者/JABEE 認定課程修了(見込)者を対象とした「技術士を目指そう、修習ガイダンス 2019」において、パネル討論を青年技術士交流委員会(青年委員会)にて例年通り担当した。パネル討論の主な目的は以下2点である。

- 1)修習技術者に向けて第二次試験受験および日本技術士会参加への動機づけを図る。
- 2)パネリストの実体験共有、技術士試験突破への意欲の増進、および技術士としての将来像を認識頂く。

2. パネル討論内容

タイトル:「プロフェッショナルを目指す、技術士として生きる」

No.	時間(分)	内容	説明
1	5	オープニング	・ コーディネータ挨拶 ・ パネリスト紹介 ・ パネル討論の目的と流れ
2	10 (5×2)	修習技術者パネリスト講演	・ 技術士受験動機 ・ 第二次試験に向けた現在の取組み ・ 第二次試験に向けた不安、悩み
3	5	パネル討論 1 2次受験に向けた 不安、悩みの整理	・ 漠然と感じている悩みの顕在化
4	20 (5×4)	技術士パネリスト講演	・ 受験動機 ・ 第二次試験突破の工夫 ・ 受験勉強中の悩みと解決方法 ・ 技術士の活用 ・ 日本技術士会の活用
5	20	パネル討論 2 第二次試験に向けて	・ 第二次試験への取組み ・ 勉強時間の確保 ・ 勉強方法 ・ 試験へのモチベーション維持 ・ 倫理観の学び方 ・ 試験中での時間配分について ・ JABEE からの技術士について
6	15	パネル討論 3 技術士として生きる道	・ 技術士の在り方 ・ 技術士になって変わったこと ・ キャリアプラン
7	10	パネル討論 4 日本技術士会の活用	・ メリット ・ 具体的な活用方法
8	10	質疑応答	
9	5	クロージング	・ 修習技術者の決意表明 ・ 技術の激励 締めの挨拶

3. 成果と所感

3-1. 成果

- ・昨年同様、修習委員がパネル討論の企画に関与し、修習委員のリクエストと私たちの思いを混ぜ合わせてつくりあげ、青年・修習ともに進めやすい状況で事前準備から本番まで進めることができた。
- ・パネリストの年齢層が幅広く、また技術士の活用が皆其々異なっていて、色々な観点で討論することができ参加者の皆様のお役に立てたのかと思う。(内部アンケートの結果からも確認できた。)
- ・時間通りに討論を終わらすことが出来た。予めシナリオを作成したことで時間管理がやりやすかったと思う。
- ・パネリスト全員が登壇できた。皆様のスケジュール調整と、健康管理に感謝いたします。

3-2. 所感

- ・昨年パネリストを経験し、山本さんが進められていた方法と過去の蓄積をベースに自分なりの進め方で最後まで進めることができた。かなり強引に進めてきたところもあったので、パネリストの皆様、山本さんを始め、たくさんの方々に助けを頂き、とても助かりました。
- ・昨年 12 月に PC 係、マイク係を急遽決めさせて頂き、本番では私の説明足らずのある中、ミスなく進めて頂き、とても感謝しています。吉浦さん、田中ひとみさん、白井さんありがとうございました。

4. 今後の展開

- ・次回以降、パネル討論に関しては修習委員が企画に関与してくると思われる。
- ・来年度も月1回修習委員と青年委員の修習ガイダンスプロジェクト会議が行われると思われるので、その際に青年と修習の意見のすり合わせを図ることが大切と考える。
- ・ガイダンスの参加者に関し、年々減少傾向にある。修習委員はアンケート結果から原因分析を行っているが、青年と修習ではガイダンスに対する考え方が異なるのかなと感じることがあるため、参加人数を増やすためにも修習委員に意見を申し入れるのも必要ではないかと考える。

以上
文責 小塚

【添付資料 1: パネル討論の開催状況】



写真 1 パネル討論全体図



写真 2 パネリストの西山さん



写真 3 パネリストの角田さん



写真 4 パネリストの中田さん



写真 5 パネリストの清水委員補佐



写真 6 パネリストの臼井委員



写真 7 パネリストの井口委員



写真 8 コーディネーターの小塚



写真 9 パネル討論終了時

平成 30 年度 修習ガイダンス 内部アンケート結果

ポスター				
	よかったこと		コメント数	コメント率
		委員長による活動内容説明時に多くの参加者が集まったこと	12	75%
		写真によって活動内容を説明し易かったこと	10	63%
		写真の裏に予め両面テープを貼っておくなど、過去の反省点を反映して準備作業の改善・効率化が図れたこと	7	44%
		補強によってポスターを見栄え良く展示できたこと	4	25%
		会場設営・撤収において貢献できたこと	1	6%
		参加者を青年ブースへ誘導できたこと	1	6%
		部会からの案内によって青年ブースへ来た参加者がいたこと	1	6%
	改善したいこと			
		青年のイベント参加や委員補佐への勧誘が不十分であったこと	3	19%
		青年イベントの案内を送付してよいか確認しなかったこと	1	6%
		委員長による活動内容説明時にサポートする役割を分担していなかったこと	1	6%
		活動内容説明に工夫の余地があること（寸劇等）	1	6%
		会場が機械振興会館となるため、変更点を事前に把握しておく必要があること	1	6%
		活動写真の再活用について検討の余地があること（ポスター化等）	1	6%
		展示に工夫の余地があること（動画、スライドショー、ラジオ音声等）	1	6%
		青年と部会・県支部との連携に改善の余地があること	1	6%

パネル				
	よかったこと		コメント数	コメント率
		コーディネータによる時間管理、進行が適切であったこと	11	69%
		バラエティに富んだパネリストであったため、討論、講演において様々な話が聞けたこと	11	69%
		質問が多かったこと	4	25%
		入念に事前準備（討論内容の検討、タスク管理、修習委員会との調整等）を行ったこと	3	19%
		全員が登壇できたこと（体調管理ができていたこと）	1	6%
		無事に終わったこと	1	6%
		パネリストとして参加したこと	1	6%
	改善したいこと			
		討論・講演内容に検討の余地があること	2	13%
		質疑応答に工夫の余地があること（時間配分見直し、参加者間の質問・意見交換等）	2	13%
		パネリストの人数に検討の余地があること（5人 or 6人？）	1	6%
		質問者数が少ないこと	1	6%
		スライド送りのタイミングが難しかったこと	1	6%
		コーディネータの数に検討の余地があること（2人にする等）	1	6%

祝賀会				
	よかったこと		コメント数	コメント率
		部門、地域に分かれて交流できたこと	7	44%
		参加者が楽しんでいたこと	4	25%
		様々な世代・職種（学生・若手・先生等）と交流できたこと	3	19%
		司会進行がスムーズであったこと	3	19%
		料理の量が適量であったこと	1	6%
		イベントの告知をする際に注目を集める声かけを行っていたこと	1	6%
		コーディネータ、パネリストが終始笑顔だったこと	1	6%
	改善したいこと			
		スピーカーからの音声聞こえない状況のなか、パネリストインタビューの必要性について検討の余地があること	13	81%
		例会紹介がうまくできなかったこと	2	13%
		コーディネーターによる締めの挨拶ができなかったこと	2	13%
		卓上の表示紙の設置にミスがあったこと	1	6%
		初対面が多いため、アイスブレイクの必要性について検討の余地があること	1	6%
		参加者からの参加費徴収の必要性について検討の余地があること	1	6%
		技術士会スタッフと参加者の年齢層の開きへの対応策を検討する余地があること	1	6%
		話相手がいない参加者がところどころで見られたこと	1	6%

二次会				
	よかったこと		コメント数	コメント率
		純粋に交流を楽しめたこと	5	31%
		多くの参加者が参加してくれたこと	4	25%
		青年委員会に関心のある方が参加してくれたこと	3	19%
		参加者を二次会へ誘ったこと	2	13%
		コスパがよかったこと	2	13%
	改善したいこと			
		青年委員会メンバーと参加者の交流を一層活発とするために検討の余地があること（席順、席替え等）	3	19%
		二次会への勧誘方法、役割分担を事前に調整しておく必要があること	3	19%
		会場が機械振興会館となるため、二次会会場を事前に把握しておく必要があること	2	13%
		料理が余ってしまったこと	1	6%
全体				
		1人に業務の負荷が集中したため、負荷を分散する必要があること	6	38%
		参加者数が減少しており、若手等、多くの人に収集ガイダンスへ参加してもらえるように声かけが必要であること	5	31%
		名刺交換した参加者の情報共有方法に検討の余地があること	1	6%

行事名	2月例会:青年よ大志を抱け!若手技術コンサルタント開拓セミナー
日時	2019/2/16(土) 13:30~17:30
場所	機械振興会館 B3-6 室
講師、発表者	秋元技術士、春山技術士、坂東技術士、大藺技術士、田口技術士
担当者: (○印:リーダー)	鈴木副委員長、瀧川委員、山本委員、臼井委員、○赤木委員(記)
参加者数	講演会(参加者:19名、スタッフ:14名) 交流会(参加者:12名、スタッフ13名)

1. 背景・目的

30代、40代と若くして技術士を取得し、さらに独立して活躍されている4名の技術士より、独立の動機、そのメリットと課題などを体験談とともにご講演いただく。参加者は45歳以下に限定し、若手技術者の士気を向上させるとともに、若手技術者として今後の独立を含めたキャリアプランを考える。

2. 例会内容

2-1. 例会案内 臼井委員 (13:30~13:35)

例会スケジュールおよび注意事項を説明した。

2-2. 企画趣旨説明 秋元技術士 (13:35~13:50)

今回の企画の主旨および企画検討経緯を説明した。

2-3. 講演1 春山技術士 「40歳・不惑を迎えてやりたいことは全部できる。」

仕事も私生活も全力で楽しむ欲張りエンジニアへの第一歩 (13:50~14:40)

春山技術士が独立に至るまでの経緯、独立する上での気をつけなければいけないことなどを自分の実体験を元に講演していただいた。特に一般的には聞きにくいお金の話といった踏み込んだ体験をお話しいただいた。また参加者には課題を出して、実際に仕事上の仮定の客(ペルソナ)を想定し、それに対する具体的なアプローチを考える機会を提供してもらった。

2-4. 講演2 大藺技術士 「技術者が業務を通じて30代で開業する力を身につけた

3つのポイント」 (14:40~15:30)

大藺技術士が独立に至るまでの経緯や具体的な業務の内容を講演していただいた。公園の中では自分の強みや弱みに関する「自己分析の重要性」を強調し、そのための具体的な方法などを紹介した。また実際に参加者に課題を出し、参加者がオンリーワンの技術士となるための考え方を身につける訓練を行った。

2-5. 講演3 坂東技術士 「『技術士である』よりも『技術士する』」 (15:40~16:30)

坂東技術士が独立までの経緯、具体的な業務内容を講演された。特に「技術士」という資格に対する思いや、技術士の理想像、仕事上の本音について熱く語ってもらい、技術士としての信念の持ち方の見本を示してくれた。また坂東技術士が独自で出版している書籍を熱く宣伝された。

2-6. 講演4 田口技術士 「やってみて分かった!技術士独立開業 AtoZ」 (16:30~17:20)

田口技術士が独立に至るまでの経緯、現在の具体的な業務内容、独立して感じたメリット、デメリット等を題意の通り A~Z のスライド(26枚)に集約させて講演していただいた。講演の中では、人脈づくりや収入源、業務効率化などについて、具体的な取組みを発表していただいた。その後、「質問100本ノック」と題して、参加者からの質問に答えてくれた。

2-7. 講評 諸田委員長 (17:20~17:25)

例会全体の講評を実施した。

2-8. 次回例会紹介 山本委員補佐 (17:25~17:30)

次回例会内容および参加方法を説明した。

2-9. 交流会 (17:30~20:00)

同会場にて交流会を実施し、参加者との交流を実施した。

3. 成果と所感・今後の展開

- ・ 45 歳以下限定かつ有料(4,000 円)の例会としたが、若手が注目するテーマであるため、18 名が参加された。申し込みを締め切らず、2 回目の同報メールを送信すれば、さらに集客できたと思う。やはり、分かりやすく、参加者のニーズに合った企画内容とすることが重要である。
- ・ 秋元技術士からの提案による企画であったが、講師、参加者、青年委員会それぞれが win-win-win の関係となる例会とすることができたと思う。
- ・ 事前に参加者および青年メンバーより質問を集めて講師に伝えることで、参加者のニーズを考慮した講演内容にいただけた。この方式は他の例会でも効果があると考えられる。
- ・ 講師との連絡窓口を一本化していたためか、領収書の要否など重要な連絡が徹底されていなかった。重要な連絡は個別に行うべきである。
- ・ 同様の企画を実施する場合、青年委員会の特色を出すためにも同等の講師、金額設定で開催することが望ましい。ただし、1 講師あたりの持ち時間を 90 分程度にするべきである。

以上

活動写真

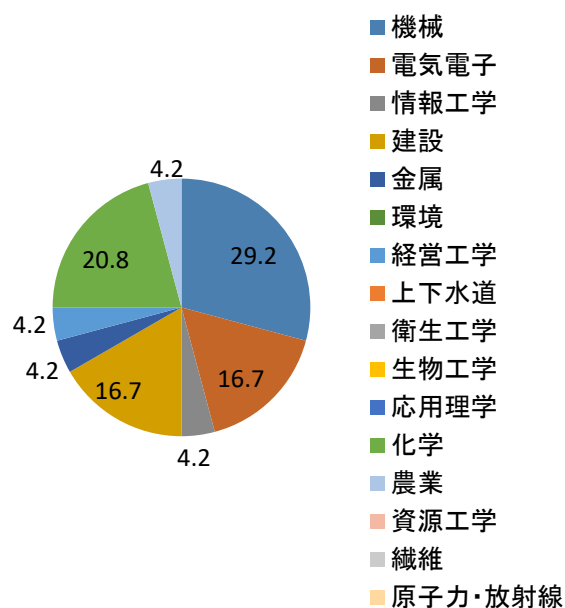


●平成31年度 2月臨時例会「若手技術コンサルタント開拓セミナー」外部アンケート結果

Q1. あなたご自身についてご記入ください。

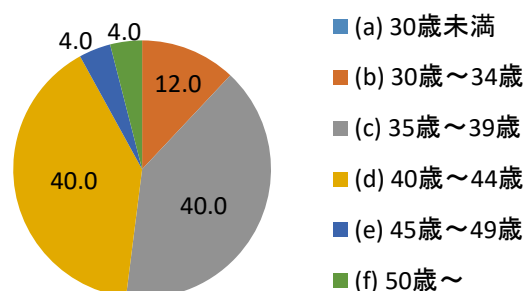
Q1-1. 技術部門

回答	回答数	割合(%)
機械	7	29.2
電気電子	4	16.7
情報工学	1	4.2
建設	4	16.7
金属	1	4.2
環境	0	0.0
経営工学	1	4.2
上下水道	0	0.0
衛生工学	0	0.0
生物工学	0	0.0
応用理学	0	0.0
化学	5	20.8
農業	1	4.2
資源工学	0	0.0
繊維	0	0.0
原子力・放射線	0	0.0
合計	24	100.0



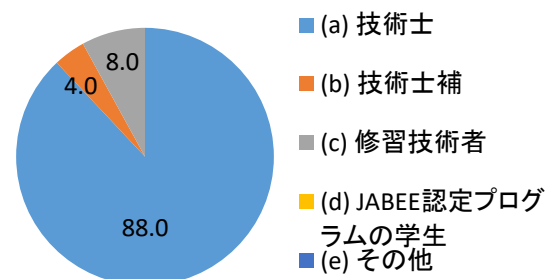
Q1-2. 年齢層

回答	回答数	割合(%)
(a) 30歳未満	0	0.0
(b) 30歳～34歳	3	12.0
(c) 35歳～39歳	10	40.0
(d) 40歳～44歳	10	40.0
(e) 45歳～49歳	1	4.0
(f) 50歳～	1	4.0
合計	25	100.0



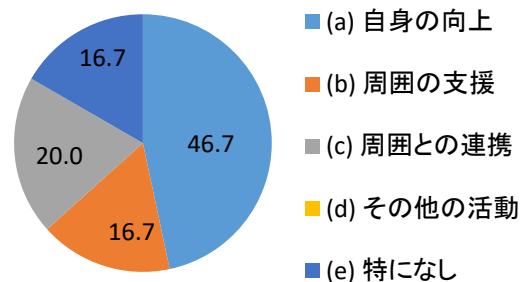
Q1-3. 会員層(技術士資格制度での位置づけ)

回答	回答数	割合(%)
(a) 技術士	22	88.0
(b) 技術士補	1	4.0
(c) 修習技術者	2	8.0
(d) JABEE認定プログラムの学生	0	0.0
(e) その他	0	0.0
合計	25	100.0



Q2. 技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 自身の向上	14	46.7
(b) 周囲の支援	5	16.7
(c) 周囲との連携	6	20.0
(d) その他の活動	0	0.0
(e) 特になし	5	16.7
合計	30	100.0



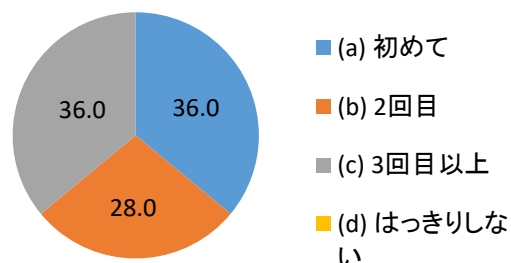
- ・ 資格取得(コンクリート診断士等)
- ・ 理科支援(市教委との連携)
- ・ 執筆
- ・ 総監受験
- ・ 環境教育
- ・ TOEIC(目標800点)、工業英検2級/社内英語講師
- ・ 技術士受験者支援/青年技術士交流会
- ・ 英会話
- ・ 交流会
- ・ SNS
- ・ 自己啓発セミナー/情報発信プラットフォーム

- ・ 技術士HPよりCPDを聴く等
- ・ 神奈川県支部MIX交流会

Q3. 青年委員会の活動について

Q3-1. 青年委員会のイベント参加回数

回答	回答数	割合(%)
(a) 初めて	9	36.0
(b) 2回目	7	28.0
(c) 3回目以上	9	36.0
(d) はっきりしない	0	0.0
合計	25	100.0

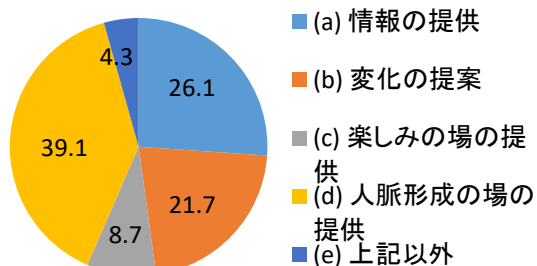


Q3-2. 過去に参加したイベントで、印象深かった・面白かったテーマがございましたら、お書きください。

- ・ 家族参加okのイベント(防災について)
- ・ 英語、ディベート、祝賀会
- ・ 見学会、サッカー、ワークショップ
- ・ 英語のワークショップ
- ・ 国際交流の説明イベント
- ・ CAFEO36

Q3-3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント(複数回答可)、具体例について

回答	回答数	割合(%)
(a) 情報の提供	6	26.1
(b) 変化の提案	5	21.7
(c) 楽しみの場の提供	2	8.7
(d) 人脈形成の場の提供	9	39.1
(e) 上記以外	1	4.3
合計	23	100.0



- ・ 理科支援連携
- ・ 家族参加型
- ・ 工場、施設見学
- ・ 見学会
- ・ 講演会/異業種交流/同業他社交流

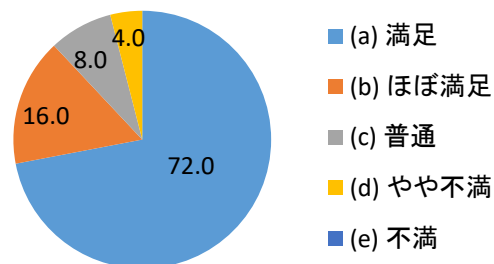
Q3-4. 内容以外について、ご希望などがございましたら、お書きください。

- ・ やはり土日曜が参加しやすいです。

Q4. 今回のイベントについて

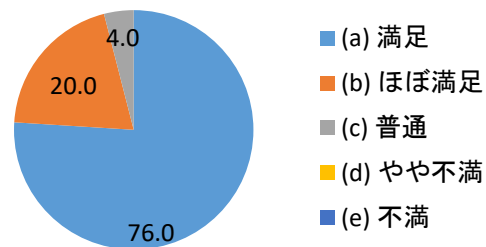
Q4-1. 今回のイベント全体の評価

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	18	72.0
(b) ほぼ満足	4	16.0
(c) 普通	2	8.0
(d) やや不満	1	4.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0



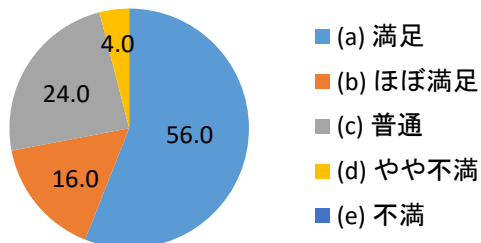
Q4-2. 講師の話し方や進め方の評価

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	19	76.0
(b) ほぼ満足	5	20.0
(c) 普通	1	4.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0



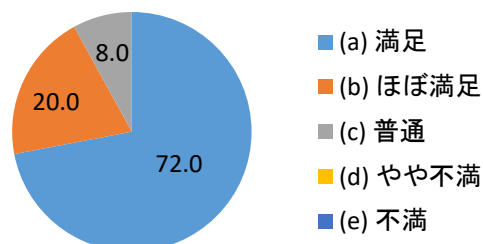
Q4-3. 配布・プレゼン資料の内容の評価

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	14	56.0
(b) ほぼ満足	4	16.0
(c) 普通	6	24.0
(d) やや不満	1	4.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0



Q4-4. スタッフの対応の評価

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	18	72.0
(b) ほぼ満足	5	20.0
(c) 普通	2	8.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0



Q4-5. 講師に伝えたいこと

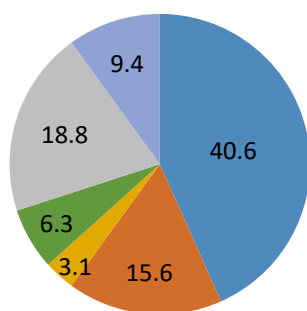
- ・ 有難うございます。
- ・ 参考になりました。ありがとうございました。
- ・ いろいろな気づきや刺激を得ることができました。
- ・ とてもためになりました。ありがとうございました。
- ・ 講演ありがとうございました。一つでも実践できるように取り組んで参ります。
- ・ 若手技術士の独立という貴重な講習で大変面白かったです。
- ・ すばらしい内容でした。私も勉強することができました。

Q4ー6. スタッフに伝えたいこと

- ・ 時間管理が分かりづらかった。
- ・ 本当にとっても良い企画でした。
- ・ 良い機会をいただきました。ありがとうございました。
- ・ 内容的にはほぼ満足だが、時間が不足している。内容が濃いのでもう少し聞きたかった。
- ・ 資料(PPT)を講演後に配布してほしい。
- ・ 準備～運営までありがとうございました。技術士の知名度UP対策ないですかね？
技術士証が大臣名でないのも何の資格かわからない要因に思います。
- ・ 準備お疲れ様です。
- ・ 若手技術士の独立支援は社会的意義が大きいと思うので今後も青年委員会で同様のイベントをやってほしい。
- ・ 一日お疲れさまでした。
- ・ いつも興味深い例会イベント、ありがとうございます。

Q5. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 日本技術士会の同報メール	13	40.6
(b1) 技術士会/青年委員会のHP	5	15.6
(b2) その他のHP	0	0.0
(b3) 青年委員会のTwitter	1	3.1
(b4) 青年委員出演のラジオ	0	0.0
(c) 青年委員会のブログ	2	6.3
(d) 月刊PEの行事予定	0	0.0
(e) 以前に参加した青年委員会のイベント	0	0.0
(f1) 青年委員会のメンバーからの紹介	6	18.8
(f2) その他の人からの紹介	0	0.0
(g)その他	3	9.4
合計	30	93.8



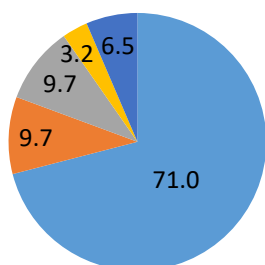
- (a) 日本技術士会の同報メール
- (b1) 技術士会/青年委員会のHP
- (b2) その他のHP
- (b3) 青年委員会のTwitter
- (b4) 青年委員出演のラジオ
- (c) 青年委員会のブログ
- (d) 月刊PEの行事予定
- (e) 以前に参加した青年委員会のイベント
- (f1) 青年委員会のメンバーからの紹介
- (f2) その他の人からの紹介
- (g)その他

- ・ 秋元さんからの案内。
- ・ 私のアイデアが実現しました。

Q6. 参加の目的と達成度について

Q6-1. 目的は何ですか(複数回答可)?

回答	回答数	割合(%)
(a) テーマや内容に興味等	22	71.0
(b) 参加者への興味(人脈の拡大)	3	9.7
(c) 青年委員会への興味	3	9.7
(d) CPDのポイント取得	1	3.2
(e) 上記以外	2	6.5
合計	31	100.0

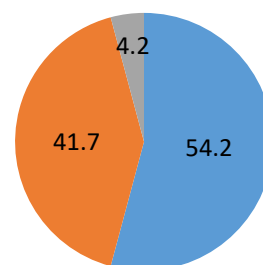


- (a) テーマや内容に興味等
- (b) 参加者への興味(人脈の拡大)
- (c) 青年委員会への興味
- (d) CPDのポイント取得
- (e) 上記以外

- ・ 私のアイデアが実現して、イベント化されたのをこの目で見る。
- ・ 講師、経験談を伝える。

Q6-2. 目的の達成度

回答	回答数	割合(%)
(a) 達成	13	54.2
(b) ほぼ達成	10	41.7
(c) どちらでもない	1	4.2
(d) やや未達成	0	0.0
(e) 未達成	0	0.0
合計	24	100.0



- (a) 達成
- (b) ほぼ達成
- (c) どちらでもない
- (d) やや未達成
- (e) 未達成

行事名	3 月例会:ライフラインから仲間と創る自分のロードマップ
日時	2019 年 3 月 16 日(土) 13:30~17:00
場所	機械振興会館 6-64 会議室
講師、発表者	司会:守田哲(技術士(情報工学)) 発表者:竹内委員、滝口委員補佐、太田(み)委員、赤木委員 ファシリテーター:横田委員、井口委員、臼井委員
担当者: (○印:リーダー)	山本(直)、清水、○守田(記)
参加者数	12名

1. 背景・目的

日々の業務に集中しがちな技術者が、業務経歴の振り返り・スキルの棚卸しを行い、自身の価値観に沿った今後のキャリアを考えるための場が必要と考えた。ライフラインを用いて、自分の経歴、強み、興味・嗜好を整理し、グループワークを通して、未来のなりたい自分・ビジョンを明確化していくことにした。

2. 例会内容

2. 1. 挨拶・アイスブレイク(13:30~13:50):守田委員

例会目的として、広義の意味でのキャリア(人生・生き方)を見つけてもらう旨を話し、自己紹介に合わせて、漢字一文字で昨年の出来事と今年の抱負や目標をグループに紹介するアイスブレイクを行った。

2. 2. 青年交流委員の活動紹介(13:50~14:00):竹内委員

青年交流委員の活動内容を紹介した。青年交流員の位置づけや例年の活動を紹介した。

2. 3. 先輩技術者の自己紹介(14:00~14:15):滝口委員補佐、太田(み)委員、赤木委員

JABEE 課程を経て技術士を目指す滝口委員補佐の SWOT や人生グラフを用いた自己分析、太田委員の技術士取得前後の経験談、赤木委員の技術士資格を活かすキャリアビジョンを含めた自己紹介を行った。

2. 4. グループワーク(14:15~16:40):参加者

グループワークを進め方と注意点を説明し、各テーブルでグループワークを行った。

2. 4. 講評(16:40~16:55):横田委員、井口委員、臼井委員

各テーブルについたファシリテーターが、グループワークについて感想や自身の意見や経験を述べながら講評を行った。

3. 成果と所感

- ・ 青年交流委員の活動紹介では、国際 G でもある竹内委員が、過去参加した国際会議について具体的に話したため、いつもとは違った紹介になったと感じた。
- ・ 自己紹介発表者の年代・経歴が分散したことで、異なった視点での紹介が行われたと考える。
- ・ 経歴や価値観の棚卸しはほとんどの参加者ができたと考える。
しかし、未来のなりたい自分を明確化できた参加者は少なかった。一つは、2回目の同報メールが遅く、課題に取り組むための時間が足りていなかった。2つ目に、例会担当者から参加者への目的の意識付けが弱かったことが原因と考える。
- ・ 課題資料の共有期限を課題提出前日切りにしていたところ、課題提出前日に課題ファイルをダウンロードしようとした参加者が2名いたため、別途対応が必要となった。
共有期限を決める場合は、検討の上設定する必要があると感じた。

4. 今後の展開

- ・ 修習委員会と内容が重複している点と、昨年と同様の内容という点で、魅力的な例会とは言えず、集客が弱かった。
- ・ 来年からは、キャリア系は別の時期に開催するか、内容を充足させることを提案したい。

5. 活動写真

青年交流委員の活動紹介



先輩技術者の自己紹介(滝口委員補佐)



先輩技術者の自己紹介(太田委員)



先輩技術者の自己紹介(赤木委員)



グループワーク



集合写真



懇親会



以上

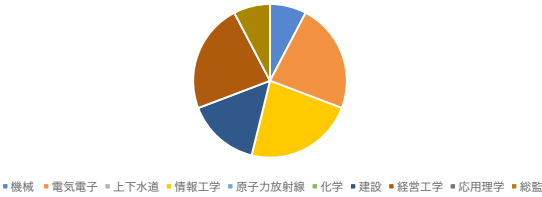
Q1.あなたご自身についてご記入ください。

技術部門			
機械	1	船舶海洋航空宇宙	
電気電子	3	化学	
繊維		金属	
資源工学		建設	2
上下水道		衛生工学	
農業		森林	
水産		経営工学	3
情報工学	3	応用理学	
生物工学		環境	1
原子力放射線		総監	1

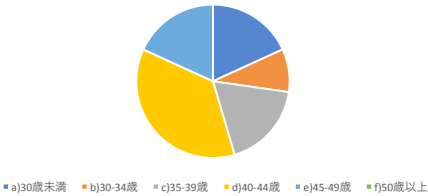
年齢層	a)30歳未満	2
	b)30-34歳	1
	c)35-39歳	2
	d)40-44歳	4
	e)45-49歳	2
	f)50歳以上	

会員層	a)技術士	3
	b)技術士補	
	c)修習技術者	6
	d)JABEE学生	1
	e)その他	1 未受験

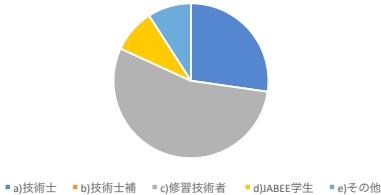
技術部門



年齢層



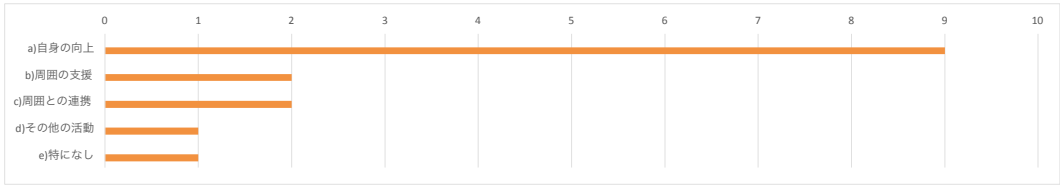
会員層



Q2.技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか。

a)自身の向上	9	電気系の資格を目指しています
b)周囲の支援	2	周囲の人の技術士取得支援
c)周囲との連携	2	日本技術士会・大学技術士会
d)その他の活動	1	資格に知識を業務へ反映
e)特になし	1	

二次試験 資格取得 講演会への参加
理科支援



Q3.青年委員会の活動について

参加回数	a)初めて	16
	b)2回目	2
	c)3回目以上	2
	d)はつきりしない	1

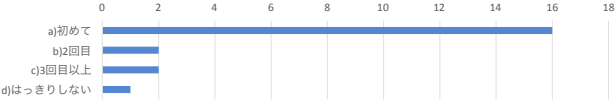
印象深かったテーマ

問題解決ワークショップ、ディベート、街歩き、英語例会

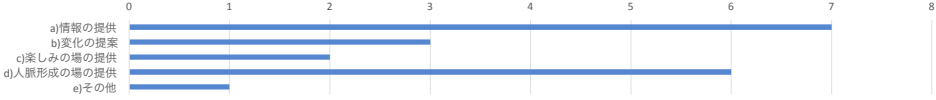
開催してほしいイベント

a)情報の提供	7	先端技術の紹介	講演会
b)変化の提案	3		
c)楽しみの場の提供	2		
d)人脈形成の場の提供	6	国際交流	
e)その他	1	今後について	

参加回数



開催してほしいイベント



その他のご希望

回答なし

Q4. 今回のイベントについて
イベント全体

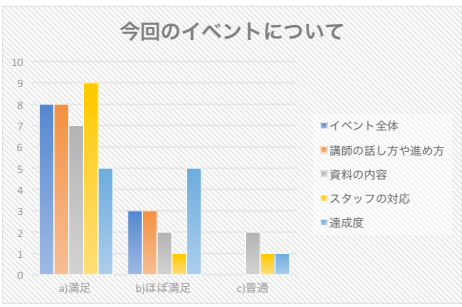
	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)やや不満	e)不満
	8	3			
講師の話し方や進め方	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)やや不満	e)不満
	8	3			
資料の内容	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)やや不満	e)不満
	7	2	2		
スタッフの対応	a)満足	b)ほぼ満足	c)普通	d)やや不満	e)不満
	9	1	1		

講師に伝えたいこと

とても楽しい運営でした
自身について考えるきっかけになり大変良かったです。
ありがとうございました

スタッフ伝えたいこと

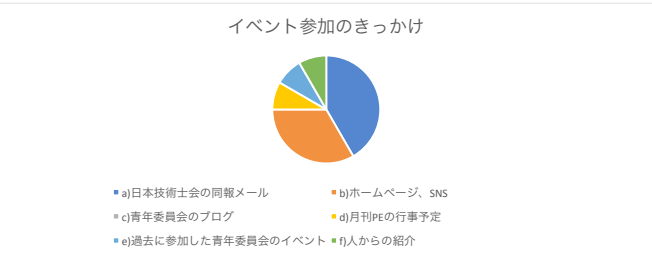
とても楽しい運営でした
一人でいるところに話しかけてもらえて助かりました
ありがとうございました



Q5. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか

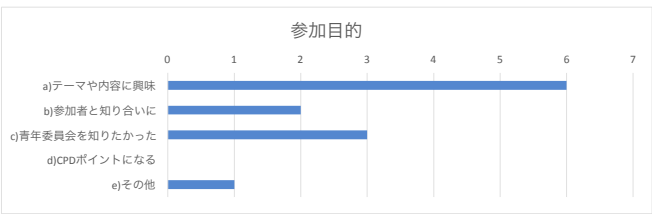
a) 日本技術士会の同報メール	5
b) ホームページ、SNS	4
c) 青年委員会のブログ	
d) 月刊PEの行事予定	1
e) 過去に参加した青年委員会のイベント	1
f) 人からの紹介	1
g) その他	1

修習ガイダンス
上司の紹介



Q6. 参加の目的と達成度について

目的	a) テーマや内容に興味	6
	b) 参加者と知り合いに	2
	c) 青年委員会を知りたかった	3
	d) CPDポイントになる	
	e) その他	1
先輩方に今後のことについて相談するため		



達成度	a)達成	b)	c)	d)	e)未達成
	5	5	1		

※達成度は、本ページ一番上のグラフに統合

行事名	3 月臨時例会: Dreams Project 平成 30 年度 春休み子供理科教室 テーマ:「光の不思議 - 顕微鏡を作ろう！」
日時	2019 年 3 月 23 日(土) 13:30 - 16:00
場所	滝野川会館(北区) 301 + 302 集会室
講師・発表者	下野委員、鈴木委員
担当者: (○印:リーダー)	○鈴木委員(記)、下野委員、山本(恵)委員、白井委員、中川委員、太田委員、 諸田委員長、清水委員補佐、明山委員補佐、山本(直)委員補佐 ・協力者として 4 名参加
参加者数	・参加者: 22 名(児童 11 名(未就学児含む)、保護者 11 名)、 ・スタッフ: 14 名(委員 7 名、委員補佐 3 名、協力者 4 名)

1. 背景・目的

- ① 子供達に工作実験を通じて科学の面白さを伝える。
 - ② 組織外との交流により、技術士の知名度向上を図る。
- を目的とし、昨年の 7 月に小学生を対象にした理科教室を企画したが、台風 12 号の接近により中止とした。今回、昨年の 7 月に申し込んでいただいた方を中心にコンテンツを提供したいと 3 月に再度企画を実施した。その内容について報告する。

2. 例会内容

第 1 部:「光の不思議」

第 2 部:「ペットボトルで顕微鏡を作ってみよう！」

の 2 部構成で実施

2. 1 はじめに (13:30~13:50)

- ・鈴木委員から開会のあいさつとイベント実施における注意点の連絡を行った
- ・諸田委員長から参加の児童に技術者の仕事の説明、みんなで技術者を目指しましょうといった呼びかけがあった。また保護者の方へ技術士および、技術士会についての概要説明が行われた。
- ・スタッフ全員の自己紹介を行った。

2. 2 第 1 部「光の不思議」(13:50~14:30) : 下野委員

顕微鏡作成までのイントロダクションとしてベースとなる「光」に焦点を当て、その解説・実験を行った

- ・光の現象について : 身近な光が作用している現象について考えてみる
- ・光の特徴について : 光は直進、反射、屈折でいろいろな現象が説明できる
- ・レンズについて : レンズは拡大と集光という働きがある
- ・望遠鏡について : 遠いものを拡大してみるためのもの
- ・顕微鏡について : 小さいものを拡大してみるためのもの
- ・その他、考えてみよう、やってみようという問いかけ

簡単な現象については、LED レーザー、鏡、虫眼鏡等を用いることで実際に見てもらった。また、光ファイバーのような普段目にしない部材も実際に見てもらうことができた。USB カメラを持ち込むことでその実験をスクリーンに映し出して観てもらった。※解説資料は講演後、配布

2. 3 休憩時間「展示物見学」(14:30~14:50)

席の後ろ側に科学現象を利用した科学工作の展示を行った。ただ展示してあるだけではなく、実際に手に触れることができるものであったため、子供達には遊び道具のような感覚で体験してもらえた。青年スタッフが説明することで子供達だけでなく保護者の方にも興味をもっていただけた。

※この休憩時間を利用して第 2 部の工作道具の準備

2. 4 第 2 部「ペットボトルで顕微鏡を作ってみよう！」(14:50~15:40) : 鈴木委員

第 1 部の座学を元に、実際にペットボトルで顕微鏡を作り、観察を行うという実習を行った。

- ・レンズとは何だったか、大きく見るとはどういうことだったかということの復習

- ・レンズ(虫眼鏡)とビー玉ではどちらが大きく見えるかという実験
- ・その性質を利用して顕微鏡をつくるという解説
- ・実際に手を動かしてもらい、顕微鏡の作成
(パーツはなるべく刃物等を使わないで済むようにあらかじめカットしておいた)
- ・準備しておいた試料(今回はタマネギ)の観察
(終わった人用に試料として食塩も予備で準備しておいた)
- ・レンズを使ったものに何があるかという問いかけ

第1部の解説からさらに顕微鏡に近づけるため、透明なビー玉を持ち出して、虫眼鏡よりもさらに大きく見る方法に誘導した。工作パーツはなるべく児童に危険が及ばないようにあらかじめカットしておいた。試料の配布は、カッターナイフでタマネギを切る作業が必要であったため、部屋の前方でカットしたタマネギを準備できた人に配布するようにした。レンズを通して太陽等、光の強いものを観てしまうと目が失明してしまう恐れがあるため、その点は参加者および、スタッフには注意してもらうように心がけた。

2.5 おわりに

- ・少し時間を取って参加者にアンケートにお答えいただいた
- ・今年の8月に実施予定のDreamsPJの案内を山本(直)委員補佐から簡単に紹介していただいた。
- ・鈴木委員が閉会の挨拶を行った。
- ・参加者、スタッフを含め集合写真を撮影。

2.6 最終収支

今回のイベントは昨年7月に実験材料等は準備できていたため、3月のみにかかった費用は以下のとおりである。

収入		
項目	金額	備考
参加費	¥4,500	児童1人あたり500円(9名)
※会場費	¥17,280	※青年予算から
合計	¥4,500	
支出		
項目	金額	備考
レク保険料	¥1,802	
保険料振込手数料	¥432	
タマネギ	¥171	実験材料費
※会場費	¥17,280	※青年予算から
合計	¥2,405	
収入 - 支出		
	¥2,095	技術士会に納入

3. 成果と所感

- ・今回は、昨年の7月が中止による再開催ということで、募集のアナウンスは今まで小学生、家族対象にしたイベントで参加していただいたリピーターの方をメインにメール連絡(48名)を行い、あとは口コミと青年HPによるアナウンスだけで参加募集を行った。3月ではあったが、5家族からの申し込みがあり、一定数、興味を持っていただいていることがわかった。また、技術士の方ではあるが青年HPを見て参加してくださった方もおり、小学生むけであっても効果はあった。
- ・スタッフも、昨年参加予定だった方がほとんど参加してもらえた。このイベントの協力者として遠くから参加してくださる方もおり、スタッフとしても興味を持っていただけのことでは大変うれしいことである。
- ・参加人数も少なかったため、机の配置は島を作るのではなく、大きなコの字型にすることで、どの席から椅子の向きを変えることなく中心に向かって座ってもらうようにした。そしてスタッフは自由に動けるようにした。そうすることで親近感のあるイベントになったのではないかなと思う。
- ・ピンポイントで参加募集案内をだしたこともあり、参加者が集まるか不安な面はあったが、青年からお子

様を連れて参加して下さった方もおり、少なすぎることもなくアットホームに実施できたと思う。

- ・内容としては、それなりに難しい内容であったとは思ふ。しかしながら、付け焼刃的ではなくできるだけ簡略しながらも本質を伝えたいと話し合ってきた。かなり易しく解説を行ったが、子供達にでもさらに理解してもらえ解説を行うことはこれからも課題である。すこしでも不思議を身近に感じてもらい、それをスタートに興味を持ってもらえたらうれしい限りである。
- ・子供を対象にしたイベントでは、注目させることが必要になってくる。工作材料や資料配布のタイミングなどで出来る限り講演者に注目してもらえるように工夫をしているが意識する必要がある点である。

4. 今後の展開

- ・このイベントは、基本的に機械振興会館では実施することができない。そのため、今回は北区の滝野川会館を見つけることができ、そこを使用した。これから継続的に行っていくためには会場をどうするかという問題が毎年付きまとうため、実施できる場所のリサーチはしておきたいところである。
- ・イベント実施について、現段階で蓄積された一連のスキームはあるので、その方法は形式知として整理して残しておきたいところである。そのように一定のスキームを持っておくことで必ずしも現在のスキームに縛られることなく、新たなチャレンジもしやすくなると思う。

このイベントも今回で5回を迎えた。リーズナブルで小学生に提供するコンテンツを考えるのは簡単ではない。テーマを考えていくにあたり、我々は技術士なので、担当するメンバーは、現時点で小学生はどのようなことを学んでいるか？考えたテーマは実社会においてどのように活用されているのか？役にたっているのか？そして、自分たちはどのようなコンテンツ/サービスを提供できるのか？など、広い視野から見渡して考えていく必要がある。単にやりたいということだけではなく、時代がどのように進もうとしているのか、参加者から求められていることは何なのか、必要なことは何なのか、次につながるコンテンツとは何かということを意識する必要があると思う。

そうした中で参加していただく方に興味を持ってもらえて、技術者を目指すような子供が出てくるとありがたいと思う。

5. 実施の様子

【スタッフ集合】



【諸田委員長の挨拶】



【下野委員 解説】



【実習の様子】



【展示スペースでの様子】



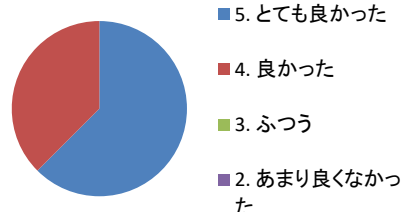
【全体集合】



●平成30年度 春休み理科教室 ～光の不思議-顕微鏡を作ろう～ 保護者様用(表面)

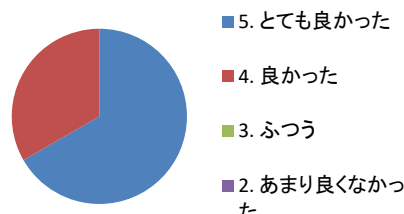
Q1. 今回の理科教室は全体的にどのように感じましたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. とても良かった	5	62.5
4. 良かった	3	37.5
3. ふつう	0	0.0
2. あまり良くなかった	0	0.0
1. 良くなかった	0	0.0
合計	8	100.0



Q2-1. スタッフの対応はいかがでしたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. とても良かった	6	66.7
4. 良かった	3	33.3
3. ふつう	0	0.0
2. あまり良くなかった	0	0.0
1. 良くなかった	0	0.0
合計	9	100.0

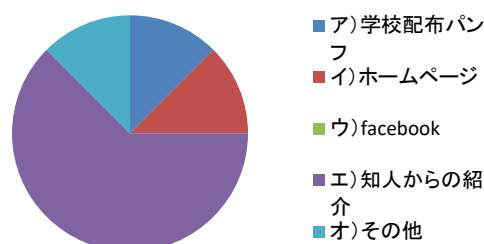


Q2-2. Q2-1で1または2とお答えの方、具体的に良くなかった点をお聞かせ下さい。

一家庭に一人のサポーターがついていただけるのが、とてもよかったと思います。

Q3. この教室を知ったきっかけを教えてください。(複数回答あり)

きっかけ	人数	割合 (%)
ア) 学校配布パンフ	1	12.5
イ) ホームページ	1	12.5
ウ) facebook	0	0.0
エ) 知人からの紹介	5	62.5
オ) その他	1	12.5
合計	8	100.0



・滝野川第四小学校 1名

※学校配布パンフをみて参加された保護者数の内訳です。

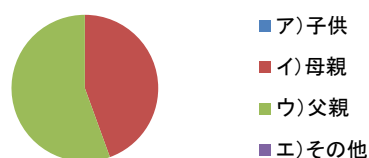
Q4. なぜこの理科教室に参加したいと思いましたか。(複数回答可)

目的	回答数
ア) 子供が興味を示していたから	0
イ) 子供に理科を好きになってもらいたいから	7
ウ) 子供に勉強させたいから	2
エ) 将来、子供に研究者や技術者になってもらいたいから	0
オ) テーマが面白そうだから	3
カ) その他	2

・小学生のお兄さん、お姉さんが静かに講義を聞いている姿を見せたかった。
・いろいろなものを学びとってもらいたい。

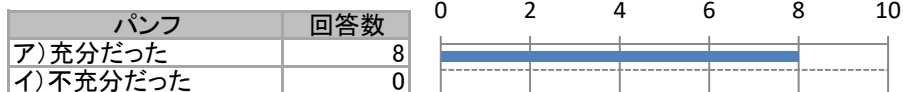
Q5. はじめに参加をしようと思ったのは誰ですか。

	人数	割合 (%)
ア) 子供	0	0.0
イ) 母親	4	44.4
ウ) 父親	5	55.6
エ) その他	0	0.0
合計	9	100.0



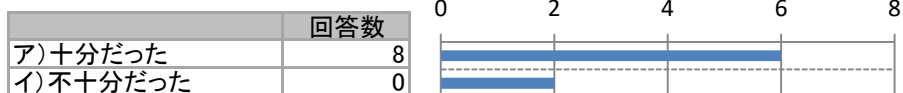
●平成30年度 春休み理科教室 ～光の不思議-顕微鏡を作ろう～ 保護者様用(裏面)

Q6. パンフレットには安心して申し込むための必要な情報は記載されていましたか。

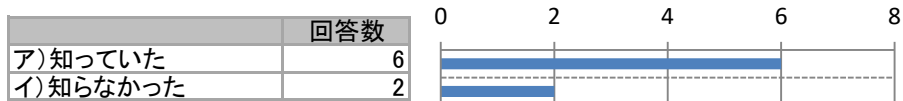


↓ 記載してほしい情報

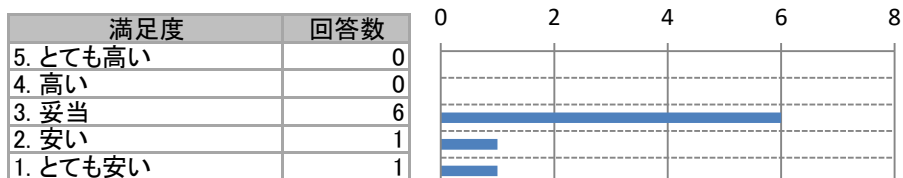
Q7. パンフレットは安心して申し込むための必要な情報は記載されていましたか。



Q7. 「技術士」という資格を以前から知っていましたか。



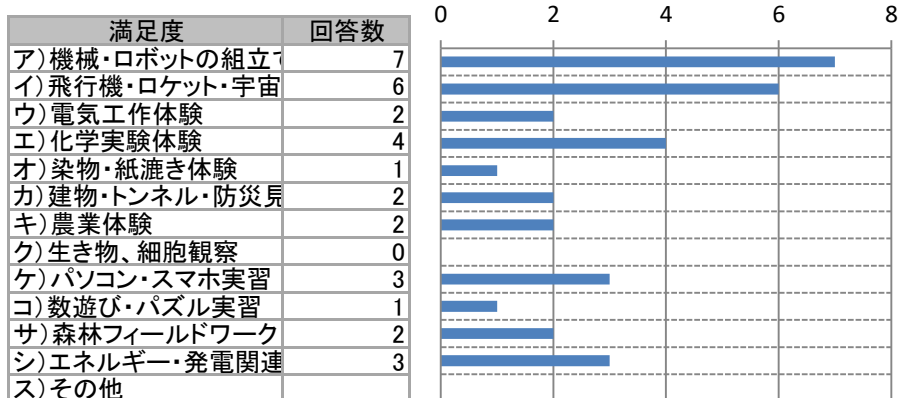
Q8-1. 参加費について教えてください。



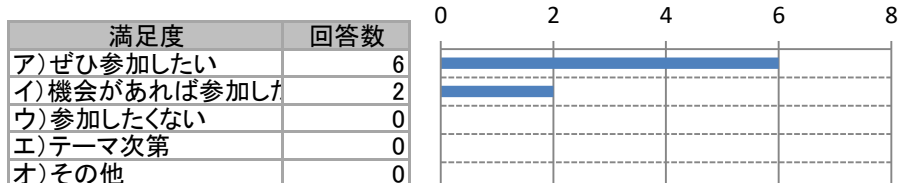
Q8-2. Q8-1で3以外とお答えの方、妥当な参加費はいくら位だと思いますか。

- ・1,000円 1名
- ・550円 1名

Q9. 今後、どのような内容の理科教室を希望されますか。(複数回答可)



Q10. 今後も技術士会が主催する理科教室に参加したいですか。



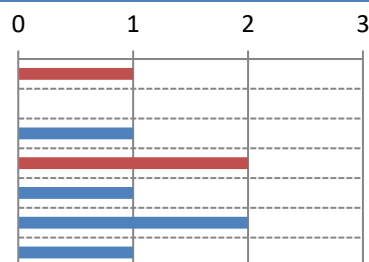
Q11. この教室へのご意見、ご感想をご自由にお書きください。

- ・座学・実技と充実しておりました。
- ・テーマ以外でも、技術士の方の知識を提供頂けたことがありがたかったです。
- ・急な参加にもかかわらず、快諾していただきありがとうございました。
- ・小学校の授業を思い出して、楽しめました。
- ・楽しく2時間、過ごさせていただきました。顕微鏡 面白かったです。ありがとうございました。
- ・最初の説明はむずかしかったです。
- ・実験をしてから子供が楽しそうでした。
- ・自宅でいろいろ楽しみたいです。
- ・毎月やってくれると嬉しいです。
- ・毎回(毎年)楽しみに参加させていただいています。これからも楽しい教室に期待しています。
- ・今後、高学年/低学年に分けた形としても良いかと思います。
- ・田中でした。

裏があるのに気付いていない？ 裏全面白紙 1名

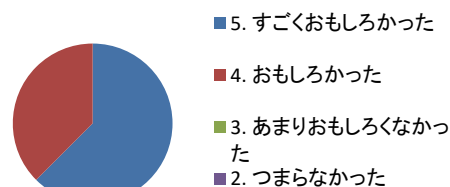
Q1. あなたの学年と性別を教えてください。

参加者	男の子	女の子
未記入		1
5年生		
4年生	1	
3年生		2
2年生	1	
1年生	2	
年中	1	



Q2-1. 今日の教室は、おもしろかったですか？

満足度	回答数	割合 (%)
5. すごくおもしろかった	5	62.5
4. おもしろかった	3	37.5
3. あまりおもしろくなかった	0	0.0
2. つまらなかった	0	0.0
1. すごくつまらなかった	0	0.0
0. わからない	0	0.0
合計	8	100.0

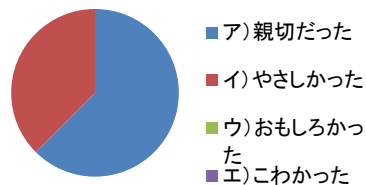


Q2-2. こんなところがおもしろかった、つまらなかった、あれば教えてください。

- ・電池の電車が面白かったです。顕微鏡も楽しかったです。
- ・作るのが楽しかった
- ・玉ねぎのかわを見たときがおもしろかった。
- ・かよった人がつくった飛行機やそうゆうものが面白かった。
- ・顕微鏡を作るのがたのしかったです。
- ・顕微鏡をつくった。

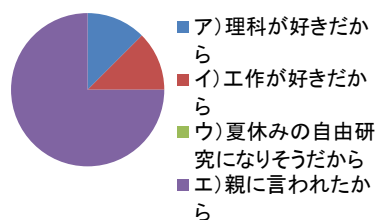
Q3. スタッフのお兄さん、お姉さんはどうでしたか？(複数回答あり)

印象	人数	割合
ア) 親切だった	5	62.5
イ) やさしかった	3	37.5
ウ) おもしろかった	0	0.0
エ) こわかった	0	0.0
オ) その他	0	0.0
合計	8	100.0



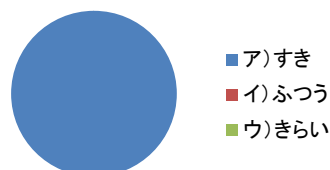
Q4. どうしてこの教室に参加しようと思いましたか？(複数回答あり)

目的	人数	割合
ア) 理科が好きだから	1	12.5
イ) 工作が好きだから	1	12.5
ウ) 夏休みの自由研究になりそうだから	0	0.0
エ) 親に言われたから	6	75.0
オ) 学校で紹介されたから	0	0.0
合計	8	100.0



Q5. 理科や科学は好きですか？

	人数	割合
ア) すき	8	100.0
イ) ふつう	0	0.0
ウ) きらい	0	0.0
合計	8	100.0



理由があればおしえてください

- ・おもしろいとこ

Q6. 今、興味があることや、これから知りたいことを教えてください。(複数回答あり)

部門	人数	0	1	2	3	4	5
ア) ロボットの組立て	4						
イ) 飛行機、ロケット、宇宙についての勉強	2						
ウ) 電池や豆電球を使った実験、ラジオの組立て	4						
エ) 薬品を使った実験	4						
オ) 染物、紙すき体験	1						
カ) 大きな建物やトンネルの工事現場の見学	2						
キ) 野菜や果物の育て方	1						
ク) 生き物とのふれ合い、顕微鏡を使った細胞の観察	2						
ケ) パソコンやスマホを使った勉強	3						
コ) 数遊び、パズル	1						
サ) 森林の中での虫観察や植物観察	1						
シ) 太陽光発電などの自然エネルギーの発電所の見	3						
ス) その他							

・プログラミング 1名 ・自動はんばいき 1名 ・

Q7. 意見や感想、将来の夢など自由に書いてね。

- ・ない(まだきまっていない)
- ・顕微鏡を作っているいろいろなものが見れておもしろかった。
- ・将来の夢は考古学者です。
- ・ありがとうございました
- ・今度、家に大量の韓国のりがあるので、それでやる。

裏があるのに気付いていない? 裏全面白紙 1名

以上

行事名	4月特別例会 技術士第一次・二次試験合格者交流会
日時	2019年4月13日(土)
場所	機械振興会館 6階 6-66会議室
担当者： (○:主担当)	○河野委員、竹内委員、守田委員、吉浦オブザーバ、中川委員、清水委員補佐、土橋オブザーバ、岩部オブザーバ、後藤委員、臼井委員
参加者数	第一部：42名（委員除く） 第二部：24名（委員除く）

1. 背景・目的

- ・今年度の第一次試験合格／JABEE修了者である新たな修習技術者、および第二次試験合格者を対象として、参加者間の交流を促すことで、技術士仲間をつくってもらう。
- ・例年の企画趣旨を引き継ぐことで、継続的に新合格者を受け入れる交流の場を提供すること。
- ・技術士活動の一端を知って頂き、今後の技術士としての活動の指針となるようにする。新規合格者が将来の自身の技術士像を少しでも考えられる場とする。

2. 例会内容

2-1. 第一部の司会挨拶とスケジュール説明（13:30～13:35）：太田委員

会場案内、配布資料確認、注意事項、本日のスケジュール説明

2-2. アイスブレイク（来賓のあいさつ）（13:35～13:40）：守田委員（MORIKIN）

2-3. 先輩技術士の活動紹介①（13:40～13:50）：田中（仁）委員

自己紹介、国際活動に対する思い、CAFEO紹介及び次回CAFEO開催案内

2-4. 先輩技術士の活動紹介②（13:50～14:00）：山本（直）委員

自己紹介、理科教室に対する思い、理科教室の活動紹介

2-5. 先輩技術士の活動紹介③（14:00～14:10）：清水委員補佐

自己紹介、学生WGに対する思い、学生WGの活動紹介

2-6. インタビュータイムの概要説明、インタビューシート記入の説明（14:10～14:15）：河野委員

2-7. シートの記入及び休憩（14:15～14:30）

2-8. インタビュータイムの詳細説明、デモンストレーション（14:30～14:35）：太田委員、河野委員

インタビュータイムの詳細説明の実施

実際に参加者が実施する前に、司会進行役による実演で会場を盛り上げた。

2-9. インタビュータイム（14:35～15:05）：太田委員、河野委員

1 テーブル 8 人のグループ内で、総当たりで交互インタビューを実施

1 回のインタビュー時間 2 分、1 組当たり時間 4 分、計 6 組で 24 分

2-10. 席替えの案内（15:05～15:10）：河野委員

グループワークの前に席替え実施。新しいグループは最初のグループのアルファベット A～H の人ごとに集まることで、会場全員の情報が集まることを説明（1 グループ 6 名、8 グループ編成）青年のオブザーバは最初の席から動かないこととした。

2-11. グループワーク説明（15:10～15:20）：河野委員、太田委員、諸田委員長、守田委員、吉浦オブザーバ、岩部オブザーバ

グループワークでは、子供の将来の夢として、「技術士」と言ってもらえるにはどうすればよいか、についてテーマとして行うことを説明。そのための題材として、①技術士についてより知ってもらうにはどうすればよいか、②技術士の凄さや素晴らしさを理解してもらうのはどうすればよいかを議論する際の参考材料（議論するポイント）として提示し、グループワークメモシートにまとめて、各グループで発表を行う旨を説明した。

なお、本グループワークへの議論をスムーズに行うために、各参加者のインタビューシートで得た情報（他の参加者や自分自身の技術のアピールポイントなど）も参考にまとめて提示。

グループワークの説明においては、寸劇を交えて、参加者の緊張をほぐし、グループワークに取り組みやすくなるように配慮した。

2-12. グループワーク（15:20～16:30）：高橋委員補佐、田角委員、明山委員補佐、下野委員、鈴木委員、山本（直）委員補佐、赤木委員

- ・席替え後グループ内での自己紹介
- ・技術士についてより知ってもらうにはどうすればよいかの整理
- ・技術士の凄さや素晴らしさを理解してもらうのはどうすればよいかの整理
- ・グループワークメモシートにまとめて、各グループで発表する準備

各グループにオブザーバとして青年スタッフを配置

2-13. グループワーク資料の写真撮影&データ保存（16:30～16:40）：白井委員、山本委員補佐

2-14. 各グループの発表（16:40～17:20）：白井委員、太田委員、河野委員

アルファベット順に作成したグループワークシートを写真で撮影し、そのデータをパソコンに取り入れて、スクリーンに投影して各グループによる発表（メンバー紹介 1 分+発表 3 分の計 4 分）

各グループの発表後に太田委員より講評を頂いた。

2-15. 委員長講評とグループワーク結果発表（17:20～17:30）：諸田委員長、太田委員、河野委員

諸田委員長に全体の講評を頂くと同時に、青年委員会の活動紹介を行ってもらった。その後、各グループのシー

トを投影し、最も良いと思った発表に参加者より拍手をしてもらい、最も拍手が大きかったグループを優勝として表彰した。

2-16. 次回予告/5月例会のご案内及びアンケートの記入（17:30～17:35）：守田委員、太田委員、河野委員

5/18（土）開催予定の5月例会の告知を行い、継続的な参加を促した。

2-17. 第一部終わりの挨拶及び記念撮影（17:35～17:50）：太田委員、河野委員、清水委員補佐

第一部参加の御礼、写真撮影、第二部の案内

2-18. 第二部乾杯の挨拶（18:00）：諸田委員長

参加への感謝に加え、青年委員会イベント及び青年委員会への参加を呼び掛けた。また二次会の開催案内。

参加者の誘導も併せて行った。

2-19. 第二部締めめの挨拶（17:30～17:35）：太田委員、河野委員、清水委員補佐

参加への感謝に加え、青年委員会イベント及び青年委員会への参加を呼び掛けた。また二次会の開催案内。

参加者の誘導も併せて行った。

3. 成果と所感

【参加申込み】

- ・ 今年度は第二次試験の合格者が少なく、参加者が集まらないことが懸念されたが、青年メンバーの声掛けのおかげで例年に近い人数を集めることができた。
- ・ 同報メール、Facebook、Twitter、周囲の知り合いへの声掛けを積極的にやることの重要性を感じた。

【第一部】

- ・ 青年メンバーも参加者のみなさんも、楽しみつつも、真面目に取り組まれていた。全体的にいいムードで行われていたように感じた。何よりも青年メンバーが楽しんで活動されていたのが良かったと思う。
- ・ 寸劇を行ったことによって、グループワークのテーマがしっかり伝わったことが良かった。これは寸劇自体が面白く、参加者の関心を引いたことが一因にあると思われる。
- ・ 青年メンバーが率先して準備をしていただいたおかげで、スムーズに当日の進行を進めることができた。
- ・ 司会と司会補助役が素晴らしく噛み合っていて、聞いている人を引き込む司会進行だった。
- ・ 事前に準備していた会場のレイアウト図のおかげで、青年メンバーが事前に会場全体の様子を明確にイメージできていた。
- ・ タイムスケジュール管理がうまくいったと感じた。多少時間の前後はあったものの、青年メンバーが柔軟に対応し、大きなスケジュールの遅れ等もなく、スムーズに会を進行出来ていた。
- ・ 参加人数に応じて柔軟にグループ割を行う新しいやり方を来期メンバーの中で確立出来て良かった。
- ・ 自己紹介の内容をグループワークに活かしている班がなかったのが残念だった。
- ・ 参加者の取り合いになってしまうため、少なくとも本部、修習委員会のイベントと重なることを避けたいと感じた。
- ・ 活動紹介 10 分×3 本は長いと感じた。主目的の交流に時間を使いたいため、各 5 分でもよいのではないかと。
- ・ グループワーク前に各テーブルにいるオブザーバの役割を伝えるべきだった。

【第二部】

- ・ 青年メンバーが参加者同士を紹介しあったり、別の青年メンバーに紹介したりと、交流を促進していたように感じた。
- ・ 参加者同士が自然と交流していて良かった。第一部のグループワークでの積極的な交流が図れていたことが一因にあると思われる。
- ・ 本例会の懇親会は料理、フリードリンクとなっており、大変良かったと感じた。参加者からも大変好評であり、今後このような形式の懇親会は予算的に問題がなければ、ぜひ積極的に活用していただきたいと思う。
- ・ 事前にテーブル配置についての指示を行うことで、スムーズな準備が出来た。
- ・ 料理の量もちょうど良く、ドリンクバーも分けてあったので、飲み残しがなかった。
- ・ ザンソリアさんと皆さんが自然に交流できていてよかった。良い国際交流も図ることができた。

【二次会】

- ・ 場所が広くゆったりとしていたため、参加者が移動しやすく、多くの人と容易に交流することができた。
- ・ 今後居酒屋で懇親会をする際には、本例会のような広々とした場所を予約することはとても大切であるように感じた。金額的にもリーズナブルであり、今後の例会懇親会の際にも大いに参考にして頂きたい。
- ・ 二次会担当者の参加者の会場への誘導が良かった。機械振興会館に残す人と、二次会会場に向かうメンバーを明確に分けることは今後とも青年の参加状況を勘案し、行っていくことは重要であると感じた。

【全体を通して】

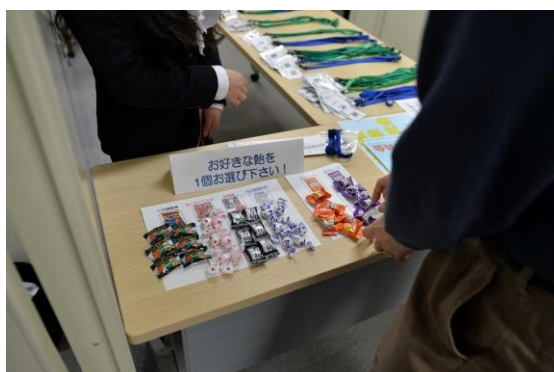
- ・ 担当者以外の青年メンバーにも多く参加してもらえて、またオーストラリアからもザンソリアさんの参加もあり、国際交流を含めて、参加者全員で楽しい時間を過ごすことができた。

4. 今後の課題

- ・ 今年度は二次試験の合格者が少なかったため、例年に比べると参加者が少なかった。このような場合でも、多くの参加者に来てもらえるように、青年からも積極的な情宣方法を検討することが引き続き必要となる。
- ・ 飴システムは、改めて素晴らしいグループ編成方法であることが今回の例会を通して確認された。本例会の準備段階において、例会メンバーで議論してブラッシュアップしたグループ編成方法は、今後の例会で積極的に生かしていただきたい。
- ・ 第一部で自己紹介とグループワークの内容が良く連動していなかった。グループワークに生かせるような工夫が今後必要である。
- ・ 本イベントに参加する人が技術士に魅力を感じるように、また何よりも楽しんでもらえるような企画を考えていくことが引き続き、必要である。今回の例会では、そういった意味で技術士に魅力のアピールポイントをテーマにしてグループワークは良かったと感じた。

5. イベントの様子

第一部の受付



第一部の司会挨拶



会場の様子



先輩技術士の紹介①



先輩技術士の紹介②



インタビュータイムのデモンストレーション



インタビュータイムの様子①



インタビュータイムの様子②



インタビュータイムの様子③



グループワークの説明①（寸劇）



グループワークの説明②



グループワークの様子



グループワーク発表①



グループワーク発表②



表彰式



集合写真



交流会の様子①（チコちゃん）



交流会の様子②



交流会の様子③

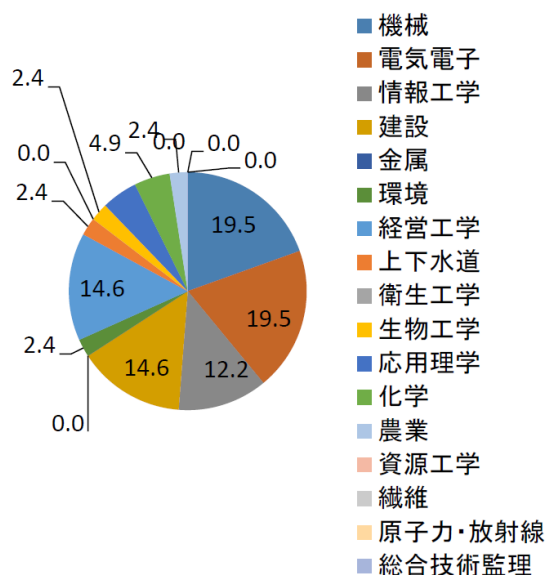


●平成31年度 4月「一次・二次試験合格者交流会」 外部アンケート結果

Q1 あなたご自身について

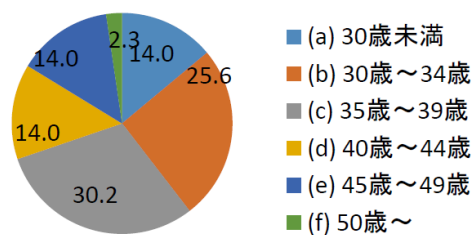
1. 技術部門は何ですか？

回答	回答数	割合(%)
機械	8	19.5
電気電子	8	19.5
情報工学	5	12.2
建設	6	14.6
金属	0	0.0
環境	1	2.4
経営工学	6	14.6
上下水道	1	2.4
衛生工学	0	0.0
生物工学	1	2.4
応用理学	2	4.9
化学	2	4.9
農業	1	2.4
資源工学	0	0.0
繊維	0	0.0
原子力・放射線	0	0.0
総合技術監理	0	0.0
合計	41	100.0



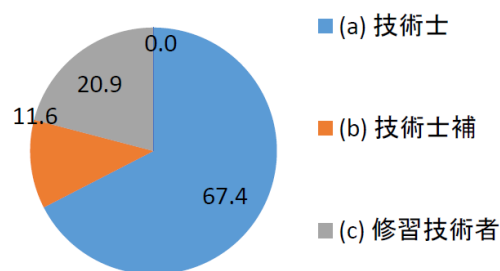
2. 年齢層について、該当する項目を選択してください。

回答	回答数	割合(%)
(a) 30歳未満	6	14.0
(b) 30歳～34歳	11	25.6
(c) 35歳～39歳	13	30.2
(d) 40歳～44歳	6	14.0
(e) 45歳～49歳	6	14.0
(f) 50歳～	1	2.3
合計	43	100.0



3. 会員層について、該当する項目を選択してください。

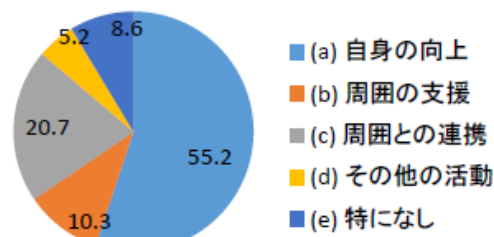
回答	回答数	割合(%)
(a) 技術士	29	67.4
(b) 技術士補	5	11.6
(c) 修習技術者	9	20.9
(d) JABEE認定プログラムの学生	0	0.0
(e) その他	0	0.0
合計	43.0	100.0



Q2 技術士または技術者としての活動について

1. 技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか(複数回答あり)?

回答	回答数	割合(%)
(a) 自身の向上	32	55.2
(b) 周囲の支援	6	10.3
(c) 周囲との連携	12	20.7
(d) その他の活動	3	5.2
(e) 特になし	5	8.6
合計	58	100.0

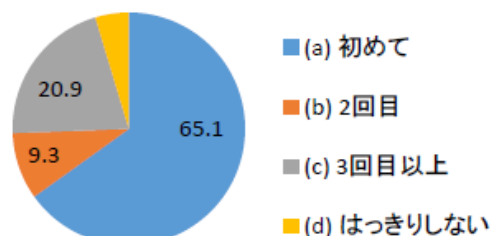


- ・社会人学生
- ・理科教育支援
- ・防災キャンプ
- ・技術士取得支援
- ・資格取得(技術士、弁理士、PMP、監理技術者、中小企業診断士)
- ・社内のイベント、委員会活動等
- ・学会、協会
- ・NPO活動
- ・例会・セミナー参加
- ・東北被災地支援
- ・県支部若手の会

Q3 青年委員会の活動について

1. 青年委員会のイベントに参加するのは今回で何回目ですか?

回答	回答数	割合(%)
(a) 初めて	28	65.1
(b) 2回目	4	9.3
(c) 3回目以上	9	20.9
(d) はっきりしない	2	4.7
合計	43	100.0

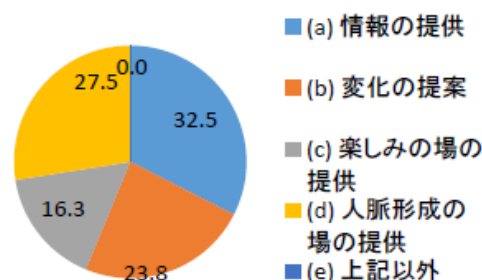


2. 過去に参加したイベントで、印象深かったテーマや面白かったテーマは何ですか?

- ・ライフライン
- ・ファシリテーション
- ・英会話
- ・青年よ、大志を抱け!
- ・サッカー
- ・合格者交流会
- ・SWOT分析
- ・英語
- ・国際交流

3. 青年委員会の活動として開催してほしいイベントは何ですか(複数回答あり)?

回答	回答数	割合(%)
(a) 情報の提供	26	32.5
(b) 変化の提案	19	23.8
(c) 楽しみの場の提供	13	16.3
(d) 人脈形成の場の提供	22	27.5
(e) 上記以外	0	0.0
合計	80	100.0



- ・国際交流
- ・技術士との対話、交流
- ・見学会
- ・20代限定
- ・ビジネスパーソン、市民向け講座
- ・「知の市場」のような機関への参画
- ・若手による無償相談会
- ・社会貢献活動
- ・BBQ
- ・部門、科目毎の交流
- ・国際競争力向上、マネジメント力向上
- ・サイエンスアゴラでブース出展
- ・技術士・修習技術者によるNPO設立
- ・技術士の活躍例、新たな技術トピックの紹介

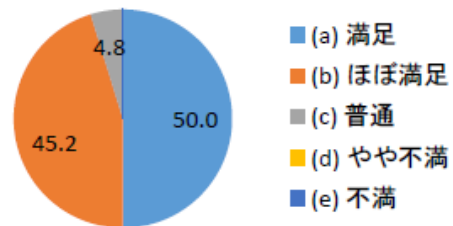
4. イベントの内容以外について、ご希望がありましたらお書きください。

- ・平日夜の開催だと参加しやすいです。
- ・TOSS(教育技術法則化運動)と何か一緒にできることはないか考え中です。
- ・上半期の土曜日開催を希望します。
- ・名古屋在住なので東京以外でもイベントがあるとありがたいです。

Q4 今回のイベントについて

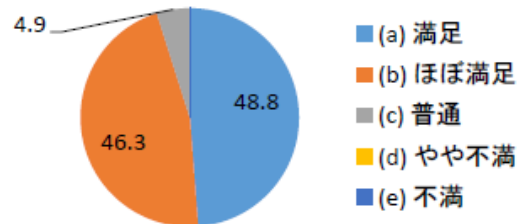
1. 今回のイベントは、全体としていかがでしたか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	21	50.0
(b) ほぼ満足	19	45.2
(c) 普通	2	4.8
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	42	100.0



2. スタッフの対応はいかがでしたか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	20	48.8
(b) ほぼ満足	19	46.3
(c) 普通	2	4.9
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	41	100.0



3. スタッフに伝えたいことがありましたら、お書きください。

【ご要望】

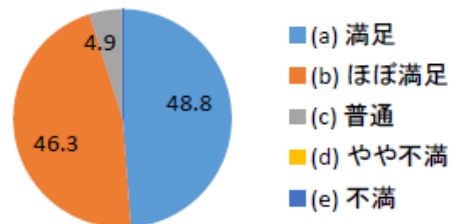
- ・参加者一覧があるとよい。
- ・寸劇は必要ないと思います。

【その他】

- ・有意義な学びや仲間づくりの貴重な場を提供いただき、感謝します。
- ・年度始めのお忙しい中、お疲れ様でした。

4-1. 先輩技術士の発表内容はいかがでしたか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	20	48.8
(b) ほぼ満足	19	46.3
(c) 普通	2	4.9
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	41	100.0



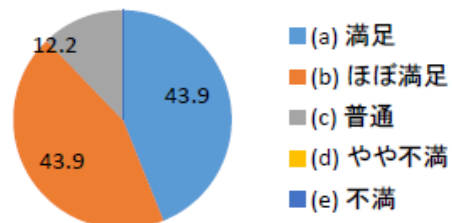
4-2. 発表者への質問、要望等がございましたら、お書きください。

【その他】

- ・45才を間近にひかえていますが、理科教育支援に何か協力したい意向です。

5-1. インタビューの内容や進め方？

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	18	43.9
(b) ほぼ満足	18	43.9
(c) 普通	5	12.2
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	41	100.0



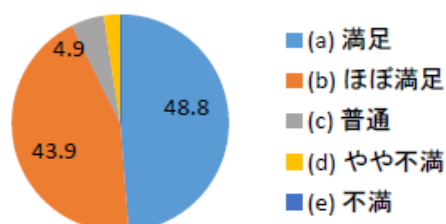
5-2. その他、インタビューについてご意見などがございましたら、お書きください。

【ご要望】

- ・「きくこよね」を活用できるとなると有意義だったかと。(きっかけ、くろう、こつ、よろこび、ねがい)
- ・2分は短いと感じた。名前、部門は名刺で分かるので不要
- ・もう少し時間をとってよいと思う。

6-1. グループワークの内容や進め方？

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	20	48.8
(b) ほぼ満足	18	43.9
(c) 普通	2	4.9
(d) やや不満	1	2.4
(e) 不満	0	0.0
合計	41	100.0



6-2. その他、グループワークについてご意見などがございましたら、お書きください。

【ご要望】

・技術士は職業ではなく資格名なので前提がおかしい。

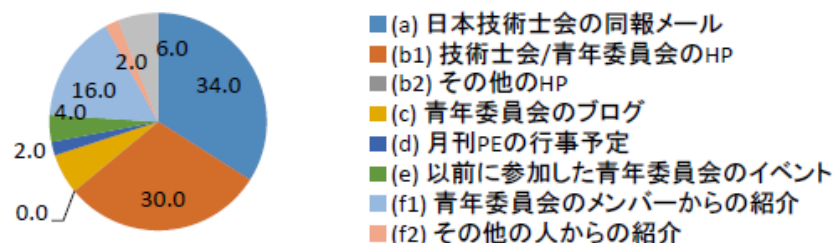
【その他】

・テーマは私が追い求め続けてきたものです。今後も考え続けたい意向です。

Q5 今回のイベントに参加するまでの経緯について

Q5. 今回のイベントへの参加のきっかけとなったものはどれですか(複数回答あり)？

回答	回答数	割合(%)
(a) 日本技術士会の同報メール	17	34.0
(b1) 技術士会/青年委員会のHP	15	30.0
(b2) その他のHP	0	0.0
(c) 青年委員会のブログ	3	6.0
(d) 月刊PEの行事予定	1	2.0
(e) 以前に参加した青年委員会のイベント	2	4.0
(f1) 青年委員会のメンバーからの紹介	8	16.0
(f2) その他の人からの紹介	1	2.0
(g) その他	3	6.0
合計	50	100.0



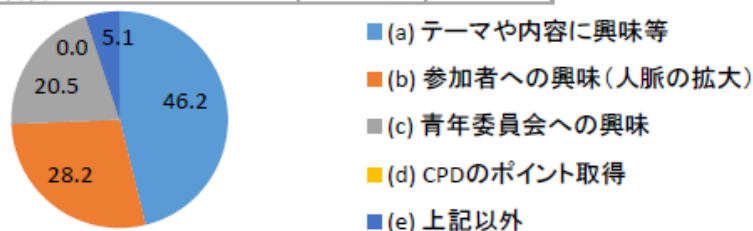
・合格時に郵送されてきたチラシ(2名)

・父からの紹介

Q6 参加の目的と達成度について

1. 目的は何ですか？

回答	回答数	割合(%)
(a) テーマや内容に興味等	18	46.2
(b) 参加者への興味(人脈の拡大)	11	28.2
(c) 青年委員会への興味	8	20.5
(d) CPDのポイント取得	0	0.0
(e) 上記以外	2	5.1
合計	39	100.0

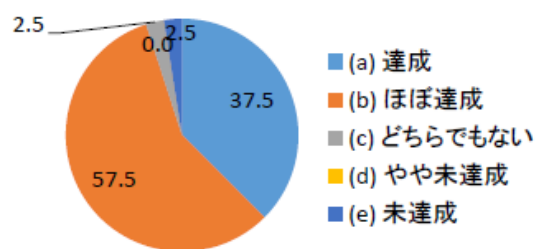


・友達づくり

・オブザーバー

2. 目的達成度

回答	回答数	割合 (%)
(a) 達成	15	37.5
(b) ほぼ達成	23	57.5
(c) どちらでもない	1	2.5
(d) やや未達成	0	0
(e) 未達成	1	2.5
合計	40	



國際活動報告書

行事名	HKIESC(香港技術士会 学生支部)の来日支援および交流
日時	2018 年 5 月 22 日 (火) ～5 月 28 日(月)
場所	関東近郊
参加者	青年委員 : 諸田、山本、白井、田角、竹内、田中仁美、河野、明山、萩尾(記) 元青年委員 : 田中雅人、佐藤理英、松田 近畿本部 : 坂東大輔(通訳) (敬称略)
参加者数	13 名

1. 目的

- ・若手技術者の国際交流
- ・IPEJ および HKIE (Hong Kong Institution of Engineers)の信頼関係の構築
- ・海外からの見学受け入れ体制の構築

2. 概要

参加者 : HKIESC(Hong Kong Institution of Engineers Student Chapters) Delegation 31 名
(香港城市大学, 香港理工大学の香港技術士会学生支部メンバー30 名および香港技術士会メンバー1 名)
滞在期間 : 2018 年 5 月 22 日 (火) ～5 月 28 日(月)
日程 : 別紙参照

3. 経緯

2017 年の CAFE035/YEAFEO24 にて繋がり出来た HKIE の King 氏から、同年 12 月に HKIESC の来日支援の相談を受けた。若手技術者の交流機会創出のため、青年委員会としてこれを受け入れた。

4. 準備内容

2017 年 1 月から 5 月までの 5 ヶ月間、HKIESC の企画書に基づき、日本での宿泊先、見学先、食事、通訳、移動方法の検討およびその他諸手続の支援を実施。

5. 活動詳細

5. 1 5 月 22 日(火)

HKIESC メンバー来日。元青年委員の松田氏が成田空港の到着ロビーにて、ウェルカムボードで出迎え、アテンド。貸し切りバスの発着場所がわかりにくく、若干時間を要した。

午前中は成田の航空科学博物館を見学。昼食を取り、午後からは麒麟ビール横浜工場を見学。

宿泊先は、国立オリンピック記念青少年総合センター。最終日まで、宿泊先は同じ。チェックインは青年委員の田角が対応。

5. 2 5 月 23 日(水)

二日目から通訳として坂東氏が参加。青年委員の竹内、萩尾がアテンド。

竹内、萩尾はオリンピックセンターに 8 時に集合し、貸し切りバスで日産横浜工場へ移動。日産横浜工場では、2 班に分かれて見学。坂東氏、竹内が通訳を行った。

近くの麒麟ビール横浜工場のレストランで昼食後、東京都下水道局森ヶ崎水再生センターを見学。施設の概要説明のプレゼンを見た後、森ヶ崎水再生センターの特色である「下水道発電」の発電設備等を見学した。

夜は HKIESC メンバー数名と新宿で一緒に夕食をとった。

5. 3 5月24日(木)

坂東氏が通訳。青年委員の白井がアテンド。バス会社との連絡ミスにより、出発時間が1時間ほど遅れた。午前中は慶應大学理工学部矢上キャンパスを見学。香港の学生はとても刺激を受けたようで好評であった。午後はNTT技術史料館を見学。香港から情報通信や電力など、関連産業に興味を示す発言が多くあった。

5. 4 5月25日(金)

坂東氏が通訳。青年委員の田角がアテンド。バス会社との連携がうまくいかず、日程にずれが生じた。午前中は東大工学部（本郷キャンパス）より、工学部全体についてのガイダンス及び工学部の教授（中国系）より研究紹介（洋上風力発電）をいただいた。昼は同キャンパス内で行われた東大留学生達と交流する International Friday Lounge に参加し、在校生との交流は短い時間であったが香港の学生からは非常に好評であった。午後からは駒場キャンパスの生産技術研究所の見学を行い、ITS、ロボット工学とAR/VR、燃料電池に関する3研究室を訪問した。1つの研究室では中国系の研究者が大変歓迎して下さり、北京語の説明も申し出て下さった。東大生産技術研究所は外国からの見学者の受け入れ態勢が非常に行き届いており、生産技術研究所の英語によるガイダンス、引率のほか、ブックレットやお土産のてぬぐいが配布され、後日専属のカメラマンが撮影した集合写真の大判プリントを全員分ご提供下さった。

5. 4 5月26日(土)

坂東氏が通訳。青年委員の萩尾、明山、元青年委員の佐藤氏がアテンド。午前中は山梨県立リニア見学センターの見学。見学時間は2時間であったが、十分余裕があった。リニアモーターカーの試運転を見学した際は、参加者から歓声があがった。午後からは河口湖散策。滞在時間が約2時間と短かったため、観光名所を1カ所しか回ることが出来なかった。バスの運転手の配慮により、バス会社経由で遊覧船を予約して頂いたため、時間に無駄なく過ごすことができた。

夜からは新宿にてHKIESCとIPEJの交流会を行った。青年委員の諸田、山本、白井、田中(仁)、河野、元青年委員の田中(雅)が加わり、総勢40名であった。3時間レストランを貸切り、各自席を移動する等して一人一人と話すことができ、交流を深めることが出来た。

5. 5 5月27日(日)

香港メンバーの自由行動日。数名の香港メンバーは秋葉原に行き、買い物や観光をしたとのこと。

5. 6 5月28日(月)

香港帰国。元青年委員の田中雅人氏がチェックアウト対応。

6. 良かった点、改善点等

6.1 良かった点

<全体を通して>

- ・ 見学先への到着遅延、時間短縮、内容変更は今後の課題であるが、基本的にトラブルなく、予定していた全ての行程を完遂できた。
- ・ 青年委員会として調整の負荷は大きかったが、それ自体が交流活動として価値があった。香港側、日本側ともに良好な人脈形成ができた。HKIESCメンバーは今後も日本との積極的な交流を望んでおり、今後も継続的に香港との交流の機会を持つことが期待できる。香港技術士会の若者が成長して学生支部から香港技術士会で活躍することを考えると、日本にとっては本イベントが貴重なコネクション作りになったと言える。
- ・ 香港の学生に多くの日本の技術を学ぶ機会を与えられた。今回の経験は彼らがハイレベルな技術者になる一助になった。香港の学生は終始楽しんでおり、見学先についてはHKIESCのVanessa氏から“全て良かったが、中でも日産が一番良かった”とのコメントを受けた。食事についても、5/23に一部香港メンバーと行ったお好み焼きは、その場で焼く楽しみもあり、好評であった。
- ・ Delegation終了後、6/17に香港で参加者全員によるプレゼンテーション大会が行われ、見学の成果、日本と香港の比較等発表が行われた。Delegationの成果についてブックレットが制作され、日本へ寄贈いただいた。
- ・

<コミュニケーションツール>

- ・ スプレッドシート、Facebook ページおよびメッセージツールをうまく活用し、リアルタイムに連絡を取り合い情報共有できていた。また、HKIESC と IPEJ 間で Skype ミーティングを行ったことにより、話が進んだ。Skype で話したことも議事録に取った。直接顔を見て話すことにより、相手の人となりを感じることができた。

<青年委員会として>

- ・ 会社の業務がある中にも関わらず、青年スタッフがそれぞれ責任感をもって、連携・分担して対応できた。青年委員会の雰囲気の良い、思いやり、気遣いが全面に出ていた。例えば、初日のウェルカムボードでの対応は香港からとても喜ばれた。食材制限やスケジュールも細やかに対応し、“おもてなし”ができた。見学受け入れ先にも、見学後にお礼メールを送る等の対応も忘れず行った。また、青年 OB の協力を得て現メンバーのリソース不足をカバーできた。

6.2 改善点

<全体を通して>

- ・ 今回全旅程(トラブルシュート含む)を青年委員会にて管理したが、宿泊施設での引率(宿泊)対応、見学先の予約、昼食場所の検討と予約(宗教対応含む)、バスの駐車場の有無、距離(移動時間)の考慮等、負荷が大きかった。
- ・ バスの手配は香港側にて中国人スタッフのいる代理店へ発注したが、不備が多かったため、今後は信頼できる日本のバス会社を手配した方が良いと考える。
- ・ 香港側は「食事は同席の人々と語らいを、ゆっくり時間をとって楽しむ」という文化があるようで、そのためには約束の時間を守らなくて良いと思っているようであった。当件については何度か忠告したが理解されず大変苦労した。今後、同様のことが無いよう、日本の習慣文化を遵守するよう、事前に知らせておく方が良いと考える。
- ・ 香港側、日本側の役割分担、対応範囲、何かあった際の対応方法(リスク管理)を明確に決め、予め共有しておくが良い(日本に頼めば何でもやってくれると甘えられるとお互いによくない)。
- ・ 旅程管理を青年委員会で行う場合は、スムーズな旅程管理を企図して、以下対応が必要。
 - 青年スタッフの自己紹介資料やアナウンス内容や配布資料の作成(自己紹介資料については香港側にも依頼)
 - 土産、トイレ、緊急連絡先、緊急集合場所、集合写真時間の共有
 - 名札(ニックネーム)の用意
 - はぐれないように、班ごとの点呼体制の整備や、帽子等の目印になるものを身に付けるようにする

<青年委員会として>

- ・ 特定メンバーに負荷がかかり過ぎるように見えるので、請負フローを整理する打合せをすべきだった。
- ・ 今回と同様のことが年に数回生じた場合や、年度末などの繁忙期に実施される場合、同レベルの対応は困難なので、フレームワークや手順書などをまとめておくが良い。同様のことを実施した際に、「前回よりも支援が少ない」とか「香港には色々支援したのに、我が国には支援が少ない」などと公平性を問われると困る。

<コミュニケーションツール>

- ・ メッセンジャーは日本用と日本&香港用に分けた方がよかった。
- ・ 途中から参加した青年メンバーに情報が全部入っていなかったため、どこか共有フォルダに資料を格納するようにすれば良かった。また、見学先の予約名を青年メンバー間で共有すべきであった。

<通訳>

- ・ 広範囲の技術範囲を通訳するのは非常に難しく、各施設のプレゼン原稿や配付資料を事前に入手し、日英ワンセットの資料があれば良かった。
- ・ 日程詳細が決まっていないところがあり、通訳の坂東氏にもスタッフとして動く必要があった。通訳の範疇を超えており、一般の通訳の方だと、青年委員会と通訳案内士の会社で揉めた可能性あり。

<工場・大学見学>

- ・ 今後も今回のような工場見学を行う可能性があるため、複数の見学会を経験しておく。また、見学時に英語での引率対応ができるように、練習する機会があると良い。
- ・ 大学見学は国際対応の受け入れ態勢が整っている大学があり、今後も見学先として有効活用できることが見込まれる。
- ・ 日本の大学生との交流は香港側で大変好評であった。日本にとっても大学院生獲得の入り口になり得るので、Win-Win の関係として今後見学だけでなく大学生との交流の機会を設けるのがよい。

- ・ 見学先のプレゼンが、日本語→英語で行うと、時間が倍かかってしまうし、プレゼンの流れが悪く頭に入りにくい。英語対応可能な技術見学のできる施設をリストアップしておくとい。

<宿泊>

- ・ チェックアウト時に香港メンバーが部屋を掃除しているかを確認出来なかった。今後もオリンピックセンター使うことがあれば、掃除チェックできるしくみ（退室時に写真撮ってもらう等）が必要。

<懇親会>

- ・ お互いが楽しめるようなイベントや催し物があっても良かった。
- ・ 懇親会の場所が歌舞伎町ということもあり、治安があまり良いとも言えないので、駅の近くもしくはもう少し治安のよさそうな場所にしても良かった。

<食事>

- ・ 宗教対応のお店をまとめてリストアップしておく、今後対応しやすい。
- ・ 学生が来る場合は、食事などを安め設定にしておいた方が良い。

6.3 その他

- ・ 青年メンバーの英語力、コミュニケーション力向上が必要である。
- ・ 今後香港とのつながりを強めるために、CAFEO での香港メンバーとの懇親会や、香港訪問等を検討したい。

7. 今後の展開

- ・ HKIESC が帰国後に行う発表の資料を共有して頂く。
- ・ HKIESC の Delegation Booklet を青年委員会へ共有する。
- ・ 今後、CAFEO/YEAFEO 参加時に香港との交流を検討する。
- ・ 香港への訪問企画を検討する。

8. 交流の写真

8. 1 5月22日(火)



8. 2 5月23日(水)



8. 3 5月24日(木)



8. 4 5月25日(金)



8. 5 5月26日(土)



以上

行事名	タイのエンジニアとの交流
日時	2018 年 10 月 8 日 (月・祝) ～10 月 9 日(火)
場所	関東近郊
青年参加者	青年委員 : 横田、竹内、高橋義也、明山、滝口、田中仁美、萩尾(記) 元青年委員 : 田中雅人 (敬称略)
参加者数	8 名

1. 目的

- ・2 国間交流の促進
- ・国際交流の機会の創出
- ・日本の文化・技術のアピール

2. 概要

参加者 : VACHARA PEANSUPAP Assist. Prof. (Chulalongkorn University)
 WORAWAT SRIUDOM (Chulalongkorn University)
 KRIENGKAI VIRIYAMETANONT PH.D (SANSIRI PLC)
 WARANYA TRAEVIJIT (SANSIRI PLC)
 森田 健一 技術士 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
 平 善隆 (伊藤忠建材株式会社)
 片山 祐輔 (伊藤忠建材株式会社)
 土田 典幸 (株式会社ホクコン)
 愛甲 秀行 (株式会社ホクコン)
 田中 義人 技術士 (株式会社ホクコン)
 滞在期間 : 2018 年 10 月 8 日 (月・祝) ～10 月 12 日(金)
 (青年委員会は 8 日、9 日のみアテンド)
 日程 : 別紙参照

3. 経緯

2017 年の CAFE035/YEAFEO24 において、ホスト国としてアテンドして下さったタイの WORAWAT さんから大学の研究室としてプレキャストコンクリートの視察のために来日すると連絡があった。青年委員会に対しプレキャストコンクリートの説明を希望されたため、伊藤忠建材株式会社 様、株式会社ホクコン 様、建設部会の森田様の協力を得て技術説明会を実施した。

4. 活動詳細

4. 1 10 月 8 日(月・祝)

都内の案内を実施。

国立新美術館、六本木ヒルズ、アメ横、上野公園を巡り、日本の文化を感じて頂きました。

4. 2 10 月 9 日(火)

プレキャストコンクリートの勉強会、および都内の案内の実施。

今回は伊藤忠建材株式会社 本社の会議室をお借りして勉強会を実施した。株式会社ホクコンの技術者の方から、会社説明、プレキャスト貯水槽の施工紹介、EV 昇降路ラクス、エアキャスター工法についてご説明いただいた。通訳の方に 1 名ついて頂いたが、席の配置の関係で個別に通訳をした方が望ましかったことから、青年委員も通訳を行った。説明中に WORAWAT

さん達から積極的に質問をいただき、とても有意義な勉強会となった。プレキャストコンクリートの優位性、特徴、工法等について学ぶことができ、VACHARA Assist. Prof.から感謝の言葉を頂いた。
午後からは昨日に引き続き、浅草、東京スカイツリーなどを案内した。

5. 成果

- ・ タイの技術者との交流を深めることができた。
- ・ 国際交流に興味があるが、渡航する時間がない、金銭的余裕がないなどの理由で参加出来ない方にも国際交流の場を提供することができた。
- ・ 日本に海外の技術者を呼ぶことで、日本の技術、文化を伝えることができた。

6. 今後の展開

- ・ 引き続き、WORAWAT さんと連絡をとり続け、交流を深めていく。
- ・ CAFE036/YEAFE025 において、タイの技術者と交流を行う。

7. 交流の写真

7. 1 10月8日(月・祝)



7. 2 10月9日(火)



以上

会議名	CAFE036/YEAFEO25
日時	2018 年 11 月 11 日（日）～11 月 14 日(水)
場所	Resorts World Sentosa Convention Centre, Singapore
参加者	青年(統括本部)：●萩尾(記)、●竹内、●明山、諸田、山本、白井、高橋(義)、田中(仁)、滝口 青年(中国本部)：三角、金高、奥藤 元青年委員：田中(雅) 一般：西田、力石、小梶、園家、吉浦、高木、塚越、松山、鳥海、成田、林、Kyu Kyu thin (●：公費派遣者、敬称略)
参加者数	25 名

1. 目的

- ・若手技術者の国際感覚の育成
- ・ASEAN 諸国の技術者との人脈構築
- ・二国間交流の推進
- ・当該会議への継続参加による日本のプレゼンス強化
- ・日本の参加者同士の交流
- ・日本技術士会の会員数増加

2. 概要

会議名：CAFE036 (36TH Conference of the ASEAN Federation of Engineering Organizations)
 YEAFEO25 (25TH Young Engineers of the ASEAN Federation of Engineering Organizations)
 FEIAP (Federation of Engineering Institutions of Asia and Pacific)
 期間：2018 年 11 月 11 日(日)～14 日(水)
 場所：Resorts World Sentosa Convention Centre, Singapore

3. メンバーが参加した主日程 ※ 基本的に YEAFEO プログラムへ参加し、空いた時間は CAFE0 プログラムへ参加。 (西田氏は、CAFE0 発表のため、CAFE0 プログラムに参加)

Date		Program
11 月 11 日	PM	[YEAFEO_pre-event] Cycling
11 月 12 日	AM	[YEAFEO] Opening
		[YEAFEO] Country Reports
	PM	[YEAFEO] Start-Up Challenge
		[CAFE0] Welcome Reception
11 月 13 日	AM	[CAFE0] Opening Ceremony
	PM	[YEAFEO] Governing Board Meeting & Gift exchange / Paid Tour to River Safari
		[FEIAP] EXCO (Executive Committee)
		[YEAFEO] Young Engineers Night
11 月 14 日	AM	[YEAFEO] Technical Visit (Tuas Mega Port / Solar Energy Research Institute of Singapore(SERIS))

	PM	[YEAFFEO] Start-Up Challenge - Pitching
		[YEAFFEO] Technopreneur Talk by Associate Professor Foo Kim Peng
		[CAFFEO] Signalling and Communications
		[CAFFEO] Closing Banquet

4. 成果

4. 1 若手技術者の国際感覚の育成

- ・社会人 2～3 年目の方に参加して頂くことができ、より早い段階で国際的な意識を持って頂く事に成功した。
- ・海外の技術者と直接対話することで、英語でのコミュニケーション方法を肌で感じる事ができた。
- ・英語での議論に参加し、実践経験を得ることで英語勉強のモチベーションアップにつながった。
- ・ASEAN 諸国の文化について見識を深めるすばらしい機会をもつことができた。

4. 2 ASEAN 諸国の技術者との人脈構築

- ・YEAFFEO に参加した各国の技術者と SNS 等を交換して連絡を取り合うことが出来るようになり、良好な人間関係を築くことができた。
- ・会議後も、継続的に SNS 等を利用して連絡を取り合っている。
- ・継続参加することで、CAFFEO35 から SNS 等で連絡を取り合っていた方と顔をつきあわせて近況報告することができ、さらに信頼関係を深めることができた。

4. 3 二国間交流の推進

- ・CAFFEO35 の繋がりから 2018 年 5 月に HKIESC(The Hong Kong Institution of Engineers Student Chapters)の来日サポートを行ったお礼も兼ねて、HKIE の Chairman の Tak 氏から香港への招待を受けた。
- ・IES-Young Engineers Committee(IES-YEC)の chairman の Eng 氏から、IES のフェローで DSTA(Defense Science and Technology Agency)の CEO である TAN 氏の来日サポートを依頼された。

4. 4 継続参加による日本のプレゼンス強化

- ・昨年から引き続き参加した人数は 12 人であり、同じメンバーが参加することで参加国からの信頼感を増すことができた。
- ・西田氏が CAFFEO にて発表を行い、日本の技術力を示すことができた。
- ・YEAFFEO の会期中、積極的に日本から質問することで、日本の存在感を示すことができた。
- ・Welcome Reception 時、空手の演武と世界的に知られている AKB48 の「恋するフォーチュンクッキー」を踊り、非常に好評であり日本の文化を示すことができた。
- ・Farewell Dinner 時、Cultural dress code として着用した空手道着、袴および浴衣が大変好評で、多くの方々から写真撮影を求められた。技術面だけではなく、文化面でも日本の存在感を示すことができた。

4. 5 日本の参加者同士の交流

- ・参加者数が 25 人になり、昨年より 12 人増加した。
- ・中国本部の方にも参加して頂いたことで、関東以外の技術士との交流が可能になった。
- ・事前準備から参加者全員で活動を行うことで、参加者全員に主体的に行動して頂く事ができた。
- ・YEAFFEO のアクティビティに参加することで、参加者同士のコミュニケーションが促進され交流を深めることができた。

4. 6 日本技術士会の会員数増加

- ・今回参加して頂いた社会人 2～3 年目の方全員から、将来技術士になりたいとのコメントを頂いた。今後の技術士会の会員数増加につながると思う。参加者の内、1 名は CAFFEO 参加を決めてから 1 次試験を受験し、合格済み。
- ・技術士会の会員以外にも門戸を開いたことで、会員以外にも技術士会への興味を引き出すことに成功した。

(参考) 2018 年参加者数の変動 (対 2017 年)

昨年の参加者と今年の参加者の分類したものを下表に示す。昨年より多様な方に参加して頂けたことがわかる。地道な宣伝活動の賜であるとする。来年以降も目標を達成できるような参加者募集を試みていく。

項目	2017→2018 年の 参加者変動数	参加者数	
		2017 年	2018 年
参加者数	12 名増加	13	25
CAFE0/YEAFEO 参加経験者	9 名増加	3	12
20 代参加者	2 名増加	0	2
非会員数	4 名増加	1	5
地域本部メンバー	3 名増加	0	3
統括本部	2 名増加	8	10
一般参加	7 名増加	5	12

5. 活動詳細

5. 1 11 月 11 日 (YEAFEO pre-event)

参加希望者による YEAFEO のサイクリングイベントが行われた。ルートは North Eastern Riverine and Coney Island。日本からは奥藤氏、山本氏、林氏の 3 名が参加。

直前にスコールが降り開催が危ぶまれたが、無事に開催され参加者同士の交流を深めることができた。



5. 2 11 月 12 日

(1) YEAFEO Opening

IES-YEC の chairman の Eng 氏による開会の挨拶の後、全員に番号シールが渡され、その番号に応じて 3 日間に渡るグループワークのメンバーに分けられた。

始めにアイスブレイクを兼ねたイベントが行われた。参加者同士が制限時間内に 3 回勝つまでじゃんけんを行っていくというもの。3 回勝った時点でその人は終了。制限時間が来た時に、1 回も勝てなかった方がおり、笑いを誘い、和やかな雰囲気になった。



次に会場全員の自己紹介を行った。これは、Facebook を利用して行うという斬新な企画であった。グループメンバーが一人一人自己紹介の動画を撮影し、一つのグループの動画として IES-YEC の Facebook ページにアップするという方法。Facebook を見れば各チームのメンバーの人の柄がわかり、後で確認して思い出すことも可能なのでとても良い方法だと感じた。時間が許す限り、会場のスクリーンに撮った動画を映し出してくれた。会場全体が打ち解けて誰にでも話しかけやすい雰囲気になった。

(2) Country Report

各国の1年間の活動報告を行った。日本は竹内氏が報告。本会議よりも前に行われるミッドターム MTG にて、Country Report にビッグプロジェクトを3つ盛り込むことになっていたようだった。そのため、会場から日本のビッグプロジェクトは何かという質問を受けたが、状況を理解出来ず質問に苦慮した。昨年からの課題となっていたミッドターム MTG への参加については、引き続き検討したい。

Country Report を通して、ぜひ来日して欲しいという想いを伝えることは成功したと考える。



(3) Lunch

昼食はグループごとにとることになった。25SGD×6枚の食事チケットを渡され、フードコートで好きな物を購入して持ち寄って食べる方式であった。シンガポールで有名な食事を聞きながら、各グループの日本の参加者も楽しみながら料理を選んでいる様子が見えた。グループ内の親睦が深まる良い昼食となった。



(4) Start-Up Challenge

Prof. Foo Kim Peng 氏によるスタートアップやイノベーションのプロセスに関する講演を聴いた後、各グループに分かれて事業テーマを決め、プロセスに則って事業計画を立てることを行った。

同じ時間に CAFEO の登録料払い込みを行ったため、一部の日本メンバーが講演を途中から聴くことになってしまった。昨年に引き続き、今後も CAFEO 登録には注意したい。

講演において、小梶氏が積極的に質問する場面があった。この Start-Up Challenge の中でテーマとして取り上げる案件は、Country Report のビッグプロジェクトから考えることを想定していたようで、YEAFFEO イベントが一連の流れになっており、非常によく考えられたイベントであった。初日は案を作成するところまでであった。非常に面白い企画であったため、今後の青年技術士交流委員会の例会で扱うことも検討視野にいれたい。



(5) CAFEO36 Welcome Reception

CAFEO、YEAFFEO 合同での盛大な歓迎会が行われた。座席に着席しコース料理が運ばれてくる形式。今までとは異なり、最終日に行われていた各国の出し物を初日に行うことになった。

日本からは昨年に引き続き空手の演武と AKB48 の「恋するフォーチュンクッキー」を踊った。昨年の CAFEO35 で踊ったことを覚えていて下さった方も多く、非常に盛り上がった。出し物は毎年変える必要は無く、各国メンバーが踊りを覚えてくれるまで続ける、または、覚えやすい振り付けにして出し物の最初に呼びかけながら踊りを見せて一緒に踊ってもらうようにしても良いと思う。



5. 3 11月13日

(1) CAFE036 Opening Ceremony

YEAFFO 本会議は 12 日から開催しているが、CAFE0 は 13 日からの開催となっていた。開会の挨拶、貢献した方への表彰などが行われた。例年通りの内容であり YEAFFO として特に特筆すべきことはなかった。

(2) 会議参加もしくは River safari ツアー

3 名が会議参加、その他メンバーは River Safari の見学を行った。

(2-1) YEAFFO Governing Board Meeting

YEAFFO の運営に関する内容を議論する会議で、日本からは田中(雅)氏、田中(仁)氏が出席。CAFE0 のイベントの都合により、急遽時間を変更して行うことになったため、River Safari と同時刻開催となった。

日本はオブザーバとしての参加であるが、発言する場を頂けた。今までは Country Report の書式が各国で異なっていたが、来年からは統一することになった。来年の CAFE0/YEAFFO は 9 月 11 日-14 日にインドネシアのジャカルタで開催されることが報告された。

また、同時に各国からのお土産交換が行われた。日本からは日本文化をアピールでき、持ち帰りがしやすい扇子を贈呈した。文化交流の貴重な機会となった。



(2-2) FEIAP Executive Committee

FEIAP とはアジア太平洋地域での技術者団体連盟のことであり、日本技術士会として FEIAP に加盟している。通常は青年委員会からは参加はしないが、今回青年 WG の設立提案を行うことから、発起人である IEM の Yeoh Su Hong 氏と共に、日本の担当者である竹内氏出席了。

青年 WG の目的は各国の抱える課題を解決するために若い技術者の資質を向上させることであり、WG 名を Youth Talents Development WG とすることになった。立ち上げにあたっては、マレーシア、台湾、フィリピン、シンガポール、日本の 5 つの国と地域が中心となって行うことで合意した。今後、メール、電話会議等で議論を進めていくことになる。



(2-3) Paid Tour to River Safari

YEAFFO Governing Board Meeting および FEIAP Executive Committee に参加していないメンバーは事前申し込みの River Safari の見学を行った。基本的には自由見学であり、海外からの参加者と積極的に交流を行った。親睦を深めるいい機会となった。



(3) Young Engineers Night

夜は YEAFFO による懇親会が行われた。場所は日本でおなじみのカラオケ店「まねきねこ」であった。大部屋で食事をとりながら自由に会話をすることができ、親睦を深めることができた。

ここで、翌日の Closing Banquet で行う YEAFFO としての出し物の練習をみんなで行った。一度音楽を流して踊っただけの練習であったが、海外ではこういうものかと妙に納得がいった。昨日に引き続きフォーチュンクッキーを流して頂き、全員で踊ることで大いに盛り上がった。



5. 4 11月14日

(1) Technical Visit

Mega Port と Solar Energy に分かれて見学を行った。

(1-1) Tuas Mega Port

Tuas(地域名)に建設中の Mega Port の見学を実施した。早朝のスコールの影響で足下がぬかるんでおり安全が確保出来ないということで、残念ながら事務所での説明のみであった。

事務所では Mega Port が建設される過程、Mega Port の港としての位置づけを説明して頂いた。説明後、小梶氏、明山氏から積極的な質問を行った。日本の存在感を示すことができた。英語での質問は躊躇しがちだが、恐れずに質問していく姿勢は日本メンバーにいい刺激を与えたと思う。小梶氏からは、1995 年の阪神大震災によって、当時の取引貨物量において 2～3 位であった神戸港がランクアウトし、代わりにシンガポールが第 2 位(2018 年現在)になった理由をどう考えるかという質問であった。回答としては、シンガポールは国土も人数も少ないので、外からの取引量を増やすことを前提に国際港として最初から建設されているが、日本はそうではない、というものであった。明山氏からは、安全第 1 が重要であるが、安全に特に気を付けていることは何かという質問であった。回答としては、安全教育をしっかりと行い、事前に作業のトレーニングを行うとのことであった。



(1-2) Solar Energy Research Institute of Singapore (SERIS)

SERIS はソーラーエネルギーの研究、開発、試験を目的として、シンガポールが国家として 2008 年から操業を開始した。

最初に SERIS の概要と研究内容の説明を受けた後、実際に見学を行った。より効率的にソーラーエネルギーを供給するための苦勞が感じられた。早朝のスコールの影響は特になかった。

各国の参加者はエネルギーに興味があるようで、Mega Port よりも参加人数が多かった。専門用語が飛び交い英語での説明に付いていくことは大変であったが、とてもよい勉強になった。



(2) Start-Up Challenge

初日(11/12)に作成したスタートアップ案に、参加者が一人一票ずつ投票を行った。その投票数が多かった上位 2 チームを選出した。選出されたのは、第 1 グループと第 8 グループであった。この 2 グループのどちらの内容がいいかを、選出されたグループ以外で話し合いを行い、発表を行った。

第 4 グループの発表は竹内氏が行った。的確な内容で参加者からの同意を得られた。また、午前中に引き続き小梶氏が質問を行った。

最終的に各グループからの評価が高かった第 8 グループ(日本メンバー：吉浦氏、萩尾氏)が優勝となった。第 8 グループの発表内容は、バナナを育てたあとの木を粉砕してつくられるバナナチップの有効活用であった。どのチームもよく考えられており、とても勉強になった。英語で議論をすることの難しさをあらためて感じさせられたイベントであった。

発表後は場所を移して Prof. Foo Kim Peng 氏の講演を聴いた。スタートアップのノウハウがたくさん詰まった貴重な内容であり、今後の参考になった。ぜひ例会という形で日本の技術者にフィードバックしていきたい。



(3) Signalling and Communications

CAFEO 内会議である SRTC(Singapore Rail Technology Conference)において、Signalling and Communications のセッションで西田氏が発表した。

本年度の CAFEO のテーマが鉄道であったため、そのメインとなる会議で発表したことは日本の技術力の高さをアピールできたと思う。また、昨年 YEAFEO 参加者が CAFEO の場で発表するといういい流れを作ることができた。



西田氏からのコメントは次の通りである。"テクニカルチームは仕事で使用しているため英語での発表に対して問題はなかったが、言葉と言葉をつなぐための言葉に苦労した。例えば、「この図は〇〇です」や、「次は〇〇について説明します」などの言葉がでなかった。会場は聴講者が多く、今回は 50 人くらいの前で話せたことが単純に楽しく、いい経験となった。" とのことであった。

CAFEO は学会と異なり専門家の集まりではないため、質問は一般的な内容であった。CAFEO で発表することに対して、企業、ビジネスとしてのメリットは少ないと感じる。また、個人としてもメリットも余り多くはないと思う。今回の CAFEO の発表はスポンサーとして宣伝を前提としている雰囲気を感じた。今後、若手を引っ張るため、日本のプレゼンス強化、発表者の経験のために YEAFEO を卒業して CAFEO で発表していく流れを作りたいが、その方法は検討が必要だと感じた。

(4) Closing Banquet

CAFEO、YEAFEO 合同でお別れ会が開催された。今年は初日に伝統衣装を着ていた国も多く、最終日にはスーツで参加されている方が半数近くであった。

日本は半数以上のメンバーが空手道着、袴または浴衣で参加した。写真と一緒に撮って欲しいとの依頼が多く、とても好評であった。日本の文化に興味を持って頂けるよい機会であるので、来年以降も浴衣等の衣装での参加を続けて行きたい。

最後に YEAFEO として一つの出し物を行った。IES-YEC が選曲してくれた音楽に合わせてみんなで踊るというもの(前日に一回だけ練習したもの)であったが、日本のフォーチュンクッキーも流して頂き、ここでも大いに盛り上がった。



6. 帰国後の振り返り

日本へ帰国した後、ビジネスフレームワークの一つである「KPT」を使用して振り返りを実施した。青年委員だけでなく一般の参加者の意見も取り入れることで、来年以降もより効率化、高密度化を図る。振り返り自体も帰国後の参加者同士の交流のきっかけになるため、とても有意義であった。



7. 今後の展望

- ・ASEAN 諸国の技術者とのつながりは SNS 等を活用して継続していき、来年以降の CAFEO/YEAFEO の人脈構築、信頼関係の深化につなげていく。
- ・前回の CAFEO から続いている香港との交流は、今後も継続する。
- ・来日対応の幅を持たせるため、地域本部との連携をより強化していく。
- ・帰国後も振り返りなどのイベントを行い、一般参加者同士が交流できる場を提供し、継続参加しやすい環境を作る。
- ・社会人 2～3 年目の方に参加して頂くことで、技術士自体への興味を持って頂けた。今後も参加率を上げる方向で検討する。
- ・会期中、積極的に英語で発言をしていく。そのために事前に英語の勉強を行うことも方法の一つとして検討していく。
- ・今までの事前勉強会は政治、文化、教育体制など大きなテーマであったが、実際の会話に活かせるような身近な話題もテーマに入れることを検討する。
- ・CAFEO での発表を積極的に行うために、青年としてのメリット、参加者としてのメリットをよく検討していく。
- ・参加者数増加に伴う青年委員会の負荷の見直しを行う。運営側として担う機能の範囲を議論していく。



以上

会議名	INTERNATIOAL YOUNG ENGINEERS EXCHANGE FORUM 2019 Gear Towards the Future - Innovative and Sustainable Cities
日時	2019 年 4 月 25 日 (木) ～4 月 27 日(土)
場所	Department of Electrical Engineering of the Hong Kong Polytechnic University(香港理工大学)他
参加者	青年委員：白井、竹内 委員補佐：明山
参加者数	日本技術士会：3 名、各国技術士会：総勢約 30 人、フォーラム参加学生：約 70 人

1. 目的と背景

香港との二国間交流、周辺各国及び CAFEO 参加国との相互交流および緊密な関係構築、日本のプレゼンス強化のため、香港技術士会青年委員会主催の国際交流会合へ参加した。背景には、2018 年 6 月に香港技術士会 学生支部主催の来日企画（31 名来日、期間は 1 週間）の支援を行った（宿泊含めフルアattend）ことがある。これを機に、香港技術士会青年委員会との交流が加速し、本会合へのインビテーションを受けた。

2. 参加国団体

- ・Young Members Committee of the Hong Kong Institution of Engineers（香港）【主催団体】
- ・Young Engineers Committee, the Institution of Professional Engineers Japan（日本）
- ・Young Members Affairs Division, the Macau Institution of Engineers（マカオ）
- ・Young Engineers Section, the Institution of Engineers, Malaysia（マレーシア）
- ・Young Engineers Section, Philippine Technological Council（フィリピン）
- ・Young Engineers Committee, the Institution of Engineers, Singapore（シンガポール）
- ・Young Engineers Honor Society, National Academy of Engineering of Korea（韓国）
- ・Young Engineer Committee, the Chinese Institute of Engineers（中国）

3. 主日程

Date		Program
4/25(Thu)	PM	【Welcome Dinner】@Whenever Eatery(嚕中菜坊)
4/26(Fri)	AM	【Technical Visit】 Housing Development at the Diamond Hill Comprehensive Development Area
		【Technical Visit】 InnoZone and Interactive Learning Centre in Electrical and Mechanical Services Department of HKSAR Government
	PM	【Technical Visit】 West Kowloon Cultural District
		【Technical Visit】 West Kowloon Station (MTR High-speed Rail)
		Ferry Tour from Kowloon to Hong Kong Island
4/27(Sat)	AM	【FORUM】 Kick-off Ceremony, Keynote Speech, Sharing from Supporting Institutions, Interactive Panel Discussion
		【Meeting】 Introduction of Institutions, Engineering Issues in Hong Kong, Working Culture in Hong Kong, Overseas Working Opportunities or Experience Sharing, Feedback on the 3-day Exchange Event
	PM	

4. 活動詳細

4. 1 4月25日(木)

【Welcome Dinner】

各自で現地入りをした後、参加国メンバーの顔合わせを兼ねて現地レストランで Welcome Dinner が行われた。メンバーの約半分が ASEAN 技術者会議 CAFE0/YEAFEO(青年委員会は毎年参加)にて親交のある海外メンバーであり、初対面の韓国・マカオのメンバーとも交流を深めることができた。また、翌々日に大学で行う各国プレゼン方法やパネルディスカッションの打合せも兼ねていた。



4. 2 4月26日(金)

【Technical Visit】

(1) Housing Development at the Diamond Hill Comprehensive Development Area

黄大仙区の一部住宅街エリアの再開発について紹介があった。この区は香港では2番目に人口密度が多く、老朽化した住宅が集まるエリアの再開発に伴うマンション建設工事および公園整備が急がれていた。まずは建設会社事務所にて概要説明を受けた後、実際に工事現場内を視察することができた。プレキャストパーツ（事前に工場内で一部組立したもの）をクレーンで釣り上げ、徐々に積み重ねていくような工法がとられていた。震災のない地域ならではの工法である。



(2) InnoZone and Interactive Learning Centre in Electrical and Mechanical Services Department of HKSAR Government

香港における生活の安全性と質の向上をアピールすることを目的とした、電子機器製品の受託生産を管理する政府機関の施設である。様々な公的機関と協力を行い、研究開発支援や試作試験のサポートを行っているとの説明を受けた。VR等により視覚的に将来像が分かりやすい学習施設を見学することができた。



(3) West Kowloon Cultural District

芸術劇場、教育機関、公共広場が集まる再開発地区である。港に隣接したエリアであり、約2kmの遊歩道を整備すると共に、23ヘクタールの公共広場を整備中である。初めに現地担当者から説明を受け、その後その周辺を散策した。また公園内には自動走行バスの試運転がされており、実際に試乗することができた。



(4) West Kowloon Station (MTR High-speed Rail)

広深港高速鉄道[香港鉄路有限公司(香港 MTR)/中国鉄路総公司(CR)]の終着駅「香港西九龍駅」で 2018 年 9 月 23 日に開業した。中華人民共和国広東省の広州市まで行くことができる。駅の担当者より、この駅ではエネルギーを節約するため 4000 以上のガラスパネルを使用しているとの説明を受けた。また屋上には公共スペースがあり、ビクトリアハーバーの素晴らしい眺めを見ることができた。



(5) Ferry Tour from Kowloon to Hong Kong Island, and Networking Tram Party

船でビジネス中心街のある香港島へ渡り、路面電車(貸切車両)にて懇親会が行われ、各国メンバーとの交流を深めることができた。



4. 3 4月27日(土)

【Forum】

香港理工大学にて若手技術者および学生総勢 100 名以上の前のステージ上で、各国プレゼンおよびパネルディスカッションを行う機会があった。日本からのプレゼンは明山が担当し、鉄道インフラに関するプレゼンを実施した。プレゼンの途中で会場側へ質問を投げかけたところ、2～3割は既に日本に来たことがあり、日本の鉄道にも興味をもたれているようだった。発表時間は 10 分程度で、前スケジュールの時間が押している関係上、当初予定していた質疑応答 5 分は無くなった。その後のパネルディスカッションでは、技術者としての在り方について参加国同士で議論が行われ、日本からは竹内が参加した。その場で指定されたホームページへ質問や意見を会場聴講者が投稿し、それに対してリアルタイムに意見や回答を述べるという、ITを活用した、パネラーおよび聴講者の双方参加型企画であった。また去年 2018 年 6 月に学生約 30 名を引き連れての来日企画を行った香港技術士会学生支部のリーダー-Vanessa 氏と再会することができた。



【Meeting】

各国活動紹介および教育等に関するプレゼンの機会があった。香港技術士会では英国 CE 制度を元にしており、既に 70 周年の歴史があり、日本技術士会より倍以上会員規模が大きく、さらに学生支部だけで 1 万人規模の会員もいて活発な団体である。ASEAN 諸国だけでなく英国機械学会ともよく連携されているようだった。日本側は白井が担当し、IPD および CPD についてプレゼンした。次に、香港で働く海外技術者の経験談と意見交換があった。各国それぞれ技術士資格の制度が異なるため、現地の技術士取得が簡単ではないとの話があり、今後の課題である旨、意見が出された。最後は、この 3 日間における企画の反省会で、会場は駅から近いところがよい、週末に開催するのがよい等の意見が出された。今後、第 2 回目の開催を目指して、次回はシンガポールが主催国として検討することになった。



5. 成果

これまでの技術者会議や香港との2国間交流を経て、香港技術士会からのインビテーションにより今回の若手技術者会議へ参加することができた。これにより香港との関係強化を進めると共に、参加した各国メンバーとの人脈構築と相互交流と相互文化の理解を深めることができた。また現地大学にて大勢の学生の前でプレゼンおよびパネルディスカッションを行うことにより、日本技術士会、青年委員会、ひいては日本のプレゼンス強化にも貢献できたと考える。更に、その成果の一つとして、後日、香港技術士会主催の建設系の国際会合への招待案内をいただくことにもつながった。このような国際会議へ参加することは、海外技術者と直接交流し広い視野を身に付ける絶好の機会である。このような機会を技術士会会員へ提供すべく、日本のプレゼンス強化、海外技術者との人脈構築拡大のため、今後も積極的に国際交流を行っていきたい。

6. 所感

<白井>

この度は昨年来日した香港技術士会のメンバー、CAFE035Bangkok および CAFEIO36Singapore で交流したメンバーと継続して交流する場として香港技術士会が立派な国際会議を企画して我々を招待してくださったので感謝して参加しました。

話題提供として Innovative & Sustainable cities というお題を設定されましたので、この目標を達成するための人材育成という観点で Professional Competencies(PC)および Initial Professional Development(IPD)について発信しました。質疑では、各国の制度の差異を明確に把握していなかったためその場での議論は深まりませんでしたが、各国メンバーと課題意識を共有できたこと自体に価値があったと考えています。

Tech visit では一帯一路の重要プロジェクトで知られるグレーターベイエリア構想の中核となる西九龍駅の見学がありました。昨年開通して既に多くの旅客で賑わっている状況です。香港は大陸と制度が異なるために駅の中に Immigration が設けられていることは印象的でした。また、参加メンバーにはマカオ在住ながら香港大学に通学中という学生がおり、日常生活で国境を超える生活をしているとのことでした。彼は広東語がベースでしたが、マカオではポルトガル語圏の国家間で繋がりがと英語で教えてもらい、まさに世界の多様性を再認識した次第です。

会議を実施した香港理工大学での集合写真はドローン空撮でした。中国のシリコンバレーと言われる深センの世界最大手ドローンメーカー-DJI 創業者は近くの香港科技大学出身ということで、皆さんドローンには馴染みがあるようでした。香港は以前から先進的な地域ですが、西九龍地区の再開発、ドローンを活用した技術革新などを強みとする成長戦略によって次代を拓くという上昇志向を目の当たりにした次第です。香港の姉妹都市と呼ばれる Singapore のメンバーとのディスカッションでは、東京はもっと大きいのに、本当に 3500 万人もいるのかという投げかけがありました。日本はもっと影響力があるはずなのに実感できないのは何故と疑問をぶつけてくれたのでした。これは日本技術士会にとっても課題としたいため、ここに記します。

今回の渡航成果は2点あったと考えています。

1. 日本技術士会として、IPD の議論を各国技術士会に対して発信したこと。
2. 青年技術士交流委員会として国際交流を活性化したこと。

今後とも会の代表を名乗って参加しているので、個人的成果でなく会員のための活動成果を追及したいと考えております。

<竹内>

今回の香港向流で非常に強く感じたのは、香港の技術士会は産官学が非常によく連携しているということである。香港の青年委員長が政府技官ということもあるかもしれないが、見学用コースとはいえ政府機関の施設を見学できることに驚いた。

会員数 5 万人（うち学生会員が 9 千人）と多く、日本より人口の少ない香港でなぜこれだけ多くの会員がいるのかと探ると、各大学で窓口を設置し学生のうちから会員になっていることが大きな要因と思われた。学生会員は技術士会からメンターのような形で技術者教育を受けることができるという。わが国では大学卒業後、企業内で技術者教育を受けることになる等のギャップがたびたび話題になるが、香港はこうにしてこのギャップを埋め、技術士（香港では工程士）登録の低年齢化、ひいては国力向上に寄与している。このような仕組みはそのまま日本で適用できるものではないが、メンターのような仕組みなど学べるところが多いのではないかと感じた。

今回 Technical Visit の場となった Diamond Hill や West Kowloon の開発プロジェクトは、香港内でも最も大きなプロジェクトであり、これらの見学（現場見学含む）をコーディネートできる組織力には驚かされるばかりであった。

今回パネルディスカッションに参加したが、香港の学生にとって日本は技術を学びたい国などではなく「観光でよく行く国」になっていたことに驚き、かつ技術者としては危機感を覚えた。今回の明山委員補佐の鉄道インフラに関するプレゼンや、白井副委員長の IPD/CPD への取り組みについての紹介は参加者の興味を引き、日本のプレゼンスを向上させた。自ら発信していくことでより質の高い交流が可能となることが今回実感できた。

今後の青年委員会での国際交流では、可能な限り発信していくことで質の高い交流を行い、日本のプレゼンスを強化することを目指したい。

また、研修委員会傘下の実行委員会での研修事業として、CAFEO/YEAFEO（技術士会会員含む一般参加者と参加）における成果である CPD 課題（国際交流）の取り組みを推進するため、このような CAFEO/YEAFEO にかかわる国際交流には積極的に参加しプレゼンスを強化していきたい。

<明山>

今回初めて海外大学の大勢学生の前でプレゼンするという貴重な経験を得ることができた。当日は緊張し動揺が隠せない状況であったが無事終わることができた。このような経験は滅多にできることはなく大変刺激になり、今後はこの経験を活かして、国際交流をより推進するために英語力およびプレゼン能力を高め、海外でも堂々とプレゼンできるようなスキルを身に付けていきたい。

各国との交流では、日本に興味を示すメンバーもあり、海外技術者と直接コミュニケーションをとる機会を多くもつことができたことは大変貴重な経験であった。メンバーの約半数以上は過去に参加した CAFEO/YAFEO(アセアン技術者会議)で面識があり、フレンドリーに意見交換することができた。参加した国の中には、日本のように水道水が飲めるようなプロジェクトを推進していたり、貧しい小学校への教育支援をしていたり等、日本にはない社会貢献活動をしている状況も知ることができ、視野を拡大できた。技術者教育においては、国によって方法の差はあるものの、比較的若い年齢層(特に学生)から技術者の養成を実施する制度や学生同士の組織(学生支部)を確立している国が多い印象を受けた。そのため、技術立国と呼ばれる日本にも同様な制度や組織があってもよいのではないかと感じる。(毎回参加する若手技術者会議では、海外若手メンバーのほうが年齢層低めの印象。) また今回参加した海外技術者はインフラ関係の専門の方が多く、テクノツアーや現地技術者の話から積極的に建築・土木の技術を取り込もうとする姿勢を直に感じられ、大変刺激になった。

このようなイベントに参加し直接海外技術者と交流することは、普段仕事では実現できないため、大変貴重な機会である。今後も積極的に国際交流活動を継続していき、2 国間交流の推進を行っていきたい。

以上

サッカー 活動報告書

行事名	統括本部サッカー練習会とテクノツーリズム
日時	■サッカー練習会: 2018 年 6 月 2 日(土) 16:00~18:00 ■交流会: 2018 年 6 月 2 日(土) 19:30~21:30 ■講演会(テクノツーリズム): 2018 年 6 月 3 日(日) 9:30~12:00
場所	■サッカー練習会: 江戸川区江戸川河川敷グラウンド ■交流会: うおつけい！！瑞江店 ■講演会(テクノツーリズム): 東部フレンドホール 集会室第 2
講師、発表者	■①「データサイエンス(回帰分析について)」 佐藤泰秀氏(技術士(機械)) ■②「ソフトウェアの作り方」 高橋義也氏(修習技術者(情報工学))
担当者: (○印:リーダー)	○鈴木、後藤、清水、高橋(記)
参加者数	■サッカー練習会: 統括本部23名、北陸本部4名、見学者4名 ■交流会: 統括本部18名、北陸本部6名 ■テクノツーリズム: 統括本部5名、北陸本部6名

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007 年 12 月)」では、各地方本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、統括本部と北陸本部の合同サッカー練習会とテクノツーリズムを開催した。

2. 例会内容

■サッカー練習 16:00~18:00

今回はグラウンドを確保している一般チームと共に試合形式で練習を行った。主な内容は以下の通りである。

・準備運動、ミニゲームでウォーミングアップ

・統括本部と北陸本部の合同で 2 チームと一般チーム 1 チームの総当たりによる試合形式の練習

■交流会 19:30~21:30

・北陸本部と統括本部で交流会を実施

■テクノツーリズム 9:30~12:00

・「データサイエンス(回帰分析について)」(佐藤泰秀氏:技術士)の講演

・「ソフトウェアの作り方」(高橋義也氏:修習技術者)の講演

3. 成果と所感

サッカー練習会は毎回グラウンドの確保が大変であるため、今回は初めての試みとしてすでにグラウンドを確保している一般チームに対戦を申し込んでの練習会を開催した。グラウンドの確保について相手チームの都合によるが一般チームが遅れて到着した以外は特に大きな問題は発生しなかった。また終了後に一般チームから練習試合を行いたい旨の連絡を頂いた。今後、一般チームとの練習を開催することで問題が発生しなければ、グラウンドを確保しているチームとの練習試合も検討していきたいと考えている。サッカー練習後の交流会では、統括本部と北陸本部の参加と和気あいあいと歓談し、更なる交流を深めることができたと感じた。翌日のテクノツーリズムでは佐藤泰秀技術士より「データサイエンス(回帰分析について)」と高橋義也修習技術者より「ソフトウェアの作り方」の 2 講演を行った。「データサイエンス(回帰分析について)」では、ビッグデータや IoT、AI の基礎となる回帰分析の考え方から AI の機械学習、特に画像認識の基礎的な処理はとても興味深い講演であった。顔認証等に代表されるような画像認識は、2020 年の東京オリンピックでも活躍が期待されるため、これからのますます発展していくと考えられる。また、「ソフトウェアの作り方」では、アルゴリズムではなく利用者の求めるべきソフトウェアを如何に引き出し、目的に合ったものを作るか、そのツールとしての UML の一部(ユースケース図、ユースケースシナリオ)の利用方法についての講演であった。ソフトウェア開発の専門家とそれを利用する利用者の間は、大きな隔たりがあるが、利用者に分かりやすい共通の言語を使用することで両社の間で齟齬のないソフトウェアを開発できると感じた。

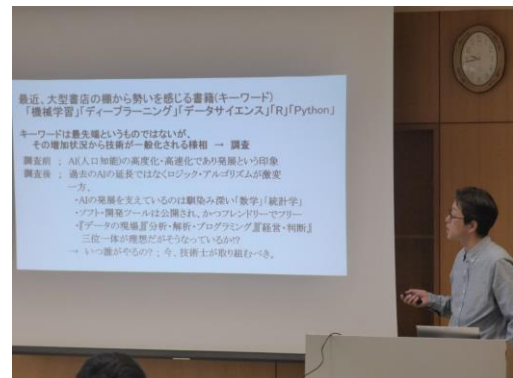
4. 今後の展開

- ・2018 年 9 月 1 日または 8 日 北陸本部との合同練習会(新潟・予定)
- ・2018 年 10 月 日韓親善サッカー大会(神戸)

5. 写真



サッカー集合写真



テクノ講義①



テクノ講義②



テクノ集合写真

以上

行事名	統括本部・北陸本部サッカー練習会及びテクノツーリズム
日時	■サッカー練習会: 2018 年 9 月 1 日(土) 13:00~16:30 ■交流会: 2018 年 9 月 1 日(土) 19:00~21:00 ■テクノツーリズム: 2018 年 9 月 2 日(日) 9:30~11:50
場所	■サッカー練習会: 潟東サルビアサッカー場 (人工芝) ■交流会: 炭火焼 HIKARI (新潟駅近く) ■テクノツーリズム: 石油の里公園 (新津油田跡)
講師、発表者	■中島様、高橋様、中野様 (石油の世界館友の会)
担当者: (○印:リーダー)	○鈴木(記)、高橋、後藤、清水
参加者数	■サッカー練習会: 37名(統括本部19名) ■交流会: 23名(統括本部17名) ■テクノツーリズム: 13名(統括本部:9名)

※子供は除く

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007 年 12 月)」では、各地域本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。

今回は、10 月に神戸で開催される日韓技術士国際会議で行われる親善試合に向けて、北陸本部を中心としてサッカーの合同練習会とテクノツーリズムを開催していただき統括本部から参加した。

2. 実施内容

■サッカー練習会 13:00~16:30

【スケジュール】

13:00~13:40 会場設営、ウォーミングアップ

13:50~14:30 地域戦 統括本部チーム vs 北陸本部チーム

・15 分ハーフ 結果 0 - 0

14:40~15:30 日韓戦出場メンバー → セットプレーの練習

・ポストシュート練習

・コーナーキック練習

その他メンバー → ミニゲーム

15:40~16:10 壮行試合 日韓戦出場メンバー vs 残りメンバー

・20 分 1 本 結果 0 - 0

■交流会 19:00~21:00

・統括本部、北陸本部、練習会参加者で交流会を実施

■テクノツーリズム 9:30~11:50

～ 石油産業の盛衰を知る (新津油田) ～

【内容】新潟市秋葉区にある石油の里公園で、国内最大の石油を生産した新津油田について学ぶ

<https://www.city.niigata.lg.jp/akiha/about/kankou/oil/kouen.html>

【スケジュール】

9:30~9:50 「新津油田金津鉱場」の概略史について説明 (中島様:石油の世界館友の会)

9:50~11:00 石油産業遺産の見学 (中野様:石油の世界館友の会)

11:00~11:50 オイルサンド・地層の観察と解説 (高橋様:石油の世界館友の会)

【概要】

新津油田は明治から大正時代にかけて日本一の産油量をほこり、1996 年(平成 8 年)まで原油をくみ上げていた。2007 年 5 月に新津油田跡が「日本の地質百選」に認定。金津地域には、石油採掘に使われた産業遺産が数多く残っている。2007 年 11 月に金津油田の産業遺産が経済産業省の「近代化産業遺産群」に認定。ロマンの遊歩道沿いの崖には、石油を含む約 500 万年まえの地層を観察することができる。

- ・「新津油田金津鉱場跡」が史跡として優れている処
 1. 採油井戸・パイプライン・油水分離タンク・原油処理・原油の出荷施設が、当時の石油生産のシステム全体が現存していること
 2. さらに「オイルサンド」や「アスファルト」の「自然遺産」と一体になって存在していること
- ・「新津油田金津鉱場跡」が史跡指定への流れができた理由
 1. 「帝国石油(株)」の撤退時に、金津鉱区の委譲を受け、中野重孝氏が「丸泉石油興産」を設立し、細々ながら重質油の採油を続けたこと
 2. 「丸泉石油興産」が生産を停止する前に、新津市が「石油の里」整備事業を行ったこと
 3. 新津市が「石油文化遺産公園整備事業」で産業遺産が集中する地域を公有地化したこと
 4. その「3点セット」の上に乗って、新潟市が「国指定の文化財」認定を目指して「石油関連文化遺産総合調査事業」を実施し、国に働きかけたこと

3. 成果と所感

今回のサッカー練習会は、10月に神戸で行われる日韓親善サッカーの壮行練習会であった。統括本部からは19名(うち近畿から2名、中部から1名の参加者を含む)の参加があった。当日は台風の影響で天候がよくないことが予想され、直前に北陸本部で雨天でもプレーが可能な人工芝のグラウンドに変更していただいた。結果的には大きく天候が崩れることはなく練習会は実施された。今回の練習会では、試合形式だけではなく、ポストシュートやセットプレーなど、普段できない練習を行うことができた。長いボールを蹴る、ボールを止めるといった基本的なことは試合形式だけでは意識できないことがあるので、セットプレーでの選手間の意思疎通も含め有意義であった。試合形式の練習では、出場予定の選手が全員集まったわけではないが、ポジションの確認を行うことができ、イメージの共有ができたのではないと思う。また、大きな怪我や事故もなく、無事に終了することができ、皆様の協力によるものだと感謝しています。その後の交流会では参加者同士で和気あいあいと歓談し、更なる交流を深めることができたと感じた。

次の日に実施されたテクノツーリズムでは明治から平成8年まで原油をくみ上げられていたという新津油田跡の見学を行った。この油田跡は、部分的ではなくシステム全体が現存しているという。座学だけではなく、実際に現存している井戸跡や駆動源跡など、山に登りながら見学させていただいた。個人的に興味を持ったのは、油の井戸のポンプの駆動源として1台のポンピングパワーで最大55個の井戸の油を汲み上げていたという各井戸に動力を伝える仕組みや山に張り巡らされたワイヤーなど興味深く見学させていただいた。また、実際に油がしみだしている地層について解説していただいた。初めて観て触れることができた大変貴重な体験をさせていただくことができた。

このような準備をしていただいた北陸本部の方には大変感謝しています。ありがとうございました。10月17日には日韓親善サッカー大会が開催されるので、韓国の若手技術者との交流を深め、怪我なく無事に試合をして、良い結果を持って帰りたいと思う。

4. 今後の展開

- ・2018年10月17日 日韓親善サッカー大会(神戸)
- ・2018年11月後半～1月 日韓親善サッカーお疲れ練習会(統括・予定)

5. 写真

■サッカー練習会





■交流会



■テクノツーリズム



以上

行事名	第 14 回 日韓親善サッカー大会(第 48 回日韓技術士国際会議 兵庫・神戸)
日時	■日韓親善サッカー:2018 年 10 月 17 日(水)14:00~17:00 ■前夜祭、サッカー交流会:2018 年 10 月 17 日(水)19:00~21:00 (日韓技術士国際会議:2018 年 10 月 18 日(木)~19 日(金))
場所	■日韓親善サッカー:神戸市立王子スポーツセンター 王子スタジアム ■前夜祭、サッカー交流会:ニューミュンヘン ハーフエンブルグ ■本会議:ホテルオークラ神戸
講師、発表者	
担当者: (○印:リーダー)	諸田敦洋、○鈴木利治、高橋義也、清水雄太、後藤洋之(記)
参加者数	23名

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007 年 12 月)」では、各地域本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。

日韓技術士国際会議は、日本・韓国で交互に開催をしており、第 48 回となる今年は神戸(ホテルオークラ神戸)での開催である。日韓親善サッカーと本会議へ参加し、韓国若手技術士や参加者との交流を深めると共に、技術士としての研鑽を目的として参加した。

2. 実施内容

2. 1. 日韓技術士親善サッカー大会(14:00~21:00)

- ・12:00~14:00 事前練習
- ・14:00~17:00 親善試合(本戦・フレンドリーマッチ)
- ・19:00~21:00 交流会

2. 2. 本会議(9:00~21:00)

- ・9:00~10:00 式典
- ・10:00~12:00 基調講演
- ・13:00~17:00 分科会
- ・18:30~21:00 晩餐会

3. 成果と所感

3. 1. 本戦・フレンドリーマッチを通じて

今年は神戸での開催であり、当日は 9 時より会場に入ることができたため、早めに会場に来れる人は午前中に入る等各自ウォーミングアップを行い、12 時より事前練習(パス・ドリブル・シュート練習等)を行った。韓国チームは 13 時半頃に会場に到着し、予定より到着が遅れることから試合開始時間を遅らせる可能性があったが、韓国チームより大丈夫との回答があり、ほぼ予定通りの時間に日韓親善サッカー大会が開催された。

今回は、レギュラーマッチを 25 分ハーフで行い、その間にフレンドリーマッチを 20 分行う方式での開催となった。順調な滑り出しで、互いに攻めたり守ったりの均衡した状態で試合が進んでいったが、前半残り 5 分位の所で、中盤でのボール奪取からのカウンターをくらい、韓国に先制点を許す形となった。その後攻め返すも得点には結び付かず、前半は韓国の 1 点リードで終了した。

20 分間のフレンドリーマッチでは、韓国側は本戦メンバーの大半が出場してきた。攻め手に勝る韓国がやや押し気味で試合は進んだが、互いに得点が無いまま 0-0 の引き分けで終了した。

本戦の後半は、韓国側の疲れが段々見え始め、徐々に日本チームの押し気味に試合を進めるようになり、相手のゴール前まで迫るシーンも増えていった。そして、遂に後半中盤で相手の DF の裏への抜け出しから得点が生まれ、1-1 の同点に追いつく。その後は韓国チームも反撃に出始め、均衡した状態が続く中、終了間際のチャンスから打ったシュートは僅かにゴールを外れてしまい、1-1 の引き分けで試合は終了した。引き分けの場合はアウェイチーム勝利のルールにより、残念ながら日本チームはあと一步のところまで負けという結果に終わり、昨年の雪辱を果たすことはできなかった。

敗北はしてしまったものの、今後に向けての課題は色々発見できたのではと感じている。韓国チームはフレンドリーマッチを含めると殆どの選手が 70 分間出場していることとなり、体力の違いが明らかで、フィジカルも強い選手が多い。毎週末に練習も行っているとのことで、組織力も日本チームより上であると感じた。来年は韓国(高陽市)での開催となりアウェイとなるが、各々の基礎体力作りや定期的な練習によりチーム力の強化を続けていく必要があると思った。

今回の開催にあたり、選手として参加された皆様、現地で応援して下さった皆様、声援を送っていただいた皆様、そしてご多忙の中準備を進めていただいた日韓委員、近畿本部の皆様に感謝を申し上げますと共に、来年こそはこの素晴らしい仲間達と勝利を分かち合うため、サッカーの交流を続けていくことが大切であると思う。

3. 2. その他

今回は、開催直前になって諸田委員長にフレンドリーマッチへの出場をお願いすることとなり(当初は試合観戦と前夜祭での乾杯の音頭のみを予定)、事前練習の際に肉離れを起こして試合に出場できなくなるトラブルがあった。

日韓サッカーにおける青年委員会の位置付けについては、これまでの経緯を踏まえた上で、再確認が必要であると思われる。また青年委員会内でのサッカーの位置付けについても曖昧な部分があり、今後のことも見据えて考えていく必要があると感じた。今回の教訓も踏まえ、サッカー・フットサルを継承していくため、「タスクのリスト化」を行いたい考えである。

また今回、事前練習での球拾いを本技術士会の会長が行っていたことに気付かなかったメンバーが多数いたため、気を付けたい。

4. 今後の展開

・2018 年 12 月 1 日～2 日 日韓サッカーお疲れ会(統括)

5. 写真



セレモニー①



セレモニー②



親善試合①



親善試合②



サッカー交流会



日韓技術士国際会議



晩餐会①



晩餐会②

以上

行事名	日韓サッカーお疲れ練習会
日時	■フットサル :2018 年 12 月 1 日(土) 15:30~17:30 ■交流会 :2018 年 12 月 1 日(土) 19:30~21:30 ■テクノ :2018 年 12 月 2 日(日) 10:00~12:00
場所	■フットサル :すこやかプラザ 体育館(東武練馬) ■交流会 :北の味紀行と地酒 北海道 池袋南口テアトル店 ■テクノ :すこやかプラザ 会議室
講師、発表者	■「津波に関する話題」 後藤委員(技術士/水産部門) 「Let's try photography」 清水委員補佐(修習技術者/化学部門)
担当者: (○印:リーダー)	○鈴木利治、高橋義也、後藤洋之、清水雄太(記)
参加者数	■フットサル :27名(統括10名、北陸8名、近畿1名、その他8名) ■交流会 :17名(統括8名、北陸8名、近畿1名) ■テクノ :14名(統括7名、北陸6名、近畿1名)

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007 年 12 月)」では、各地域本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、2018 年 10 月に神戸で開催された日韓親善サッカー大会のお疲れ会練習会として、統括本部主催のサッカー合同練習会を企画した。

2. 例会内容

■フットサル

- ・15:30~17:30 全員を 5 つのチームに分け、1 ゲーム 10 分でリーグ戦を実施。
その後、チーム替えをし、4 つのチームに分け、1 ゲーム 10 分でリーグ戦を実施。

■交流会

- ・19:30~21:30 日韓サッカー参加者、北陸本部の参加者、練習会の参加者で交流会を実施。

■テクノ

- ・10:00~12:00

後藤委員より「津波に関する話題」の講演をした。

3・11 を契機にした防災への考え方の変化や、災害に対する日頃の備えについて等を解説があった。また、子供にもわかりやすい解説で、大変好評であった。

清水委員補佐より「Let's try photography」を実施した。

マニュアルモードの設定を変えることで、目的に合わせた写真の撮り方を学ぶ事ができた

3. 成果と所感

終始、怪我もなく和やかな雰囲気の中、試合をすることができた。

今回のフットサルでは、年末の忙しい時期でありながら、北陸本部から多くの参加者が駆けつけていただいたほか、統括本部オブザーバの吉浦氏や近畿本部の竹市氏にも参加していただき、大きな会とすることができた。また、家族連れで参加したいという初参加の方や、高橋委員補佐が所属するフットサルチーム等からもゲスト参加があり、大いに盛り上がった。

また、テクノでは統括本部にて過去に行った例会内容をブラッシュアップしたものをを行った。テーマについてはそのままでありながら、子供に対しても理解できるよう解説方法を配慮したことにより、より参加者の理解度が高くなる内容となった。

次回の日韓技術士国際会議における青年層のより一層深い交流のために練習を重ね、アウェイでも良い試合展開ができるよう準備を進めていきたい。

4. 今後の展開

今後のサッカー活動の予定としては以下の通りである。

- ・2019 年 3 月 9-10 日 合同サッカー練習会(新潟)
- ・2019 年 6 月 統括本部サッカー練習会(予定)
- ・2019 年 8 月 日韓サッカー強化練習会(予定)
- ・2019 年 10 月 日韓親善サッカー大会(高陽)

5. 写真

■フットサル



■テクノ



以上

行事名	北陸本部サッカー合同練習会
日時	■フットサル :2019年3月9日(土) 9:00~11:00 :2019年3月10日(日) 11:00~13:00 ■テクノ :2017年3月9日(土) 14:00~17:00 ■交流会 :2017年3月9日(土) 19:00~22:00
場所	■フットサル :スポーツパーク西川(3/9)、みどりの森運動公園(3/10) ■テクノ :朱鷺メッセ(新潟酒の陣 2017) ■交流会 :カフェ&グリル みのりみのる
講師、発表者	■なし
担当者: (○印:リーダー)	○鈴木(記)、高橋、清水、後藤(業務のため当日欠席)
参加者数	■フットサル :3/9 統括本部11名、北陸本部10名位 3/10 統括本部10名 北陸本部10名位 ■テクノ :統括本部10名程度 ■交流会 :統括本部13名、北陸本部5名位

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、各地方本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、北陸本部で開催されたサッカー練習会に参加した。

2. 例会内容

- フットサル 3/9 :9:00~11:00、3/10 :11:00~13:00
 - ・ランニング、準備運動、リフティングでウォーミングアップ
 - ・北陸本部と統括本部の混成で3チーム分けて試合形式で練習
- テクノ 3/9:14:00~17:00
 - ・新潟酒の陣 2019に参加してマーケティングについて考察
- 交流会 18:00~22:00
 - ・北陸本部との交流会

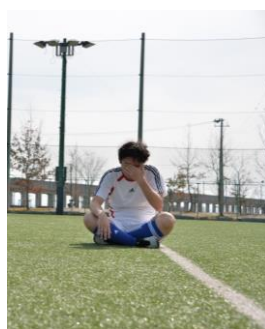
3. 成果と所感

今回は、9日、10日と二日にわたりフットサルの練習会を北陸本部の方に企画していただいた。統括本部からは、早朝の集合に関わらず、初参加の方も含め10名もの参加者があった。サッカーは技術士ではない方も参加されることもあり、その中で技術士をアピールすることもできる。日韓サッカーは全国で募集を行うため、このように遠征して北陸本部の皆さんとサッカー、テクノ、交流会と交流できたことは、今後に向けての大きな糧になったと感じた。

4. 今後の展開

- ・2019年5月~6月 統括本部サッカー練習会とテクノ(予定)
- ・2019年8月~9月 北陸本部サッカー合同練習会(予定)
- ・2019年10月 日韓親善サッカー大会(韓国・高陽)
- ・2019年12月 日韓親善サッカーお疲れ練習会(統括・予定)

5. 写真



以上

地域本部 活動報告書

統括本部活動報告

2019年6月15日

統括本部 青年技術士交流委員会
委員 竹内将人

メンバーのご紹介



- 幅広い年齢層（20代～40代までまんべんなく）
- 7名の女性に参画いただいている！（男女共同参画）
- 様々な技術部門（16部門：網羅率は7割超！）

メンバーのご紹介

● は、女性の委員・委員補佐が所属している部門

機械	船舶・海洋	航空・宇宙
電気電子	化学 ●	繊維 ●
金属 ●	資源工学	建設
上下水道 ●	衛生工学	農業
森林	水産 ●	経営工学 ●
情報工学	応用理学	生物工学 ●
環境	原子力・放射線	総合技術監理 ●

- 2 -

活動報告 2018年度

年月	イベント
2018年7月	・ Dreams PJ「 光の不思議 - 顕微鏡を作ろう - 」⇒台風により3月に延期
2018年8月	・ 例会決め大会 ・ 「 インフラガイドツアー 」 → 建設部会、日本大学とのコラボ！
2018年9月	「 防災の日！防災を学んで大災害に備えよう 」
2018年10月	・ 内部向け企画「 例会振り返り 」 ・ 日韓サッカー @神戸 → 国際交流
2018年11月	・ 「 ディベートで学ぶ、話し合いの技術！ 」 ・ 全国大会@福島 ・ CAFE0/YEAFE0 @シンガポール → 国際交流
2018年12月	・ 「 会議のコツ ～働き方改革の決定版～ 」
2019年1月	・ 英語企画「 Let's talk in English! Lets's Interact!! 」、CAFE0報告
2019年2月	・ 「 修習ガイダンス2019 」 →技術士第一次試験合格者、JABEE修了者向け ・ 臨時例会「 少年よ大志を抱け！若手技術コンサルタント開拓セミナー 」
2019年3月	・ 「 ライフラインから仲間と創る自分のロードマップ（再） 」 →修習技術者向けイベント

- 3 -

活動報告 2019年度

年月	イベント
2019年4月	・「一次・二次試験合格者交流会」 →技術士第一次・二次試験合格者交流会 ・香港技術士会International Exchange Forum参加 → 国際交流
★ 2019年5月	・「技術者のためのコミュニケーション講座」 →ワークショップCSI別コーチング、DESC法、交流分析を学び実践 ・臨時例会「福島原発事故から考えるリスクコミュニケーション」 ⇒保険物理学会若手の会とコラボ、WEC2019@メルボルンへ投稿・発表
2019年6月	拡大委員会&テクノ ← NOW!
2019年7月	小学生向け夏休み理科教室・工作実験
2019年8月	部門横断企画、家族向け企画（仮）建設系テクノ → 建設部会とコラボ
2019年9月	外部向け画、自己紹介企画
2019年10月	部門横断企画

この1年間は、新しい試みや国際交流が多く、
青年らしいチャレンジングな姿勢が鮮明に！

- 4 -

活動報告 2018年度



活動報告

2018年度,2019年度



2019年3月
Dreams



2019年4月
合格者交流会



2019年4月
香港国際交流



2019年5月
リスクコミュニケーション



2019年5月
コミュニケーション講座

次期の統括本部体制

2019年7月～ は、以下の体制で推進していきます。

役割	氏名（敬称略）	役割	氏名（敬称略）
委員長	竹内 将人	委員	臼井 朗
副委員長	後藤 洋之	委員	井口 慧士
副委員長	守田 哲	委員	高木 真人
副委員長	田中 仁美	委員	大園 剣吾
副委員長	河野 恭彦	委員	岩部 然育
会計	鈴木 利治	委員	吉浦 勝一郎
委員	田中 雅人	委員	佐藤 真紗美
委員	大田 望斗	委員	吉岡 麻里
委員	小塚 隆		

+頼りになる委員補佐の皆さん！

「第15期」2年目、前進 = 「より魅力ある青技交へ！」

大小含め、
年間17イベントを計画・実行！

取り組みの継承、見直し / 変化を恐れず新たな挑戦！！
約50名の幹事でWG体制の実行 / 若手幹事の活躍！

全イベントの報告

- ①本部主催の合格祝賀会(2次試験)⇒青年2次会(4/11)
- ②新合格者&U-35対象 ワークショップ(4/21)
- ③「技術士を知ろう！」@北海道科学大学(5/24)
- 拡大委員会@東京への参加(6/9-10)
- ④「技術士を知ろう！」@北海学園大学1年生(6/14)
- 北海道本部第53回年次大会参加(7/4)
- ⑤「技術士を知ろう！」@苫小牧高専(7/17)
- ⑥幹事+家族交流「夏合宿(キャンプ)」(7/28-29)
- ⑦テクニカルツアー@旭川(林産試験場ほか)(8/6)
- ⑧「技術士を知ろう！」@函館高専(8/9)
- ⑨講演会+WS「人とつながるしくみを学ぶ。
～技術士×コミュニティデザイン～」(8/30)
- ⑩「技術士を知ろう！」@札幌工業高校(10/10)
- ⑪「技術士を知ろう！」@北海学園大学3年生(10/12)
- 第48回日韓技術士国際会議(神戸)(10/17-19)
- 全国大会(青年イベント)@福島への参加(11/11-12)
- ⑫エンジョイサイエンス研究会とのコラボイベント
北広島緑が丘小学校での出前授業(11/17)
- ⑬「技術士を知ろう！小学校編」(12/6)
- ⑭「技術士を知ろう！」@秋田高専
地域交流企画 東北×北海道のコラボ(12/10)
- ⑮公開型講演会
「技術士による知的書評合戦 ビブリオバトル」(12/15)
- ⑯幹事交流イベント「技術交流」(1/19)
- ⑰本部主催の合格祝賀会(1次試験)⇒青年2次会(1/30)



▲新合格者&U-35対象ワークショップ



▲「技術士を知ろう！小学校編」



▲テクニカルツアー in旭川



▲講演会+WS



▲夏合宿(キャンプ)



▲公開講演会



▲「技術士を知ろう！」(上から)道科大、札幌工業高校、秋田高専(東北コラボ)



その実現へ向けた
事前打合せ・調整
= 幹事会&WG
計20回実施
※技術士を知ろうWGを除く

北海道本部) R1活動計画 & 既に記録も。

「第16期」の1年目、新体制始動！



委員長 : 平岡 城栄 (新任)
副委員長 : 中前 千佳 (継続)、西村 力哉 (継続)、
密山 彰浩 (新任)、藤井 貴弥 (新任)、
長内 克真 (継続)
幹事長 : 須田 徹央 (継続) 幹事 = 53名体制で始動！

研修会・ワークショップの開催

U-35 & 新合格者対象ワークショップ (H31/4/20 (土))



全イベントの計画 : R1=13イベントを予定

- ①本部主催の合格祝賀会(2次試験)⇒青年2次会(4/10)
- ②新合格者&U-35対象 ワークショップ(4/20)
- 「技術士を知ろう！」@北海学園大学1年生(5/30)
- ③エンジョイサイエンス研究会との交流会(5/31)
- 「広場活用プロジェクト」@北海道札幌工業高校(6/6)
- 「技術士を知ろう！」@北海道科学大学(6/6)
- 拡大委員会@東京への参加(6/15-16)
- 「技術士を知ろう！」@苫小牧高専(7/2)
- 北海道本部第54回年次大会(7/10)
- ④幹事+家族交流「夏合宿(キャンプ)」(7/末)
- ⑤テクニカルツアー(詳細未定)(8/上)
- 「技術士を知ろう！」@函館高専(8/6)
- ⑥道南技術士委員会とのコラボイベント(8/6)
- ⑦講演会「(仮)働き方改革徹底討論」(8/下)
- ⑧青技交30周年記念イベント(9/8-9)
- 全国大会(青年イベント)@徳島への参加(10/4-6)
- 「技術士を知ろう！」@札幌工業高校(10/中)
- 「技術士を知ろう！」@北海学園大学3年生(10/下)
- 第49回日韓技術士国際会議(韓国・高陽)(10/24-26)
- ⑨エンジョイサイエンス研究会とのコラボイベント(11/中)
- ⑩公開型講演会「(未定)」(12/上)
- 「技術士を知ろう！」@秋田高専(12/中)
- ⑪幹事交流イベント「技術交流・冬合宿」(12/中)
- ⑫技術士を知ろう！小学生編(1/中)
- ⑬本部主催の合格祝賀会(1次試験)⇒青年2次会(1/下)

「技術士を知ろう！」⇒今年もミライ研との共催で実施！

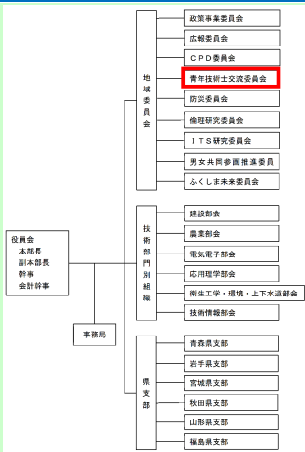


公益社団法人日本技術士会
北海道本部 社会活動委員会
技術者のミライ研究委員会

代表 : 小澤 正志
幹事長 : 木本 光則
幹事 : 千葉裕ほか、計17名

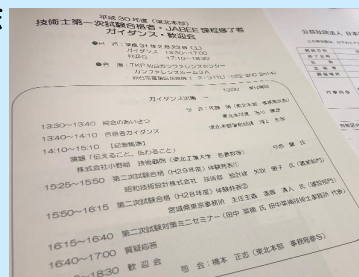


組織



合格者祝賀会

技術士一次試験合格者・JABEE課程修了者
ガイダンス・歓迎会
H31.2.23(土)



定例幹事会

毎月1回 水曜日18:00～ 開催

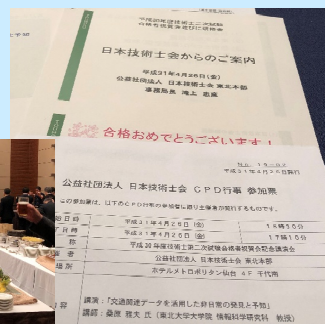
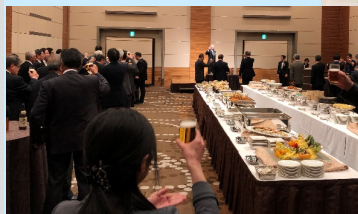


議題討議
話題提供

会場の提供は各
社持ち回りで



技術士二次試験合格者祝賀会記念講演会
H31.4.26(金)



技術士会への入会・青年会への勧誘も兼ねて

全国大会



ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

参加者62名

第45回 技術士全国大会 in 福島
青年交流イベント案内 2018年11月10日～12日
公益社団法人 日本技術士会 東北本部 青年技術士交流委員会

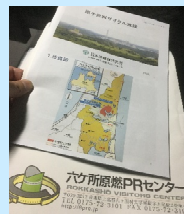


コラボ企画1

慶応技術士会・青年統括に同行

六ヶ所原燃PRセンター

燃料サイクル
の実物を見学
徹底した
リスク管理
安全対策



10月26日(金)

六ヶ所原燃PRセンター
見学記念 平成30年10月26日

コラボ企画2

北海道青年とのコラボ企画
【学校へ行こう】

秋田高専
環境都市工学課

12月10(月)



今後の活動

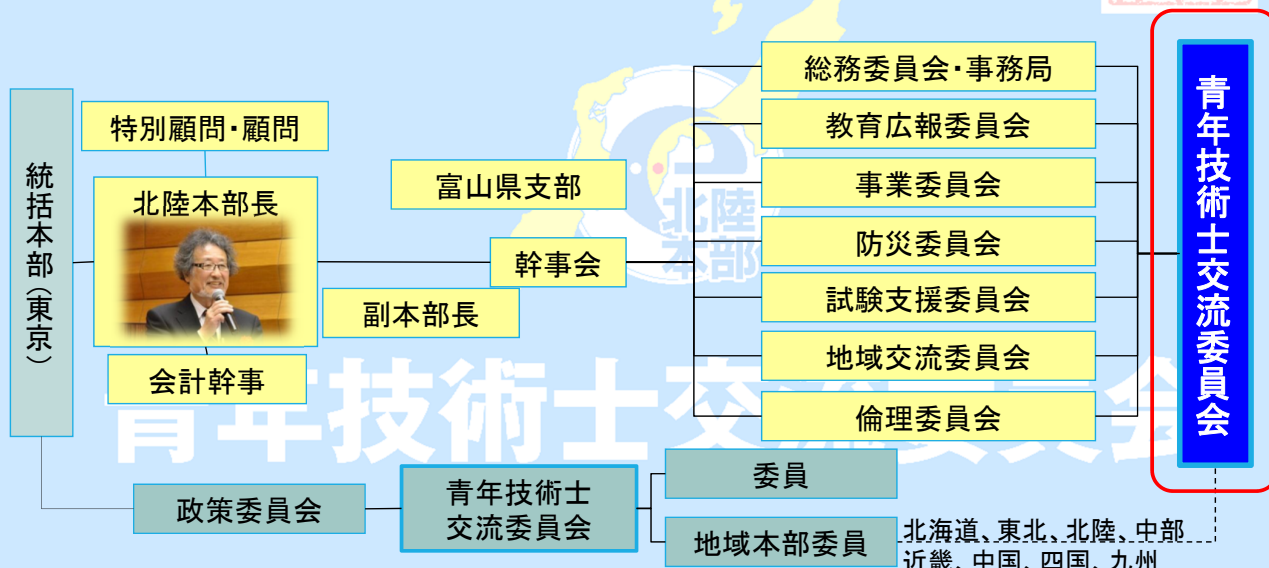
若手技術士向けCPD行事
技術研鑽の充実
JABEE広報活動
東北他県との交流
などなど

全国大会（徳島）楽しみにしています！



【北陸本部における青年技術士交流委員会】 福井・石川・富山・新潟の4県で構成

技術士
仲間を
作ろう!



公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

青年委員会の目標と方針

技術士
仲間を
作ろう!

【目標】 地域の科学技術に関する実践的な知識集団の一員として、日々進展する科学技術を、青年技術士という立場から各分野での業務等を通じて社会に具現化することで、「持続的な地域の発展と人々の幸福に貢献する」

【方針】 勉強会、現地学習会、講演会などをおして、若手技術者の技術力の向上と、それに伴う意識向上をつねに心がけさせ、「技術者全体の資質向上を図る」

公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

平成は終わりました。。。
平成に始まった北陸の
青年技術士交流委員会。

歴代の青年委員長
名前を挙げてみると、

- 初代 土田
- 二代目 堀田
- 三代目 齋藤
- 四代目 大塚
- 五代目 坂東
- 六代目 大高
- 七代目 小酒

そして、末広がりの八代目。

委員長

タカノ ヤスオ シンイオンショウ
高野 康夫 (新委員長！)



★

菱機工業株式会社
技術士
衛生工学（空調調和）

副委員長

シダ ケンタロ シンイオンショウ
石田 謙介 (新副委員長！)

★

株式会社 興和
技術士
建設・機械

ムササビ ケンタロ シンイオンショウ
村山 達也 (新副委員長！)

★

オムニ技研 株式会社
技術士
建設（土質及び基礎）

サカモト フミ子 シンイオンショウ
多田 照代 (副委員長)

★

株式会社北陸環境科学研究所
技術士
建設・環境・農業

委員

シダ ケンタロ (委員)	ムササビ ケンタロ (委員)	サカモト フミ子 (委員)	シダ ケンタロ (委員)	ムササビ ケンタロ (委員)	サカモト フミ子 (委員)
一物 上田環境科学センター 技術士 建設（環境衛生）	株式会社日本コンサルタント 技術士 建設（環境）	株式会社日立システム 技術士 建設（建設機械）	株式会社サンワコン 技術士 建設（都市及び地方計画）	株式会社日本コンサルタント 技術士 建設（建設機械）	株式会社日立システム 技術士 建設（建設機械）

★本日の出席者

オブザーバー、卒業メンバー

★



日本技術士会
Professional Engineers, Japan

北陸本部の主な活動

- ・拡大青年委員会議(夏)・・・5月～6月、北陸4県※今年は6/29、30福井！
- ・見学会(秋)・・・10月頃※今年はダム見学(予定)
- ・講演会(冬)・・・2月頃※未定
- ・全国交流・・・技術士全国大会(秋)
- ・スポーツ交流・・・年数回、
日韓技術士会議(秋)

青年技術士委員会 会議

年間6～10回程度(青年イベントの企画等)

委員会風景
※facebookより

Seinen HokurikuさんがMinoru Shimotoriさんの写真をシェアしました。

3月30日 12:44 - 拡

少々遅くなりましたが、何事もトライですね。
昨日の会議は、ドラマでした(苦笑)



Minoru Shimotori
3月29日 19:30 - Instagram - 公

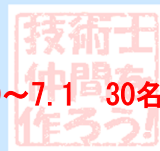
青年技術士交流委員会の会合。4月の有資格者懇談会、青年ウェルカムパーティーの計画を話し合う。

いいね！ コメントする シェアする

第13回拡大青年委員会議(石川)

お互いの技術を知ろう！
技術発表会！ & テクノツーリズム

(H30. 6. 30～7. 1 30名)



技術発表会

平成30年度技術発表会プログラム

- ①こんな業務やってます (株) 新日本コンサルタント 荒井氏
- ②私の引越し履歴 (株) 興和 石田氏
- ③同朋の里と森の中の映画館 浄土真宗親鸞会 花井氏
- ④A Iによる橋梁の健全度診断 (株) 日本海コンサルタント 塩土氏
- ⑤地方からの国際交流活動 (株) NTTドコモ 北元氏



テクノツーリズム (東茶屋街裏通)

テクノツーリズム

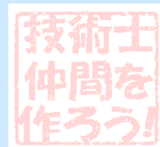
「クリエイティブ・ツーリズム」～ディープな金沢を知ろう～

- ・金沢市内文化建築見学 (法政大学 水野教授)
- ・金沢市内アトリエ見学 (金沢美術工芸大学 坂本教授)

公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

見学会

いま見たいところへ



高速道路管制センター※H29

H30 新潟の文化を支える舞台裏

H29 情報システムと危機管理対策

H28 新しい日本酒文化の発信

H26 地域のエネルギー・天然ガス



りゅーとぴあ※H30



菊水酒造(株)※H28



公益社団法人 日本技術士会
東邦アーステック(株)※H26

※H27は全国大会@富山で開催なし

講演会

いま聞いてみたいことを

技術士
仲間を
作ろう!



H29年度 講演会

- H30 農業イノベーションと地域の取組
- H29 活力を生む経営企画・イベント・製品の取組
- H28 新しいお米ブランド～新之助～
- H27 新たな交通機構が目指す地域・人・交通の未来



H27年度 講演会



H28年度 新之助講演会



新之助試食中



公益社団法人 H30年度 講演会
The Institution of Professional Engineers, Japan

社会貢献

いまこそ若い力を

活動3年目

建設関連産業マンパワーアップ小委員会

委員長 新潟大学 大竹雄 准教授

- 講演① H29.1.13 パネルディスカッション(学生も参加)
- 講演② H29.3.4 i-construction
- 講演③ H29.10.6 女性・若手で考える建設関連産業の未来
※講演会終了後に若手・女性だけの交流会を実施
- 講演④ H31.1.18 女性・若手で考える建設関連産業の未来の集い2018
※120名のうち、半分以上が女性の参加者
- 見学会 H30.10.31 学生向けインフラツーリズム(新潟港湾施設めぐり)
※学生約50名を集めて開催

技術士
仲間を
作ろう!



H29.1.13 ディスカッション



H29.10.6, H31.1.18 講演会&交流会



公益社団法人 技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

ウェルカムパーティー！

新しい仲間と



名物・オムライス

他に倣って、
毎年4月開催！



以上、北陸本部は他ほど
活動的ではありませんが、

技術士
仲間を
作ろう！

「北陸らしさ」をモットー

青年技術士交流委員会
に活動しております。

終わり

公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

2018年度 中部本部 活動報告

公益社団法人 日本技術士会中部本部
青年技術士交流委員会
<http://chubu-ipej.sakura.ne.jp/seinen/>



4月例会【STとの合同セミナー】



年次総会・6月例会



8月勉強会【中部経営コラボ】



9月例会【中部CPD委員会コラボ】



11月例会(IoT/AIを飲みながら語る)



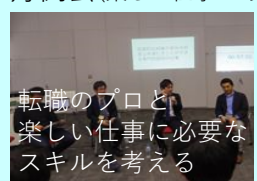
青年忘年会



青年新年会 in Gifu

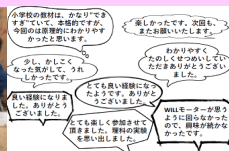


3月例会(楽しい仕事にありつくためには)



理科イベント

【中部理科支援
小委員会コラボ】



2018年度は、
4回のコラボ例会と
5回の交流例会を開催

2018年度 中部本部 活動報告

公益社団法人 日本技術士会中部本部
青年技術士交流委員会
<http://chubu-ipej.sakura.ne.jp/seinen/>



2019年度（令和元年度）の活動体制（11名＋補佐4名＋運営4名）

役割	特命	氏名	変更点
委員長		石川 智康 (11代)	再任(3期目)
副委員長	全国大会L	嘉田 善仁 (次期)	再任
副委員長	新企画開拓L	成田 尚宣	再任
委員	例会活性L	小塚 俊吾	任期2年目
委員		加藤 潤哉	任期2年目
委員		中迎 誠	任期2年目
委員		平野 健二郎	任期2年目
委員		三島 孝朗	再任
委員		青山 尚弘	任期2年目
委員		初谷 昇太郎	再任
委員		高瀬 春之 (10代)	再任
委員補佐		小島 茂樹	再任
委員補佐		奥村 康	再任
委員補佐		藤田 政利	再任
委員補佐		秋山 幸之朗	再任
運営委員	例会活性Sub	中川 勝統	任期2年目
運営委員		木村 琢磨	任期2年目
運営委員		中島 丈晴	任期2年目

近畿本部青年技術士交流委員会 活動報告

2018年度委員

宮西 健次(委員長)
藤本 喜敏(副委員長)
小宮 洋行
杉浦 邦充
竹市 雄作
田中 慎
原口 宣明
坂東 大輔
藤内 洋
松山 賢五

サキトク×青年技術士
×ライフナビアカデミー

社会に出てから役に立つ知識・スキルを、
先んじて身につけたい学生さんに「管理技術」
を伝授するためのワークショップを実施。



リクルートキャリア×青年技術士交流委員会 ～現役世代技術者のためのキャリアプランセミナー～

プロのキャリアコンサルタントの方をお招きし、これからの技術者に求められる資質
について講演いただき、4名の技術士を加えて、エンジニアリングキャリアについて
討論を実施。

近畿本部青年技術士交流委員会 活動報告

中部&近畿 青年委員会合同見学会

遅くなりましたが5/19に実施
甲賀忍者の城跡と忍者屋敷をめぐるしました。



2019年度委員

藤内 洋 (委員長)
田中 慎(副委員長)
小宮 洋行
高岡 直樹
竹市 雄作
弦牧 篤
原口 宣明
坂東 大輔
藤本 喜敏
生浦 浩子

平成から令和へ；
委員長も交替し、
近畿本部青年委員会
はさらに攻めます！

新たに株式会社
ワークアカデミー
ともコラボ計画中！

大学生とのコラボを
さらに進めていく
予定！



近畿青年技術士懇談会 も盛大に活動中！

毎月1回の講演会中心の例会、
8月のファミリーツアー
のほか、ワークショップ形式の
例会も増やしていく予定。





平成30年度 中国本部 活動報告



中国本部
青年技術士交流委員会



活動方針 例会勉強会を柱とする 技術者間**交流** および 技術を通じた**社会貢献**により 会員の**成長**の機会を提供します。

現体制1年目 '17 **全国大会に全力投球！**

現体制2年目 '18 **本部内の体制固めに注力**

取り組み①：中国5県の交流

青年技術士 中国大会 in 鳥取

取り組み②：広島内部の活動充実

企画チームの導入

メンバー全員で
運営する会へ

- ・各チーム新しいことに挑戦
- ・会の枠を広げる活動にトライする
「新企画チーム」

開催月	平成30年度 活動内容
4月	【特別例会】'18年度活動内容決め
5月	【例会】1) 好きなことから発展させるインフラ運用 2) 「土砂災害防止法」について ～弊社での事例紹介～ 【新企画】青技交旅倶楽部「呉」
6月	【例会】リニアとMRJと共に技術を歩む
7月	【例会】災害時のジレンマを考える ～クロスロードゲーム体験～ 【新企画】社会貢献活動リハーサル&BBQ
8月	【若手CPD】記憶の解凍：情報デザインとデジタルアーカイブ ～コンテンツの英語化による文化コミュニケーションの創発～ 英会話教室【基礎編】/【実践編】 【例会】異文化感受性発達モデルについて ～人はどうやって異文化に適應するか～ 【社会貢献】感じる科学「色をかんじる」 【各県交流】青年技術士中国大会 in 米子
9月	【例会】IT時代における算盤教室
10月	【例会】ディベート企画「技術士は企業内で活動するより 独立した方がより活躍できる」是か非か 【交流】国際交流フェスティバル「ぺあせろべ」
11月	【例会】文化の秋を満喫しよう ～映画鑑賞会～
12月	【特別例会】徹底討論「プロジェクトチームを作ろう！」
1月	【例会】ベトナムの文化と最新情報の紹介 【新企画】リレーマラソン
2月	【交流】一次試験合格者祝賀会 【例会】自分流パターン・ランゲージを創る 【新企画】滝行
3月	【例会】"IoT" ～その背景と活用に向けて～



平成30年度 中国本部 活動報告



中国本部
青年技術士交流委員会



青年中国大会 in 鳥取

鳥取・島根・岡山・山口・広島
中国5県の各県本支部・県技術士会で
活動中の青年技術士が鳥取に集結



例会・懇親会

英語講演会(若手CPD)



12月例会 ワークショップ+討論会



5月例会 新メンバーによる技術発表





社会貢献活動（理科教室）

尾道特別支援学校「感じる科学」



色をかんじる



新企画・交流

滝行＋宮島ゆる旅ツアー



ご来広ありがとうございました！

青技交旅倶楽部

リレーマラソン



呉ミニツアー

疲れた。。。

国際交流フェスティバル「ペあせろべ」



広島ベトナム協会の皆さんとの交流がスタート。
新年度も新委員長の下新しいことにトライします！

【H30年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

★活動目的

四国地域における若手技術士を中心とする技術者ネットワークを構築し、会員相互の能力向上を果たすとともに、技術士としての職能を地域社会に幅広く浸透させ、技術士の地位向上を果たすことを目的とした活動を行う。

★活動方針

- 【方針1】 青年技術士として幅広い能力向上を図る
- 【方針2】 四国地域の青年技術士相互の交流を図る
- 【方針3】 青年技術士として地域との交流を通じ社会貢献を図る

【活動方針1】青年技術士として幅広い能力向上を図る

四国四県の特徴を活かしたセミナー・見学会を持ち回りで開催
科学分野だけでなく地域の文化に触れる内容も実施
今回は6月29日(土)徳島

『遊休不動産を活用したリノベーションまちづくり(仮)』

●リスクアセスメントの必要性とその手法について
～ポットと生きてたらリスクに陥る～

●「庵治の魅力と庵治石の歴史」
●庵治石研磨

愛媛

香川

高知

徳島

●『あまそ子育て』

●青年技術士交流会(統括本部)の取組み
●『坂東伊藤蔵蔵所』における芸術文化活動
～ヘッドーウェン「第九」演奏を中心に～

【活動方針2】四国地域の青年技術士相互の交流を図る

昼の活動に引き続き、夜は必ず懇親会
四国本部の忘年会でも青年技術士は人気



【活動方針3】青年技術士として地域との交流を通じ社会貢献を図る

香川大学・徳島大学で開催されている子供向けの科学体験フェスティバルに出展



●『消波ブロックを作ろう!』

ミニチュア消波ブロックの作成

【H30年度】四国本部 青年技術士交流会の活動紹介

★青年技術士交流会の色々な活動

◎新合格者へのPR活動



四国四県で開催される
新合格者歓迎会でのPR

◎四国四県でのセミナー・見学会



◎四国本部青年技術士交流会 非公式ソング『昇る夕日』



◎フィールドワーク(お楽しみ会)



仁淀川バーベキュー(高知)

◎四国以外の地域本部との連携強化



H30 拡大委員会交流イベント 第45回技術士全国大会(福島)

◎学生・若手技術者の支援活動



四国本部の学生・若手技術者支援活動に
青年技術士交流会も協力

★2018委員名簿

香川県7名
徳島県5名
愛媛県5名
高知県3名
高齢化に負けず、
青年の気持ちを
忘れずに!

役職	氏名	所属県	役職	氏名	所属県
現委員長	池谷 聖	香川県	委員	谷野宮 竜浩	香川県
副委員長	佐藤 悦史	徳島県	委員	西沢 尚之	香川県
副委員長	白鳥 実	香川県	委員補佐	奥永 哲也	香川県
副委員長	中根 久幸	高知県	委員	池田 一郎	愛媛県
委員	木村 充宏	徳島県	委員	曾我部 潤	愛媛県
委員	田中 良典	徳島県	委員	東 豊一	愛媛県
委員	松田 秀和	徳島県	委員補佐	面地 琢也	愛媛県
委員補佐	武市 信	徳島県	委員補佐	藤浦 雅也	愛媛県
委員	大西 真人	香川県	委員	岡林 弘憲	高知県
委員	太田 昌秀	香川県	委員	片岡 寛志	高知県

◎情報発信の強化



☆MLサイトを利用した会員相互
の情報共有

☆FaceBookを開設し、青年技術士
交流会の活動を広くアピール!

【令和年度】四国本部 青年技術士交流会の活動予定

◎ 四国本部と連携した学生・若手技術者の支援



◎ 第46回 全国大会の開催

全国の各地域で青年技術士が
様々な交流・研鑽・社会貢献
活動を行っています。
全国の青年技術士と流活動が
行えるのも青年技術士の魅力！
今年はいよいよ四国(徳島)開催！



◎ 第4期新体制のスタート

第3期現体制

委員長:池谷 聖(香川県)
副委員長:白鳥 実(香川県)
副委員長:佐藤 悦史(徳島県)
副委員長:中根 久幸(高知県)

第4期新体制

委員長:白鳥 実(香川県)
副委員長:佐藤 悦史(徳島県)
副委員長:中根 久幸(高知県)
副委員長:松田 秀和(徳島県)

◎ 今年度の主な活動

- 5月 第21回青年技術士交流会(高知)
新合格者歓迎会(徳島:四国本部開催)
- 6月 他地域事業への参加(九州本部15周年記念)
新合格者歓迎会(愛媛:四国本部開催)
新合格者歓迎会(高知:四国本部開催)
他地域事業への参加(統括本部拡大大会)
- 第22回青年技術士交流会(徳島県徳島市)
- 7月 新合格者歓迎会(香川:四国本部年次大会)
- 8月 徳島大学科学体験フェスティバル
- 9月 他地域事業への参加(北海道本部30周年記念)
- 10月 技術士全国大会(徳島)
- 11月 かがわけん科学体験フェスティバル
- 12月 第23回青年技術士交流会&忘年会(愛媛県)
- 1月 第24回青年技術士交流会&新年会(香川県)

その他四国本部主催の様々な行事に参画

技術士制度説明会(修習技術者支援委員会)
第一次試験合格者祝賀会(修習技術者支援委員会)
男女共同参画推進小委員会

【令和年度】四国本部 青年技術士交流会の活動予定

★第46回 技術士全国大会(徳島)へ向けて準備中

大会公式行事の案内

第46回 技術士全国大会(四国・徳島)

『新たな世代(とき)へ、技術士の挑戦』
～四国・阿波からのメッセージ～



会期 2019年10月5日(土)～8日(火)
会場 あわぎんホール(徳島県徳島市)他

第46回 技術士全国大会(四国・徳島)

『新たな世代(とき)へ、技術士の挑戦』～四国・阿波からのメッセージ～
会期: 2019年10月5日(土)～8日(火)
会場: あわぎんホール(徳島県徳島市) 他

10月5日(土)	●専門会議 あわぎんホール ①社会政策および労働者 ②徳島県立徳島大学 ③徳島県立徳島大学 ④徳島県立徳島大学 ●ウェルカムパーティー 阿波舞踊ホテル
10月6日(日)	●分科会 第1: 総務 第2: 労務 第3: 労務 第4: 労務 ●大会式典 記念講演(スポンサーを招き、技術士の挑戦) 三宮 清純氏(スポンサー代表) ●ポスターセッション ●交流パーティー JPホテルクレメント徳島 ●バートナースツアー(予定) 9:00～17:00 高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 ●テクニカルツアー(予定) A 8:30～17:10 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 B 9:00～16:00 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 C 8:30～17:10 (A) 徳島 9:15～17:10 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 D 9:00～16:00 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学
10月7日(月)	●テクニカルツアー(予定) A 8:30～17:10 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 B 9:00～16:00 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 C 8:30～17:10 (A) 徳島 9:15～17:10 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 D 9:00～16:00 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学
10月8日(火)	●テクニカルツアー(予定) A 8:30～17:10 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 B 9:00～16:00 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 C 8:30～17:10 (A) 徳島 9:15～17:10 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 D 9:00～16:00 ・高知市立高知(徳島) 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学 徳島県立徳島大学



会場までのアクセス	会場までのアクセス
徳島駅 インターチェンジ インターチェンジ インターチェンジ インターチェンジ	徳島駅 インターチェンジ インターチェンジ インターチェンジ インターチェンジ
徳島駅 インターチェンジ インターチェンジ インターチェンジ インターチェンジ	徳島駅 インターチェンジ インターチェンジ インターチェンジ インターチェンジ

青年イベントの開催日程

- 10月4日(金)
青年前夜祭
- 10月5日(土)
青年テクニカルツアー(昼)
青年大懇親会(夜)
青年2次会・3次会?(深夜)
青年4次会・5次会?(早朝)
- 10月6日(日)
第4分科会
～楽しく充実した働き方へ
青年技術士の挑戦～



2019年度 拡大委員会 本支部交流会議

2019年6月15日

九州本部 青年技術士交流委員会 紹介資料・活動報告資料

公益社団法人 日本技術士会 九州本部 青年技術士交流委員会

委員長 永岩 研一

2019年度 拡大委員会 本支部交流会議

九州本部 青年技術士交流委員会の紹介

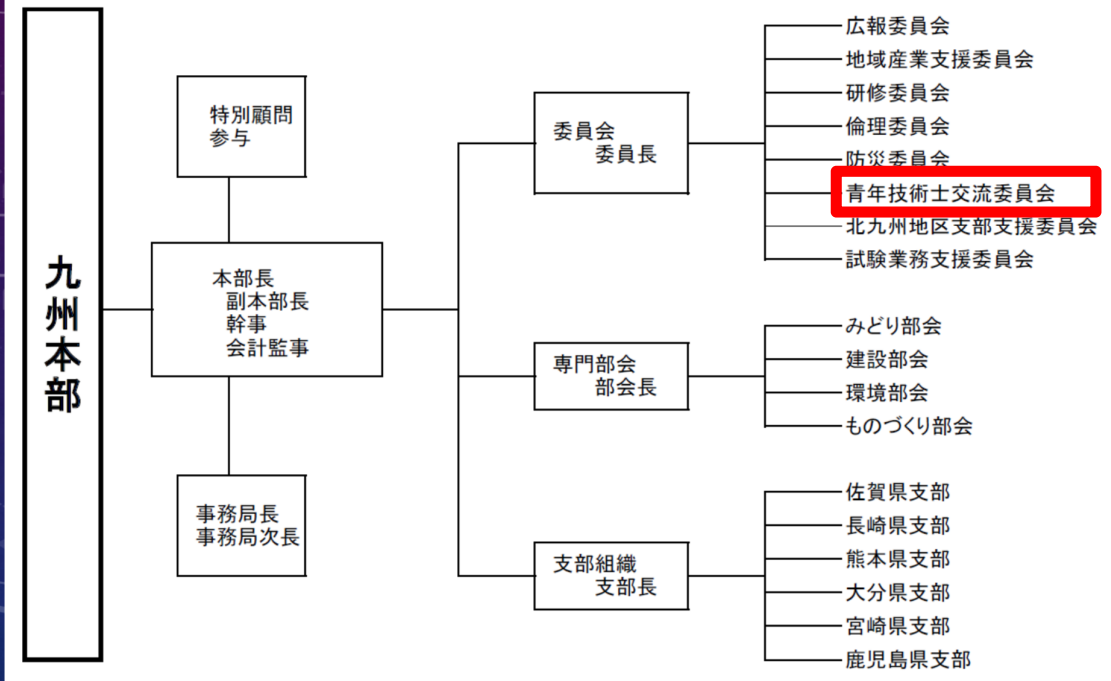
九州本部 青年技術士交流委員会
略して・・・

「九青技交委」
(せいぎこう)



九州本部 青年技術士交流委員会の紹介

平成29年7月6日現在



九州本部 青年技術士交流委員会の紹介

公益社団法人 日本技術士会 九州本部

九州本部、他の委員会・部会、他の団体（共催、後援等）のCPD、講演会、見学会など

青年技術士交流委員会
九青技交委

案内・参加者募集
(運営Gからの転送)

申込・参加

案内・参加者募集
(運営Gからの転送)

申込・参加

委員

主なイベント・活動

運営 G

副委員長

補佐・代理

委員長

会計

ITかわら版 G

研鑽 G

交流 G

普及 G

各県
担当
G

企画・準備

運営委員会参加

企画・準備

運営委員会参加

企画・準備

運営委員会参加

管理・更新

運営委員会参加

九青技交委活動の広報
名簿・ML 管理
IT環境・広報環境整備

夏休み自由研究教室（8月）

公開講演会（12月）

合格祝賀 CPD（4月）

見学会（6月）

納涼会（8月）望年会（12月）

合格祝賀会（4月）

技術士による大学・高专講義

女性技術者・女子学生との座談会

イベントの案内・参加者募集

イベントへの申込・参加

会員

案内・参加者募集
(運営Gからの転送)

申込・参加

案内・参加者募集
(運営Gからの転送)

申込・参加

全国大会、拡大委員会など他の地域本部の青年技術士交流委員会が主催するイベント

九州本部 青年技術士交流委員会の紹介

2019年度 九青技交委は新たな委員長・副委員長の
の下で さらなる高みへ・・・



松永委員長



山本副委員長



永岩副委員長

九州本部「九青技交委」活動報告

九青技交委 活動の3本柱 ①研鑽活動

合格祝賀CPD・見学会・夏休み自由研究教室・公開講演会・研鑽会(定例)

～夏休み自由研究教室(8月)～
大学や企業等と協同し科学技術に触れ合う機会を
子供たちへ！(夏休みの宿題支援)



平成27年in福岡空港



平成28年in安川電機



平成29年inKIGS



平成30年in福岡市植物園

STOP理科離れ！
子供たちの科学や技術
に対する興味関心を育
てることを目的に毎年
8月に開催。
身近な技術から先端技
術まで子供の興味を引
くテーマを熟考して企
画しますが、基本的に
大人が熱くなりがち。
今年で12年目！！

～見学会(6月)～
九州各地の技術遺産や施設、文化や風土など興味深い
場所を見学。(一泊二日)



平成27年見学会in都城
林業の現状と課題(座学・現場)



平成29年見学会in長崎
三菱重工業様工場見学ほか



平成30年見学会in鹿児島
川内原子力発電所見学ほか

～公開講演会(12月)～
話題性のある技術をテーマに、専門家と一般受講者との
距離の近い講演会。

2018年12月15日講演(九州産業大学 12号館1階12107番教室)
「地域公共交通への情報通信技術(ICT)支援の取り組み」九州産業大学准教授 稲永 健太郎様
「イメージセンサの開発と物理・化学」ソーニャテクノロジー株式会社 岡治 様



九州本部「九青技交委」活動報告

九青技交委 活動の3本柱

②普及活動

- 技術士制度説明講義・JABEE認定課程支援活動(大学・高専での講義)
- 女性技術者・女子学生 懇談会



JABEE制度の活用促進や将来の技術士取得に向け、現場の技術士が講義。
(技術士の責務や意義、やりがいなど)



女性技術者や技術者をめざす女子学生と御茶会(悩み相談やアドバイス)。
平成30年度から開催

③交流活動

もちろん！
あらゆる機会を捉えては、
呑む、語る



平成30年度 技術士試験(一次及び二次)合格祝賀CPD(研鑽会)

九州本部「九青技交委」活動報告

九青技交委 活動の発信

技術士紹介動画「技術士ってなに？」
YouTubeで配信中！(現在 約4,000アクセス)

Facebookで活動配信中！



活動年鑑 14
青年技術士交流委員会